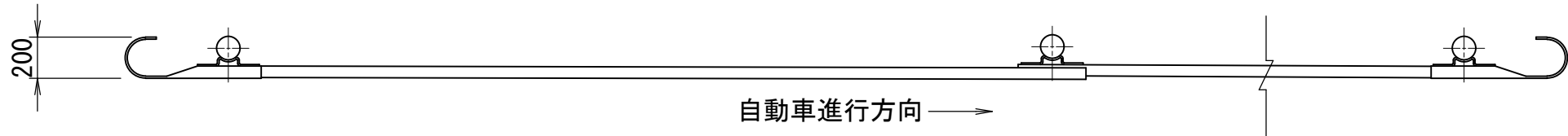


番号	大分類	中分類	小分類	工種名	作成年月
201	02	GR	001	ガードレール（B種・土中式）	R2. 07
	交通安全施設類	ガードレール	ガードレール（B種・土中式）－（Gr-B-4E）		S=1/30

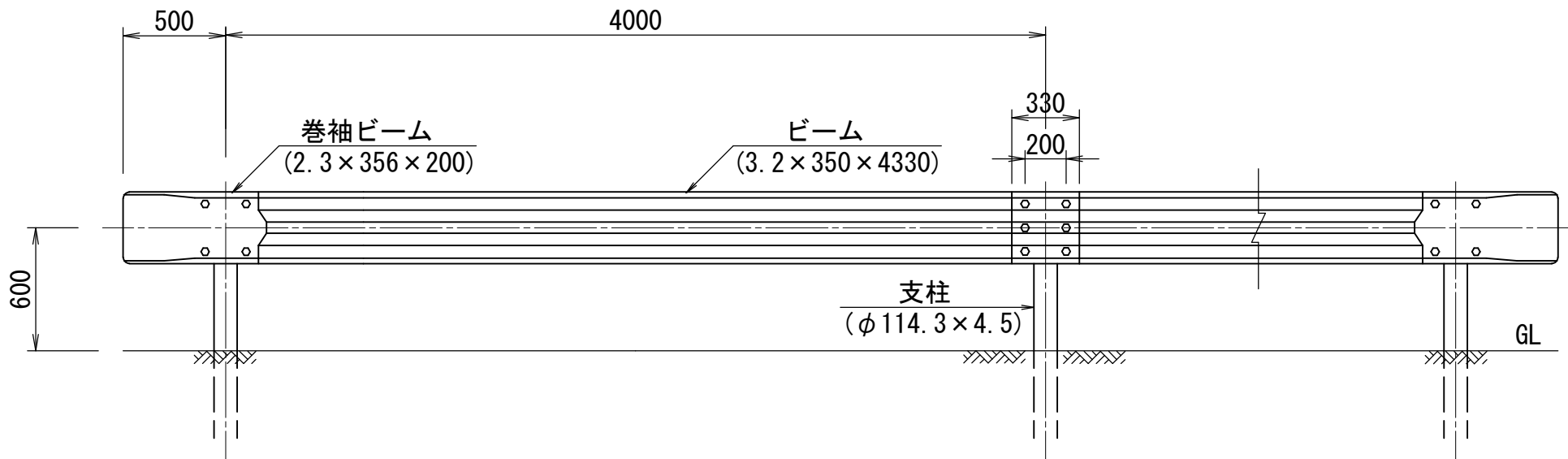
上面図

（土中式）



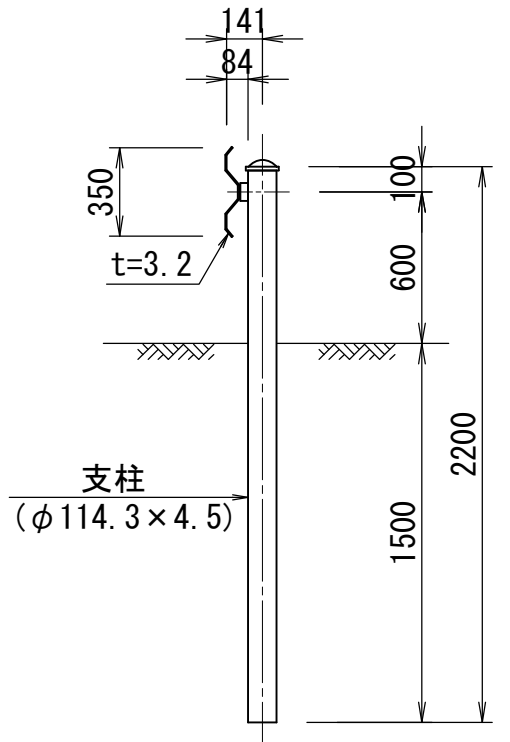
正面図

（土中式）



断面図

（土中式）



〈仕様〉

- (1) 色については設計図書等で指定がある場合を除き「公共空間
景観形成ガイドライン」による。

〈適用条件〉

- (1) 防護柵の設置場所、種別及び型式の選定については、「防護
柵の設置基準・同解説（（社）日本道路協会）」および「車両用
防護柵標準仕様・同解説（（社）日本道路協会）」による。

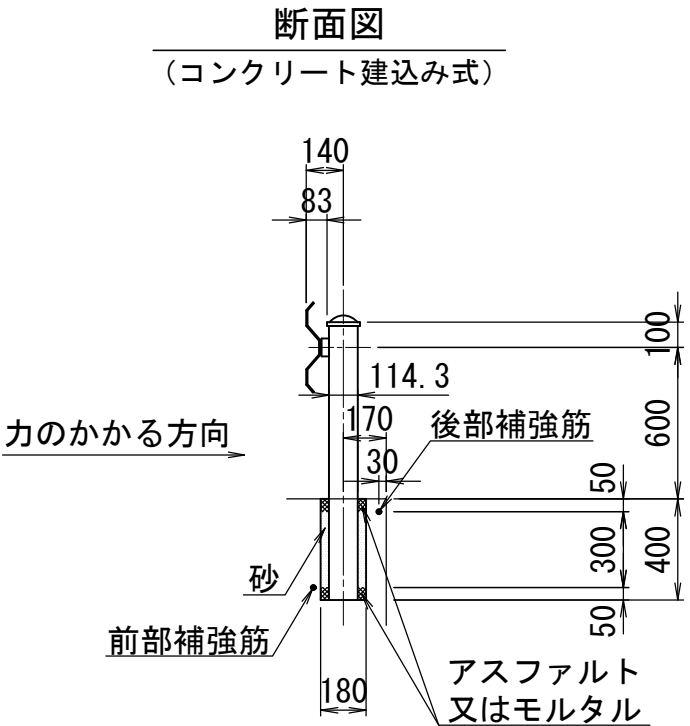
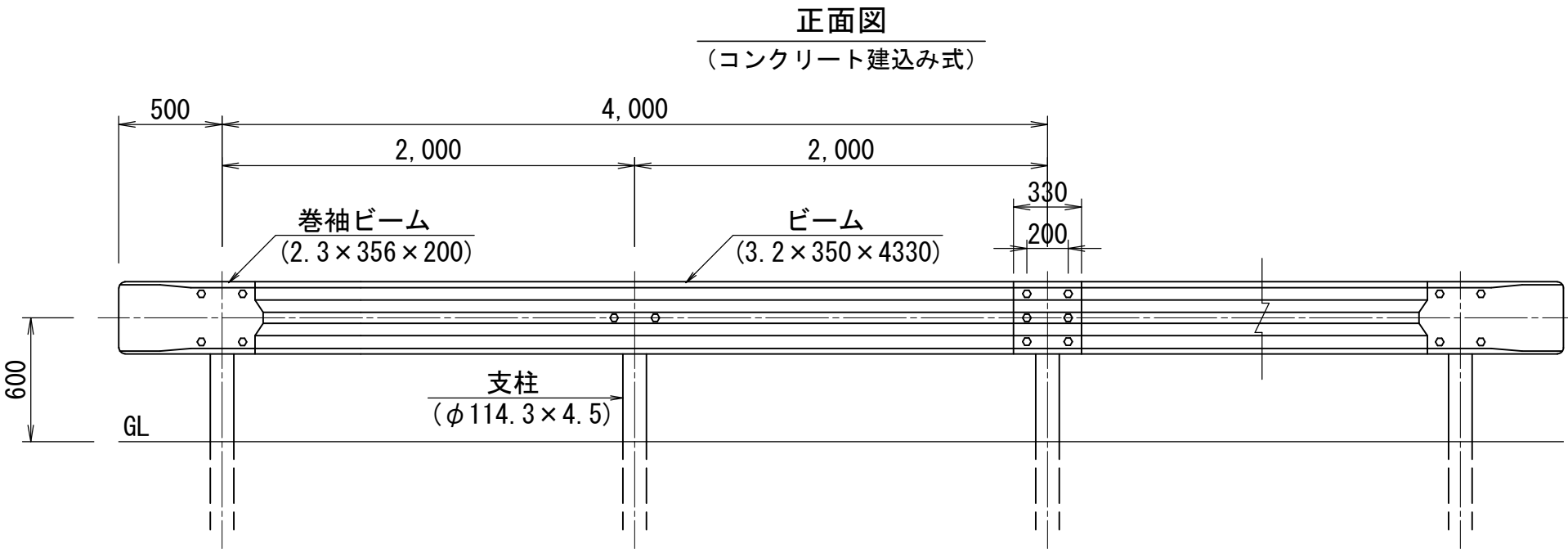
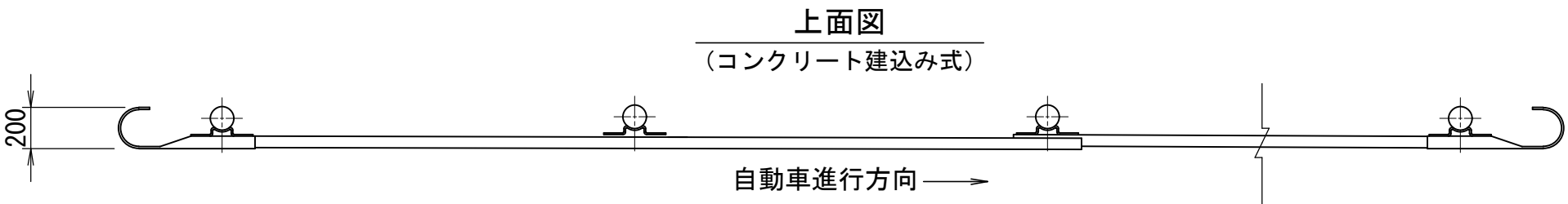
〈注意事項〉

- (1) ビーム中心高さは、GLからの高さをいう。ただし、縁石、ア
スカープ等のある場合は、その上端からの高さをいう。

材料表（100m当り）

ガードレール（B種）
Gr-B-4E
（m）
100.0

番号	大分類	中分類	小分類	工種名	作成年月
202	02	GR	002	ガードレール（B種・コンクリート建込み式）	R3. 10
	交通安全施設類	ガードレール	ガードレール（B種・コンクリート建込み式） - （Gr-B-2B）		S=1/30



材料表 (20m当り)

ガードレール(B種)	砂	アスファルト又はモルタル	鉄筋
Gr-B-2B			D13
(m)	(m3)	(m3)	(t)
20.0	0.05	0.02	0.030

〈仕様〉

- コンクリート建込みの場合、構造物の当該部分が無筋コンクリート又は、それに近い場合補強鉄筋を別途計上する。また支柱と構造物の間隙には上下にアスファルト又はモルタルでシールし、中間部には砂を充填する。
- 色については設計図書等で指定がある場合を除き「公共空間景観形成ガイドライン」による。

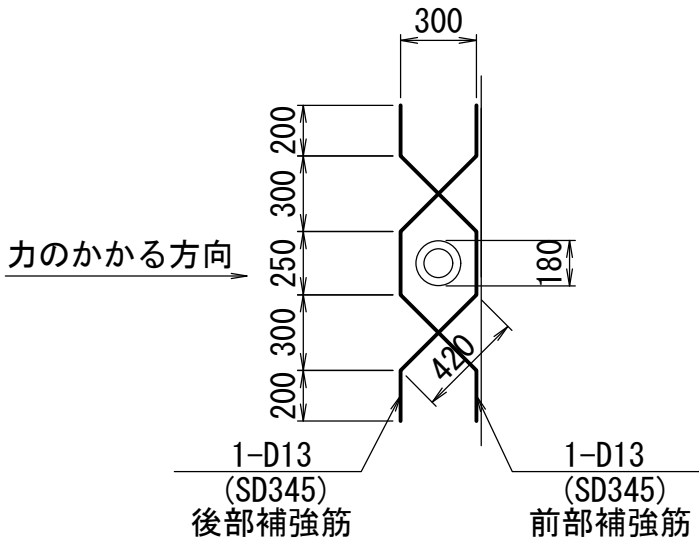
〈適用条件〉

- 防護柵の設置場所、種別及び型式の選定については、「防護柵の設置基準・同解説((社)日本道路協会)」および「車両用防護柵標準仕様・同解説((社)日本道路協会)」による。

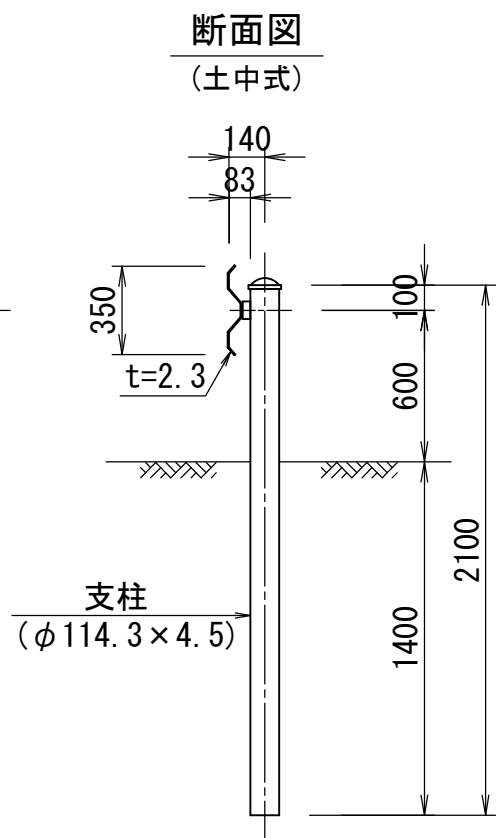
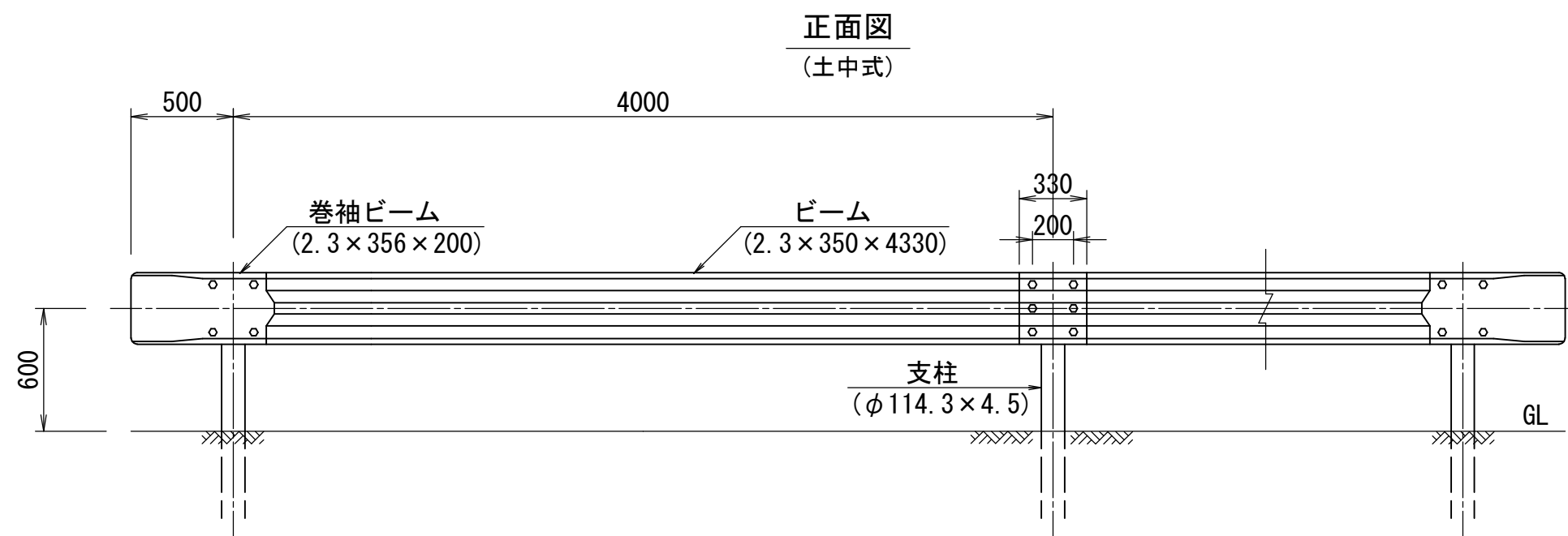
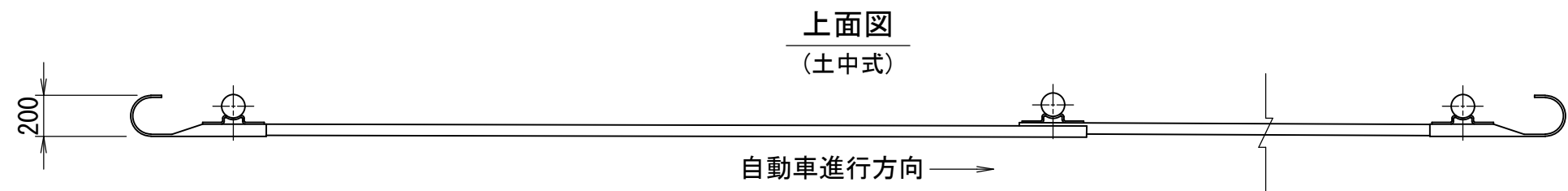
〈注意事項〉

- ビーム中心高さは、GLからの高さをいう。ただし、縁石、アスカープ等のある場合は、その上端からの高さをいう。

補強筋配筋図



番号	大分類	中分類	小分類	工種名	作成年月
203	02	GR	003	ガードレール（C種・土中式）	R2. 07
	交通安全施設類	ガードレール	ガードレール（C種・土中式）－（Gr-C-4E）		S=1/30



材料表（100m当り）

ガードレール(C種)
Gr-C-4E
(m)
100.0

〈仕様〉

- (1) 色については設計図書等で指定がある場合を除き「公共空間
景観形成ガイドライン」による。

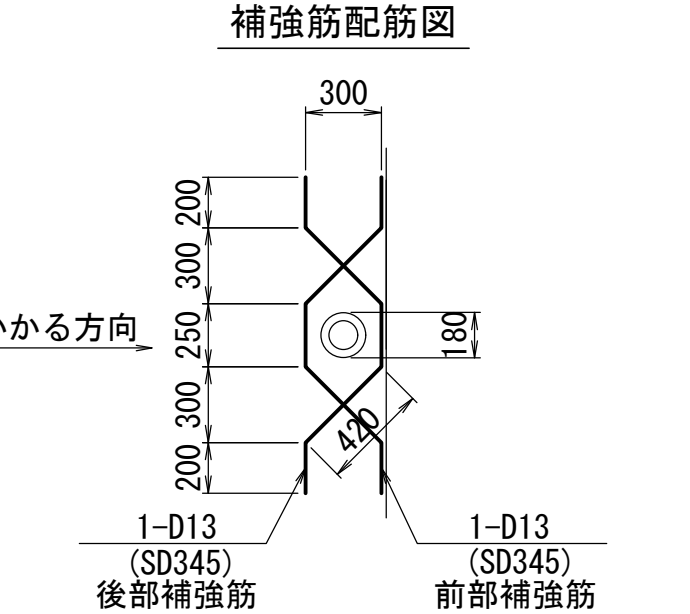
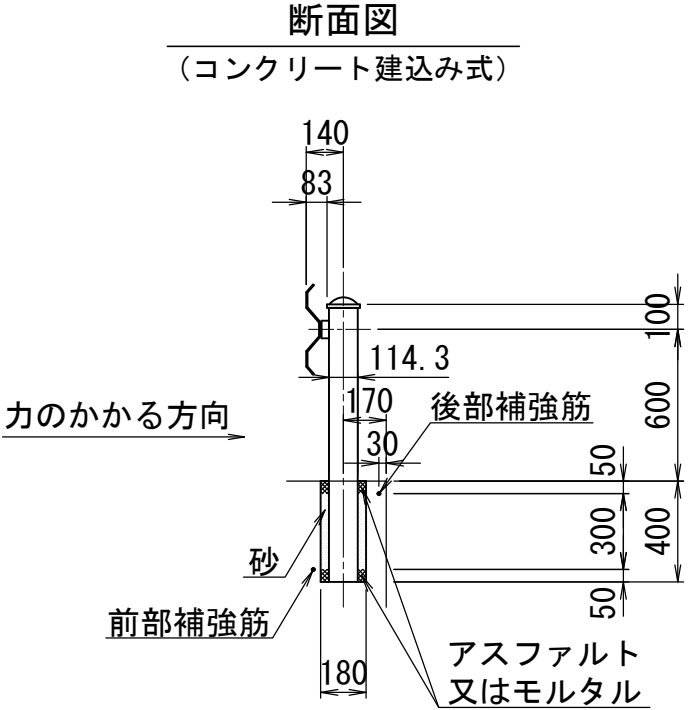
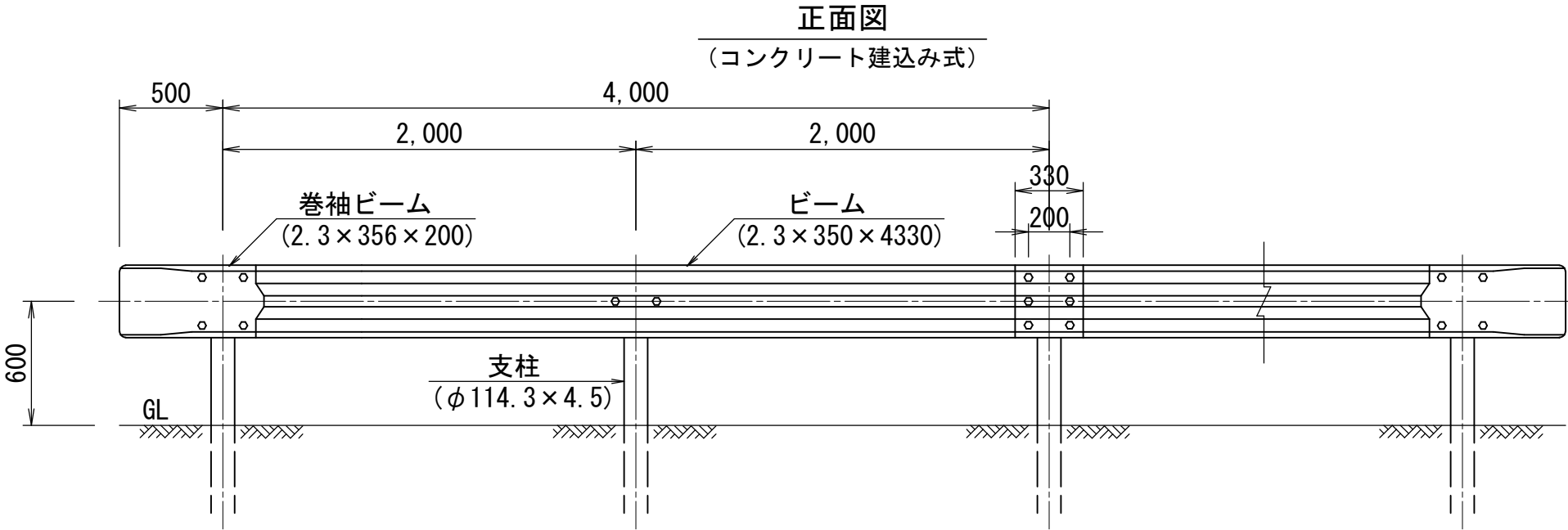
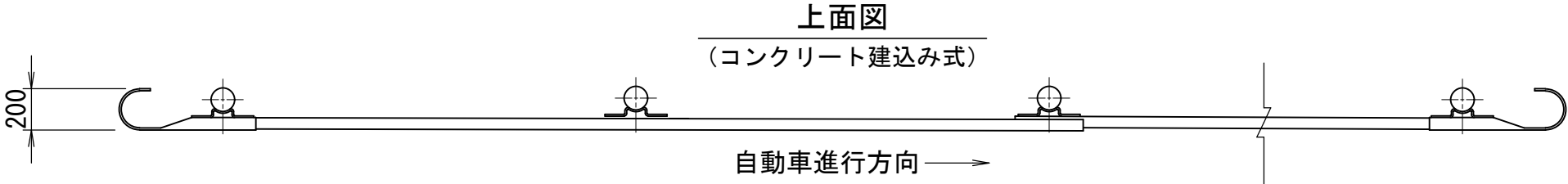
〈適用条件〉

- (1) 防護柵の設置場所、種別及び型式の選定については、「防護
柵の設置基準・同解説((社)日本道路協会)」および「車両用
防護柵標準仕様・同解説((社)日本道路協会)」による。

〈注意事項〉

- (1) ビーム中心高さは、GLからの高さをいう。ただし、縁石、ア
スカープ等のある場合は、その上端からの高さをいう。

番号	大分類	中分類	小分類	工種名	作成年月
204	02	GR	004	ガードレール（C種・コンクリート建込み式）	R3. 10
	交通安全施設類	ガードレール	ガードレール（C種・コンクリート建込み式） - （Gr-C-2B）		S=1/30



材料表 (20m当り)

ガードレール(C種)	砂	アスファルト又はモルタル	鉄筋
Gr-C-2B			D13
(m)	(m3)	(m3)	(t)
20.0	0.05	0.02	0.030

〈仕様〉

- コンクリート建込みの場合、構造物の当該部分が無筋コンクリート又は、それに近い場合補強鉄筋を別途計上する。また支柱と構造物の間隙には上下にアスファルト又はモルタルでシールし、中間部には砂を充填する。
- 色については設計図書等で指定がある場合を除き「公共空間景観形成ガイドライン」による。

〈適用条件〉

- 防護柵の設置場所、種別及び型式の選定については、「防護柵の設置基準・同解説((社)日本道路協会)」および「車両用防護柵標準仕様・同解説((社)日本道路協会)」による。

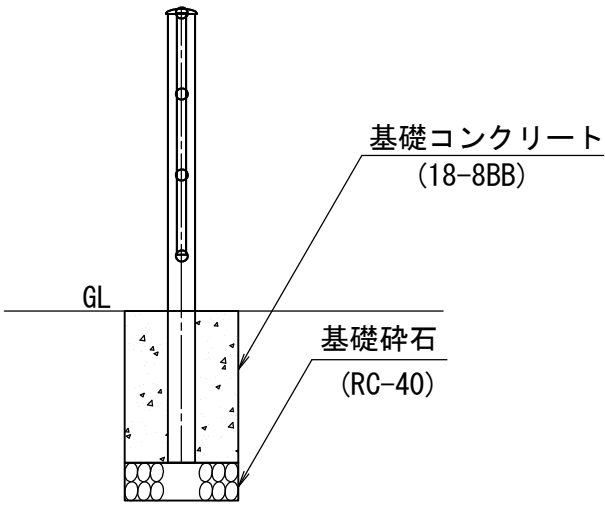
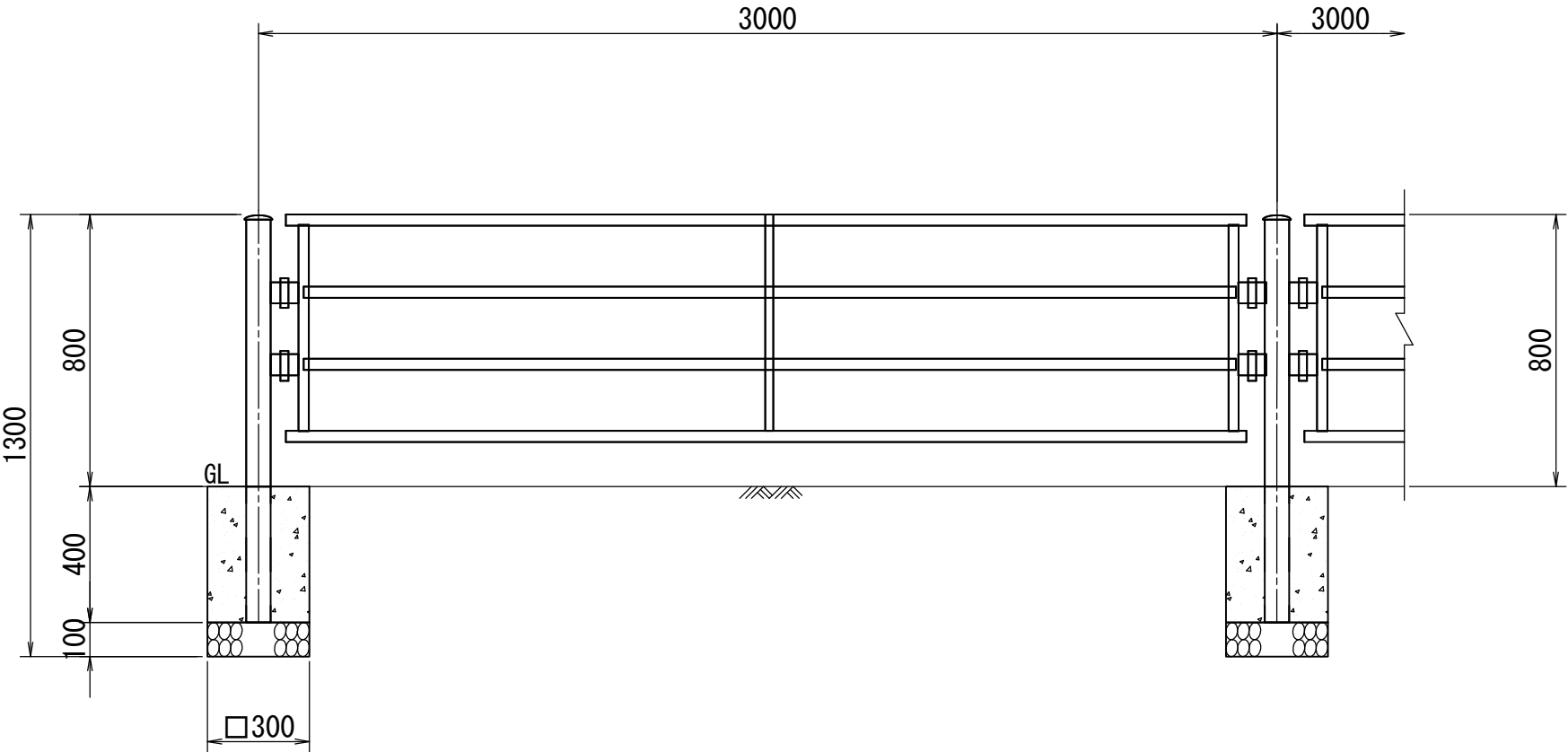
〈注意事項〉

- ビーム中心高さは、GLからの高さをいう。ただし、縁石、アスカープ等のある場合は、その上端からの高さをいう。

番号	大分類	中分類	小分類	工種名	作成年月
205	02	TBS	001	転落（横断）防止柵（横棧型・現場打ち基礎）	R2. 07
	交通安全施設類	転落（横断）防止柵	転落（横断）防止柵（横棧型・現場打ち基礎）－（H=800）		S=1/20

正面図

断面図



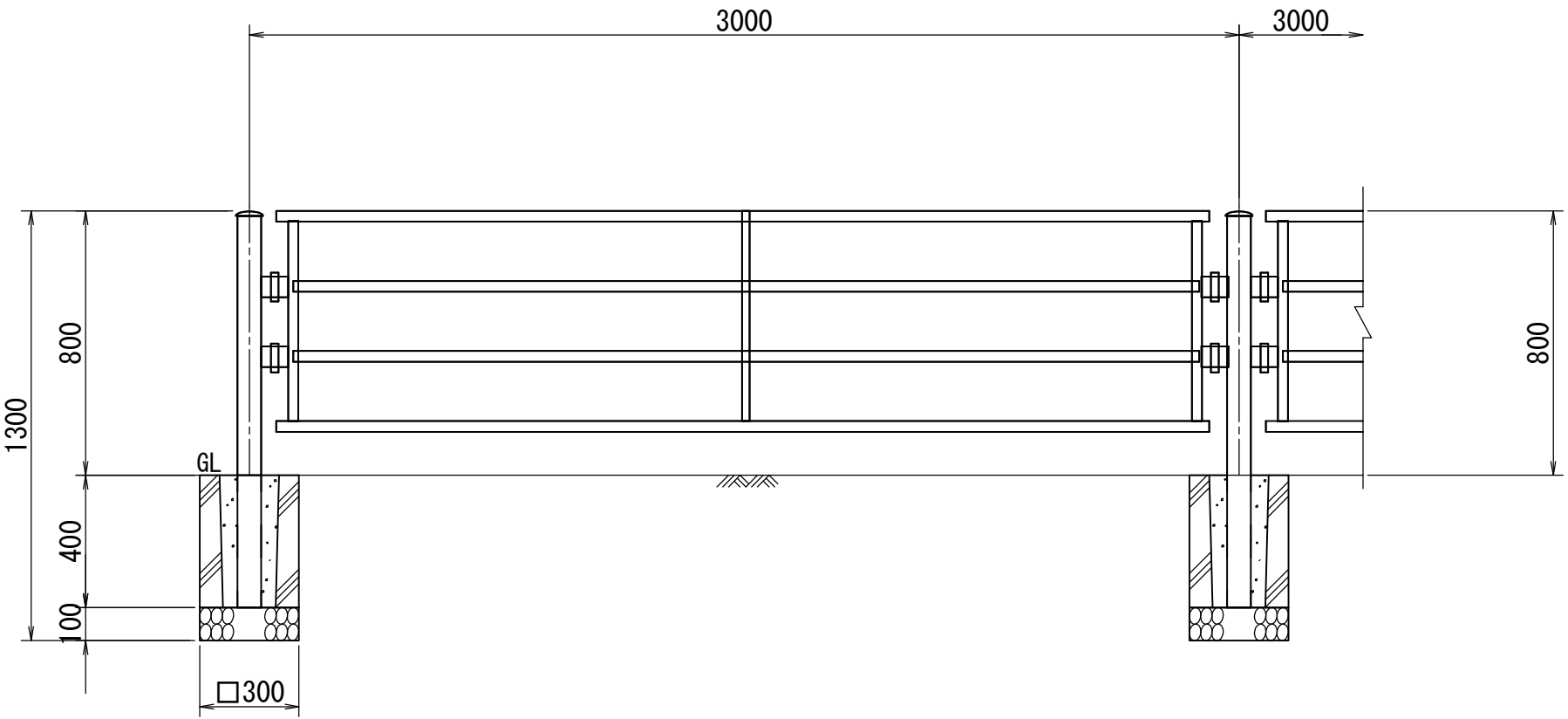
材料表 (30m当り)

横断防止柵 (横棧型)	基礎コンクリート	基礎砕石	型枠
H=800	18-8BB	RC-40 t=100	
(m)	(m3)	(m2)	(m2)
30.0	0.36	0.90	4.8

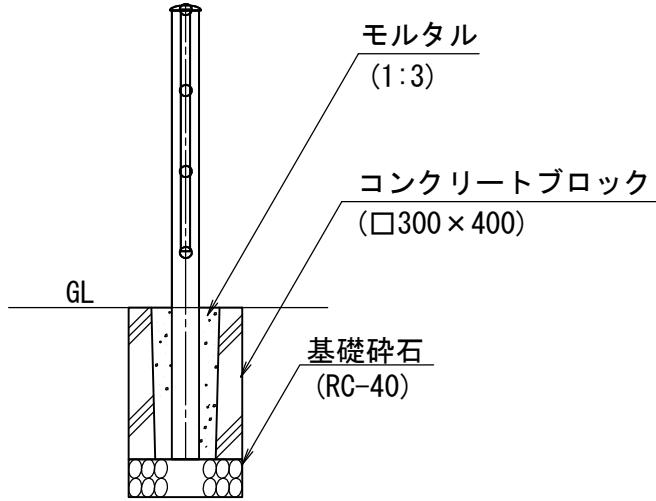
＜仕様＞
(1) 設計強度の種別はP種とする。
(2) 色については設計図書等で指定がある場合を除き「公共空間景観形成ガイドライン」による。

番号	大分類	中分類	小分類	工種名	作成年月
206	02	TBS	002	転落（横断）防止柵（横桟型・プレキャスト基礎）	R2. 07
	交通安全施設類	転落（横断）防止柵	転落（横断）防止柵（横桟型・プレキャスト基礎） - （H=800）		S=1/20

正面図



断面図



材料表 (30m当り)

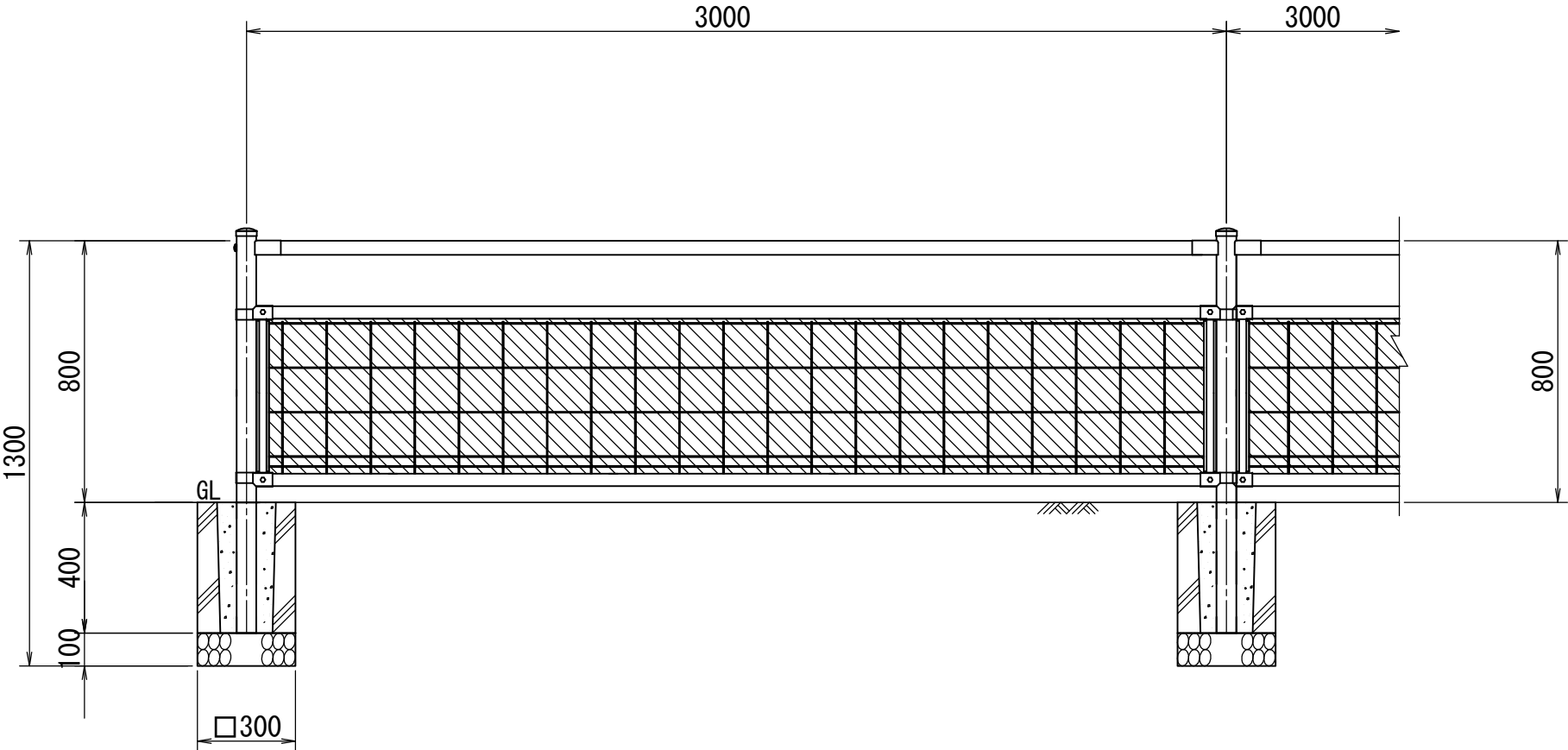
横断防止柵 (横桟型)	コンクリートブロック	基礎砕石
H=800	□300×400	RC-40 t=100
(m)	(個)	(m2)
30.0	10.0	0.90

〈仕様〉

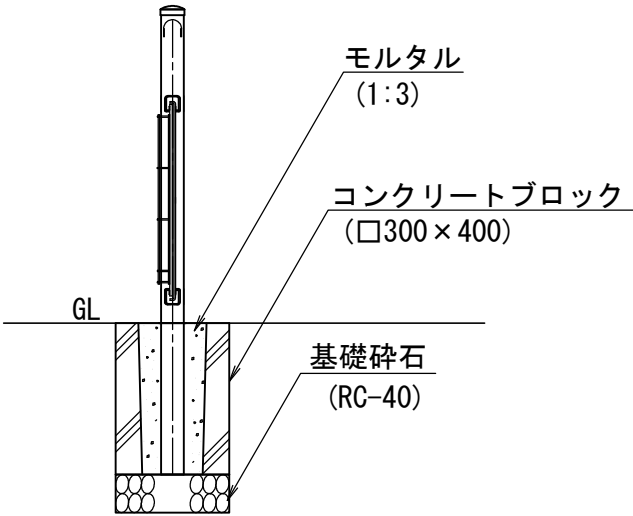
- (1) 設計強度の種別はP種とする。
- (2) 色については設計図書等で指定がある場合を除き「公共空間景観形成ガイドライン」による。

番号	大分類	中分類	小分類	工種名	作成年月
208	02	TBS	004	転落（横断）防止柵（植栽兼用・プレキャスト基礎）	R2. 07
	交通安全施設類	転落（横断）防止柵	転落（横断）防止柵（植栽兼用・プレキャスト基礎） - （H=800）		S=1/20

正面図



断面図



材料表 (30m当り)

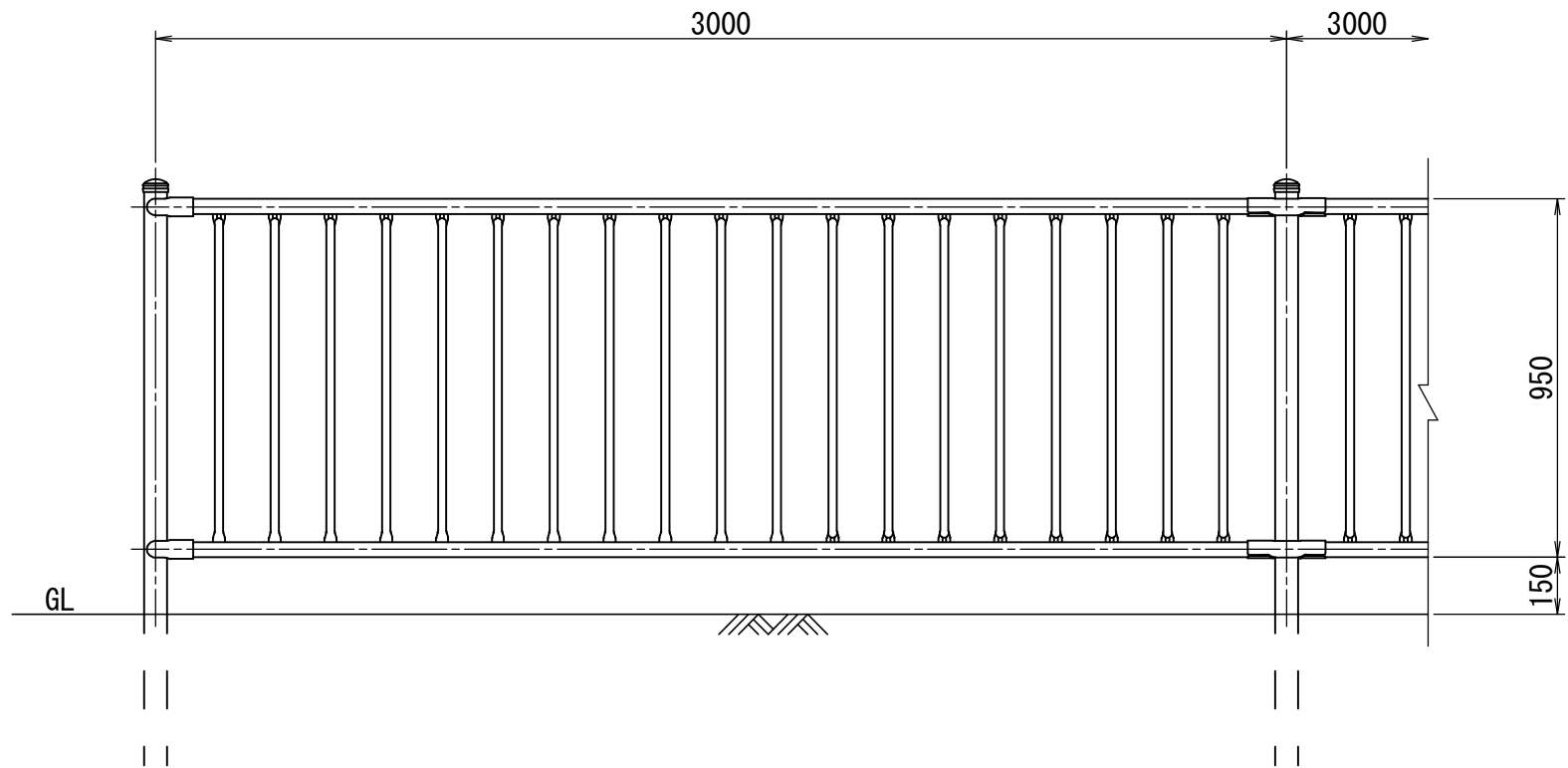
横断防止柵 (植栽兼用)	コンクリートブロック	基礎碎石
H=800	□300×400	RC-40 t=100
(m)	(個)	(m2)
30.0	10.0	0.90

<仕様>

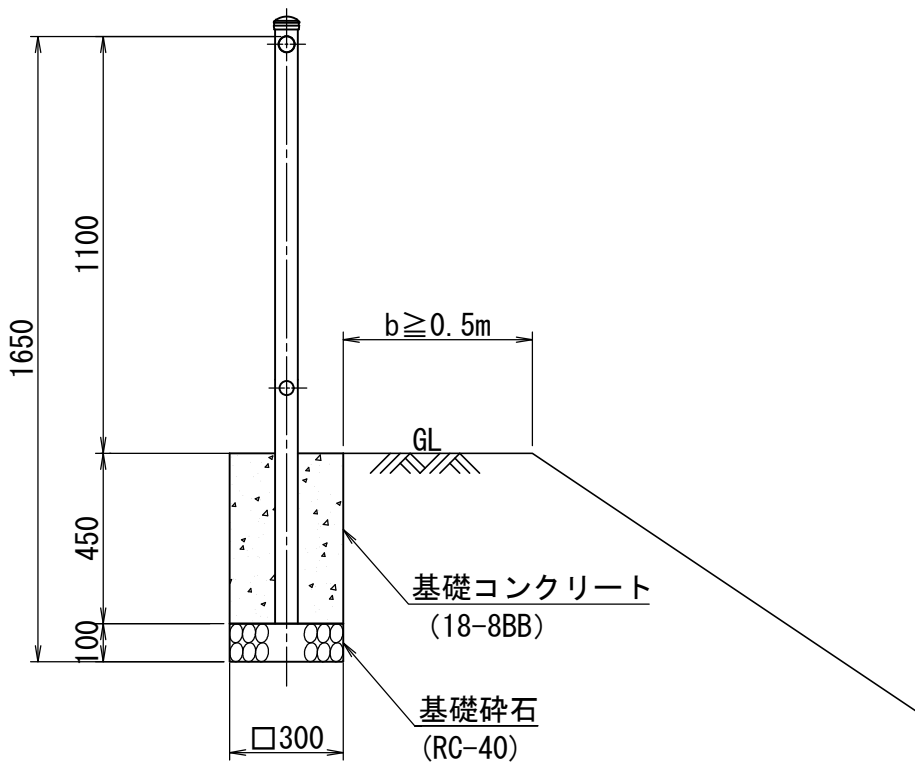
- (1) 設計強度の種別はP種とする。
- (2) 色については設計図書等で指定がある場合を除き「公共空間景観形成ガイドライン」による。

番号	大分類	中分類	小分類	工種名	作成年月
209	02	TBS	005	転落（横断）防止柵（縦桟型・現場打ち基礎）	R2. 07
	交通安全施設類	転落（横断）防止柵	転落（横断）防止柵（縦桟型・現場打ち基礎）－（H=1100）		S=1/20

正面図



断面図



材料表 (30m当り)

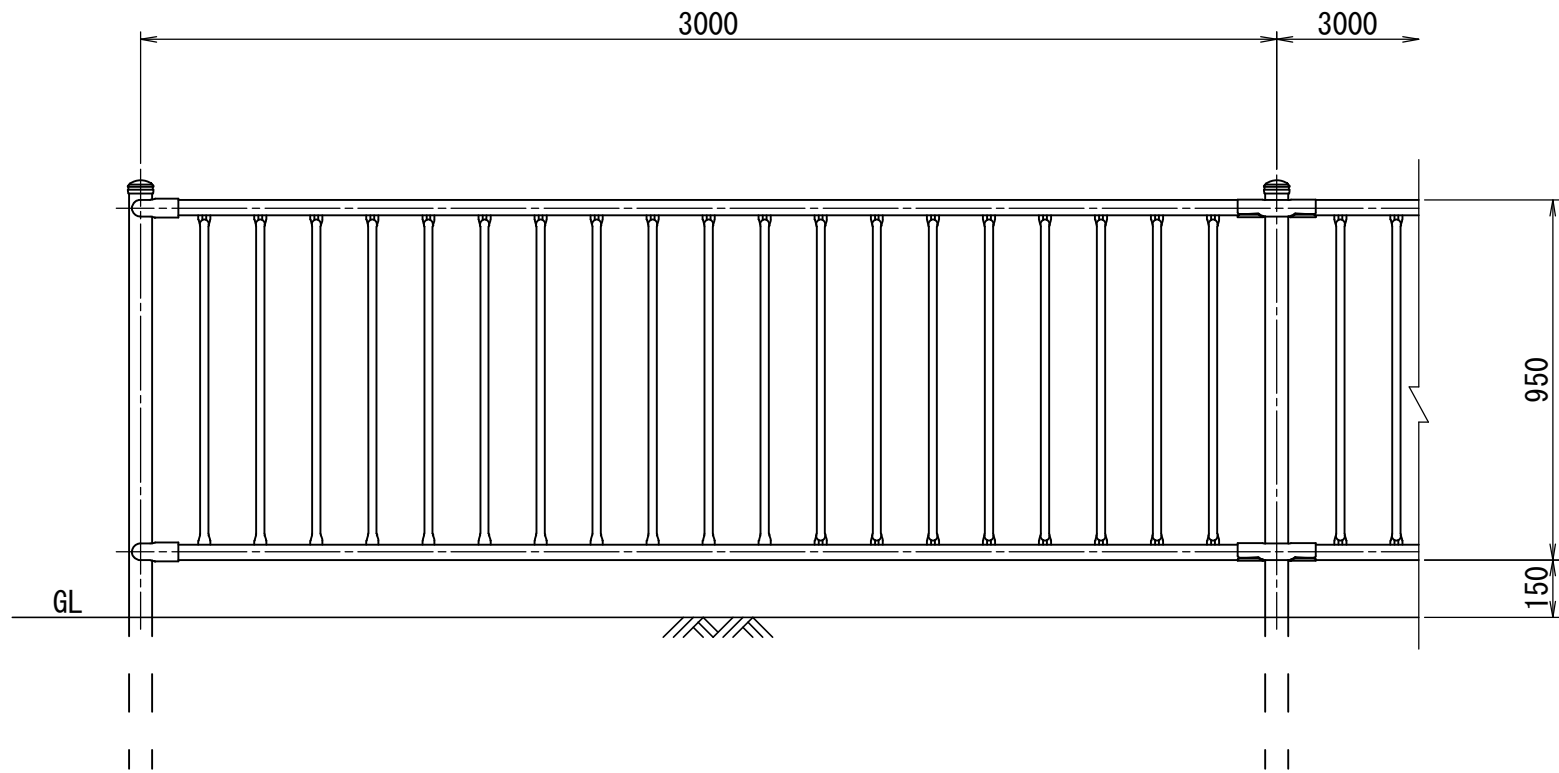
転落防止柵 (縦桟型)	基礎コンクリート	基礎碎石	型枠
H=1100	18-8BB	RC-40 t=100	
(m)	(m3)	(m2)	(m2)
30.0	0.41	0.90	5.4

＜注意事項＞
埋込深さ450mmは、路肩側方余裕幅50cm以上で中位以上の地耐力を有する土質条件（N値10程度の砂質地盤）の場合である。

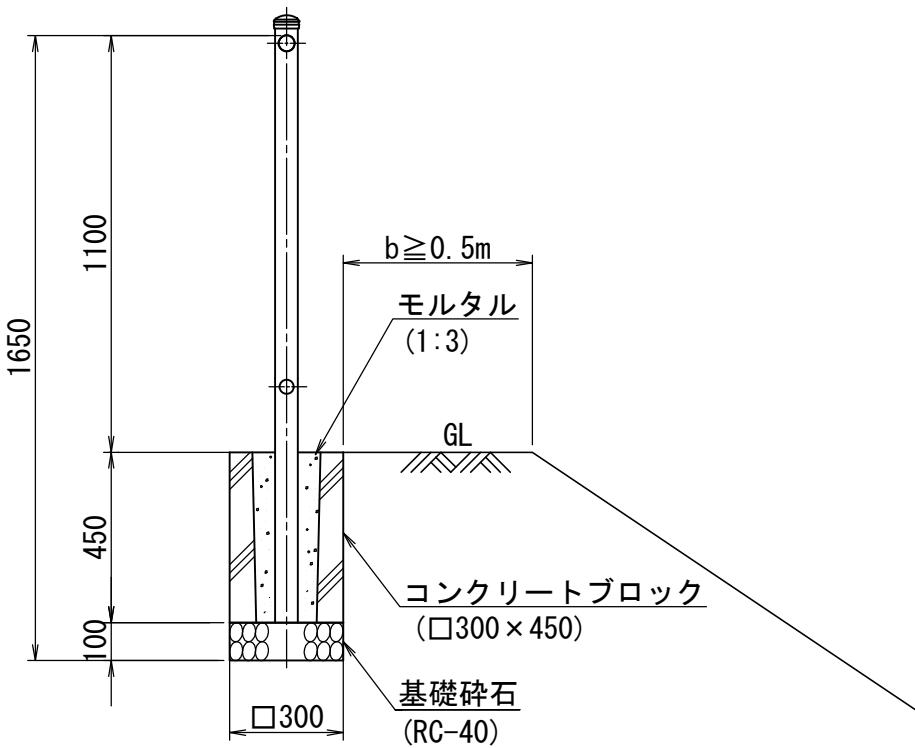
＜仕様＞
(1) 設計強度の種別は、P種とする。
(2) 色については設計図書等で指定がある場合を除き「公共空間景観形成ガイドライン」による。

番号	大分類	中分類	小分類	工種名	作成年月
210	02	TBS	006	転落（横断）防止柵（縦桟型・プレキャスト基礎）	R2. 07
	交通安全施設類	転落（横断）防止柵	転落（横断）防止柵（縦桟型・プレキャスト基礎）－（H=1100）		S=1/20

正面図



断面図



材料表 (30m当り)

横断防止柵 （縦桟型）	コンクリートブロック	基礎碎石
H=1100	□300×450	RC-40 t=100
(m)	(個)	(m2)
30.0	10.0	0.90

＜仕様＞

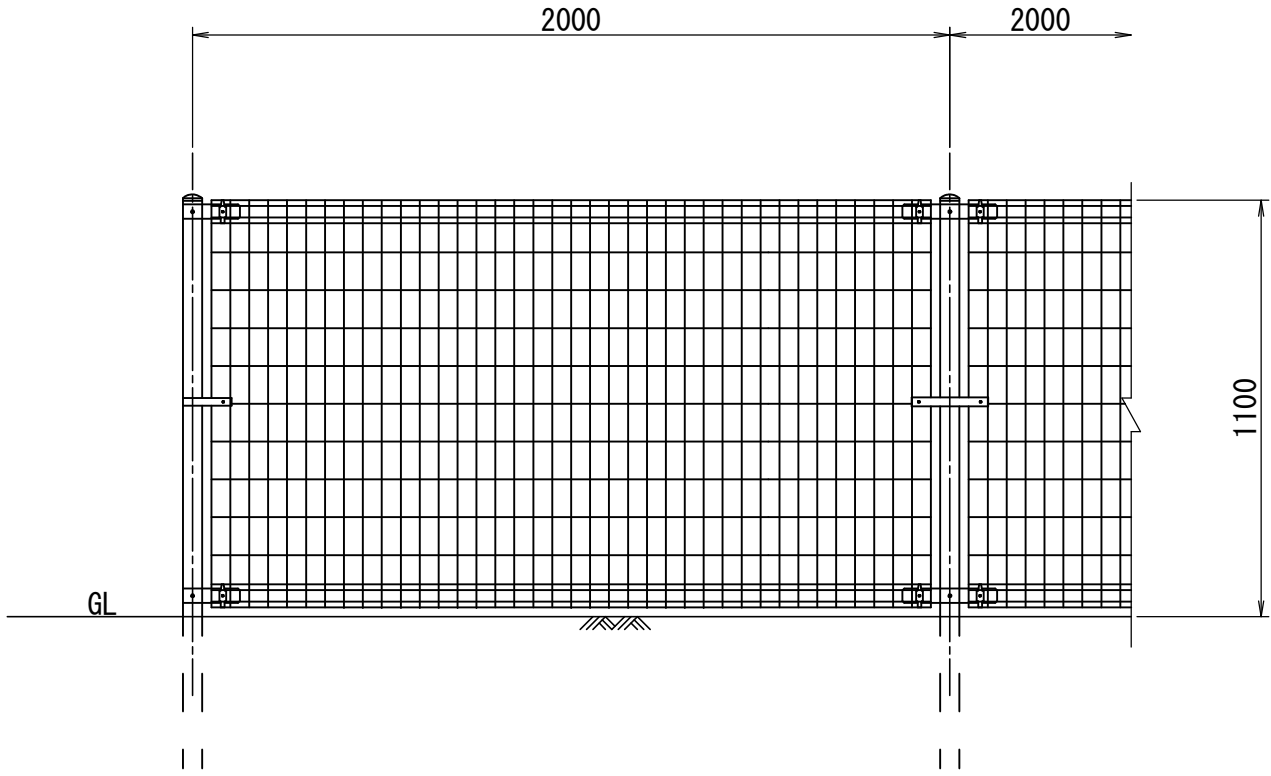
- (1) 設計強度の種別は、P種とする。
- (2) 色については設計図書等で指定がある場合を除き「公共空間景観形成ガイドライン」による。

＜注意事項＞

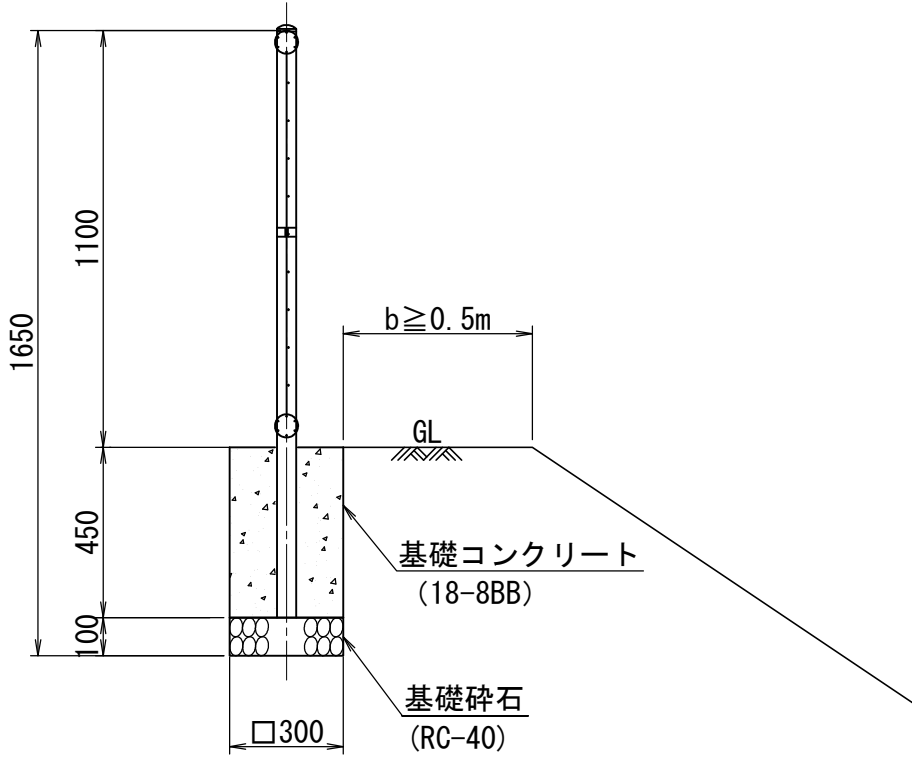
埋込深さ450mmは、路肩側方余裕幅50cm以上で中位以上の地耐力を有する土質条件（N値10程度の砂質地盤）の場合である。

番号	大分類	中分類	小分類	工種名	作成年月
211	02	TBS	007	転落（横断）防止柵（メッシュ・現場打ち基礎）	R6.04
	交通安全施設類	転落（横断）防止柵	転落（横断）防止柵（メッシュ・現場打ち基礎）－（H=1100）		S=1/20

正面図



断面図



材料表 (30m当り)

横断防止柵 (メッシュ)	基礎コンクリート	基礎碎石	型枠
H=1100	18-8BB	RC-40 t=100	
(m)	(m3)	(m2)	(m2)
30.0	0.61	1.4	8.1

＜仕様＞

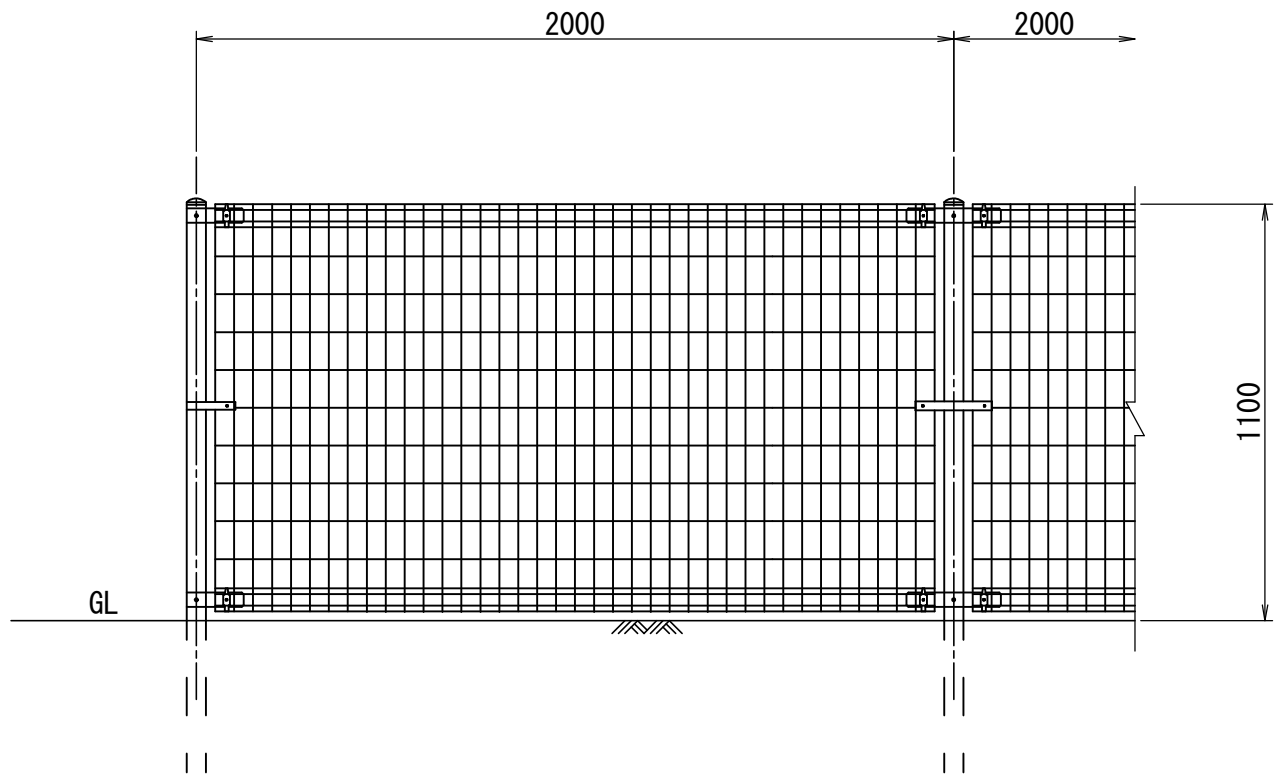
- (1) 設計強度の種別は、P種とする。
- (2) 色については設計図書等で指定がある場合を除き「公共空間景観形成ガイドライン」による。

＜注意事項＞

埋込深さ450mmは、路肩側方余裕幅50cm以上で中位以上の地耐力を有する土質条件（N値10程度の砂質地盤）の場合である。

番号	大分類	中分類	小分類	工種名	作成年月
212	02	TBS	008	転落（横断）防止柵（メッシュ・プレキャスト基礎）	R6.04
	交通安全施設類	転落（横断）防止柵	転落（横断）防止柵（メッシュ・プレキャスト基礎）－（H=1100）		S=1/20

正面図



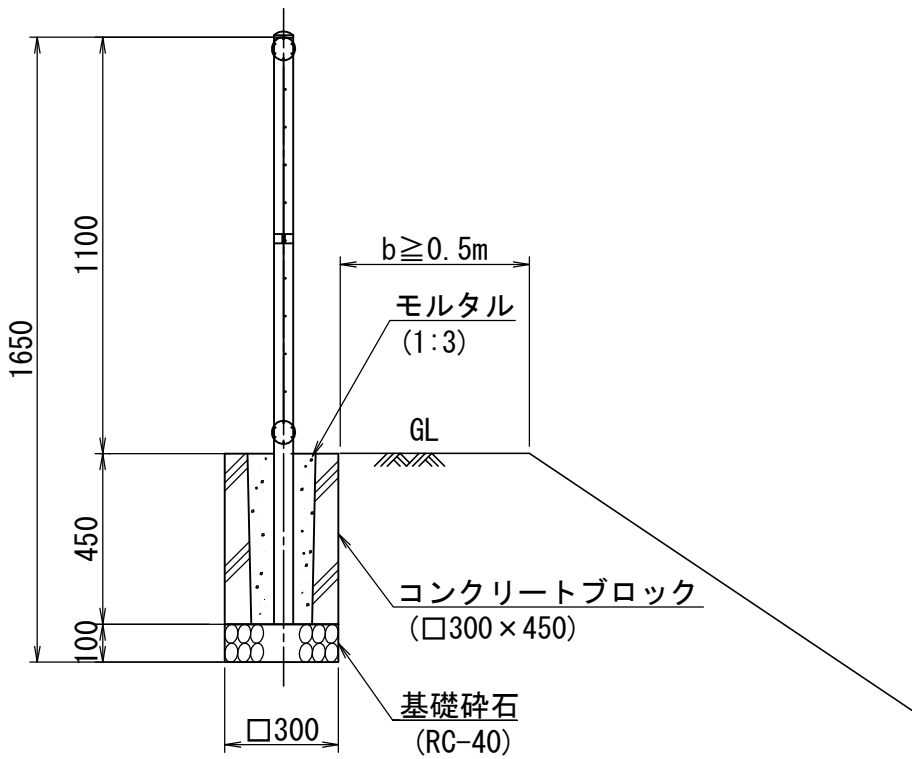
材料表 (30m当り)

転落防止柵 (メッシュ)	コンクリートブロック	基礎碎石
H=1100	□300×450	RC-40 t=100
(m)	(個)	(m2)
30.0	15.0	1.4

＜仕様＞

- (1) 設計強度の種別は、P種とする。
- (2) 色については設計図書等で指定がある場合を除き「公共空間景観形成ガイドライン」による。

断面図

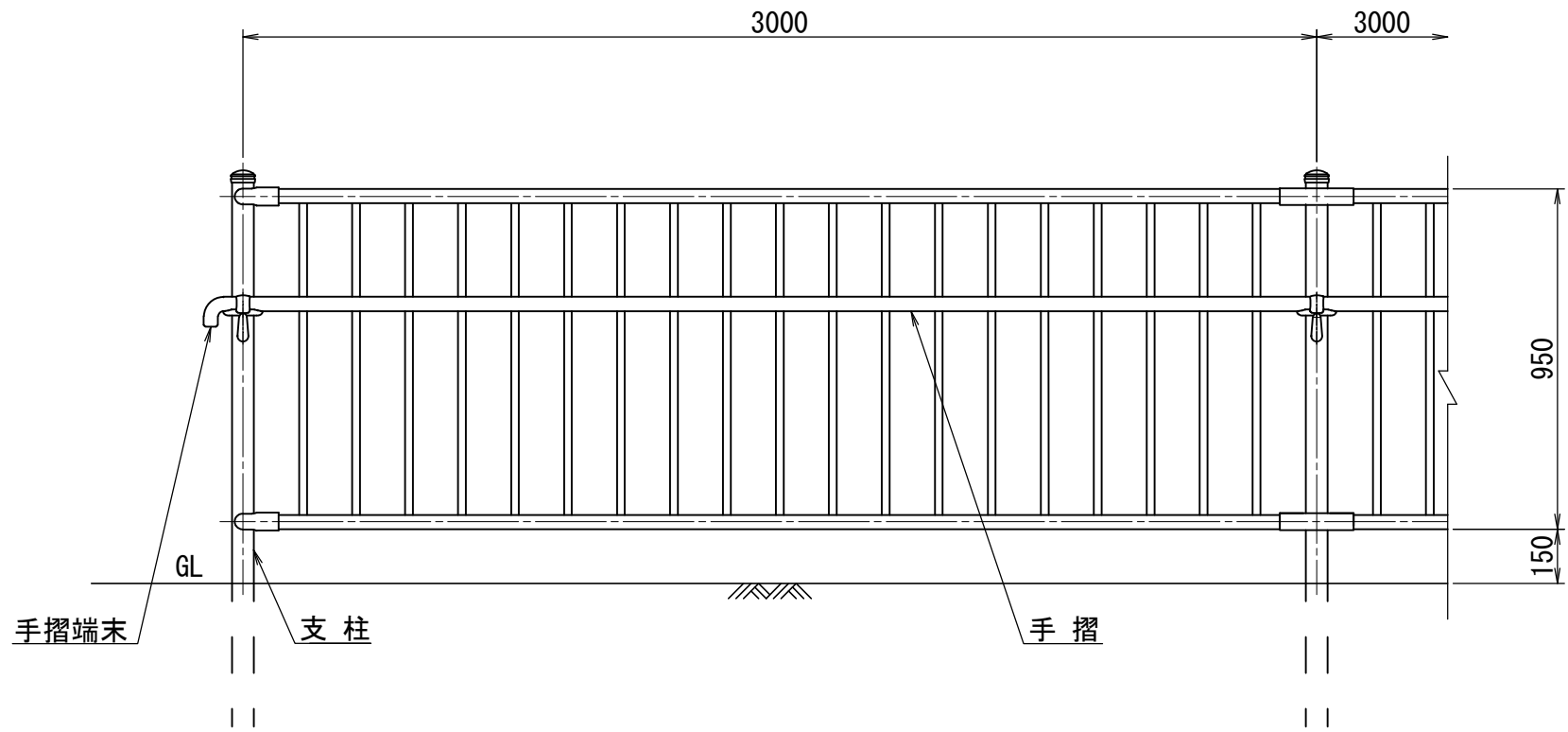


＜注意事項＞

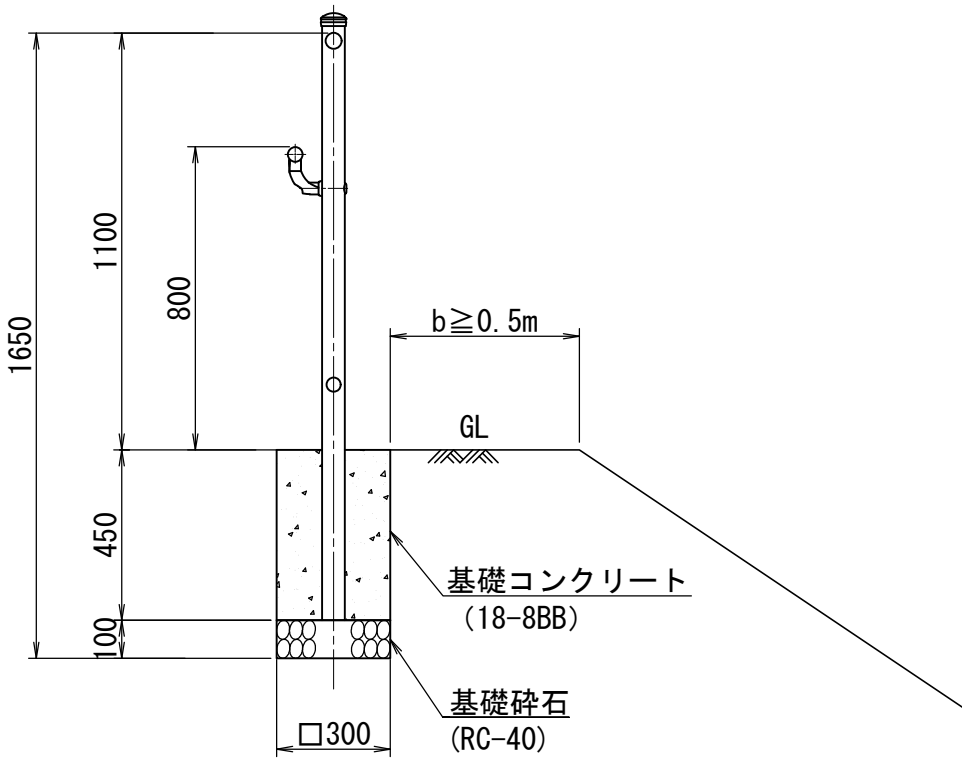
埋込深さ450mmは、路肩側方余裕幅50cm以上で中位以上の地耐力を有する土質条件（N値10程度の砂質地盤）の場合である。

番号	大分類	中分類	小分類	工種名	作成年月
213	02	TBS	009	転落（横断）防止柵（縦桟型・手摺付現場打ち基礎）	R2. 07
	交通安全施設類	転落（横断）防止柵	転落（横断）防止柵（縦桟型・手摺付現場打ち基礎）－（H=1100）		S=1/20

正面図



断面図



材料表 (30m当り)

転落防止柵 (縦桟型手摺付)	基礎コンクリート	基礎碎石	型枠
H=1100	18-8BB	RC-40 t=100	
(m)	(m3)	(m2)	(m2)
30.0	0.41	0.90	5.4

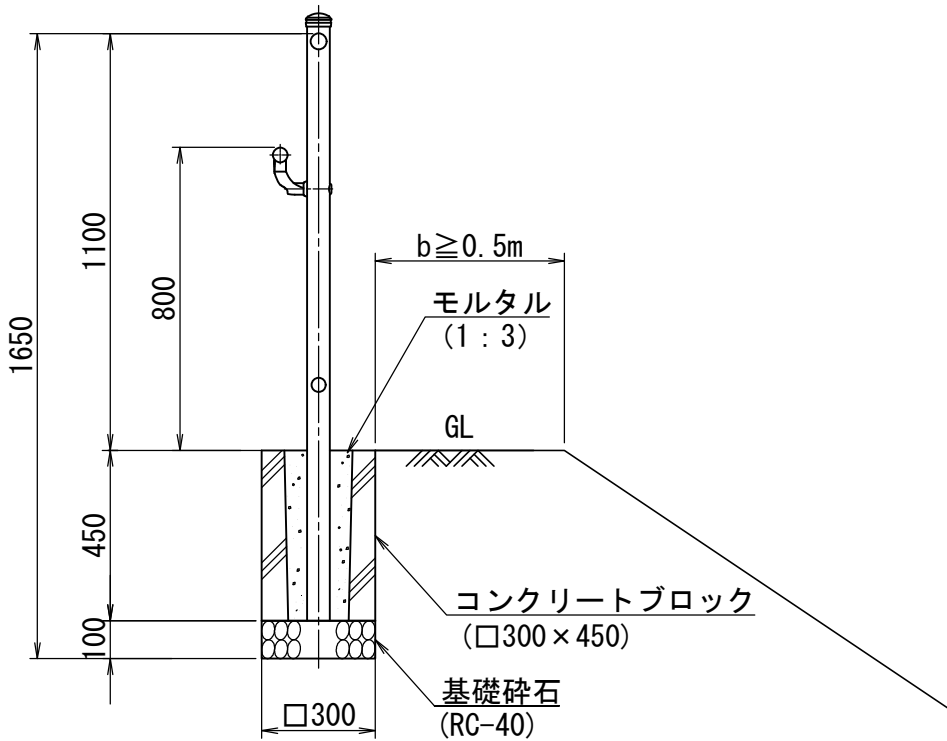
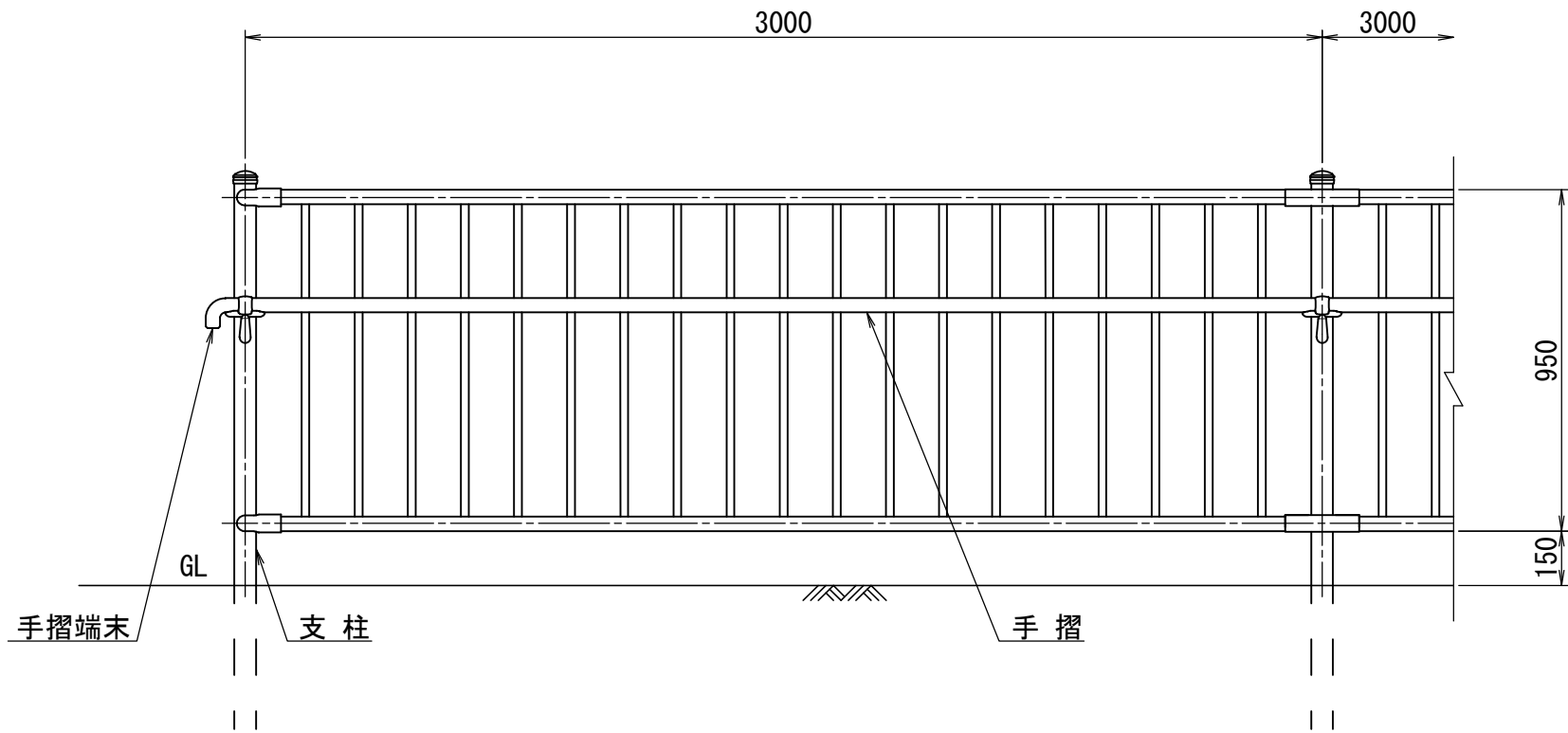
＜注意事項＞
埋込深さ450mmは、路肩側方余裕幅50cm以上で中位以上の地耐力を有する土質条件（N値10程度の砂質地盤）の場合である。

＜仕様＞
(1) 設計強度の種別は、P種とする。
(2) 色については設計図書等で指定がある場合を除き「公共空間景観形成ガイドライン」による。

番号	大分類	中分類	小分類	工種名	作成年月
214	02	TBS	010	転落（横断）防止柵（縦桟型・手摺付プレキャスト基礎）	R2.07
	交通安全施設類	転落（横断）防止柵	転落（横断）防止柵（縦桟型・手摺付プレキャスト基礎）		S=1/20

正面図

断面図



材料表 (30m当り)

転落防止柵 (縦桟型手摺付)	コンクリートブロック	基礎碎石
H=1100	□300×450	RC-40 t=100
(m)	(個)	(m2)
30.0	10.0	0.90

- ＜仕様＞
- (1) 設計強度の種別は、P種とする。
 - (2) 色については設計図書等で指定がある場合を除き「公共空間景観形成ガイドライン」による。

＜注意事項＞

埋込深さ450mmは、路肩側方余裕幅50cm以上で中位以上の地耐力を有する土質条件（N値10程度の砂質地盤）の場合である。

番号	大分類	中分類	小分類	工種名	作成年月
215-1	02	KP	001	車止めポスト設置基準	R5. 04
	交通安全施設類	車止めポスト	車止めポスト設置基準		

【ボラードの種類】

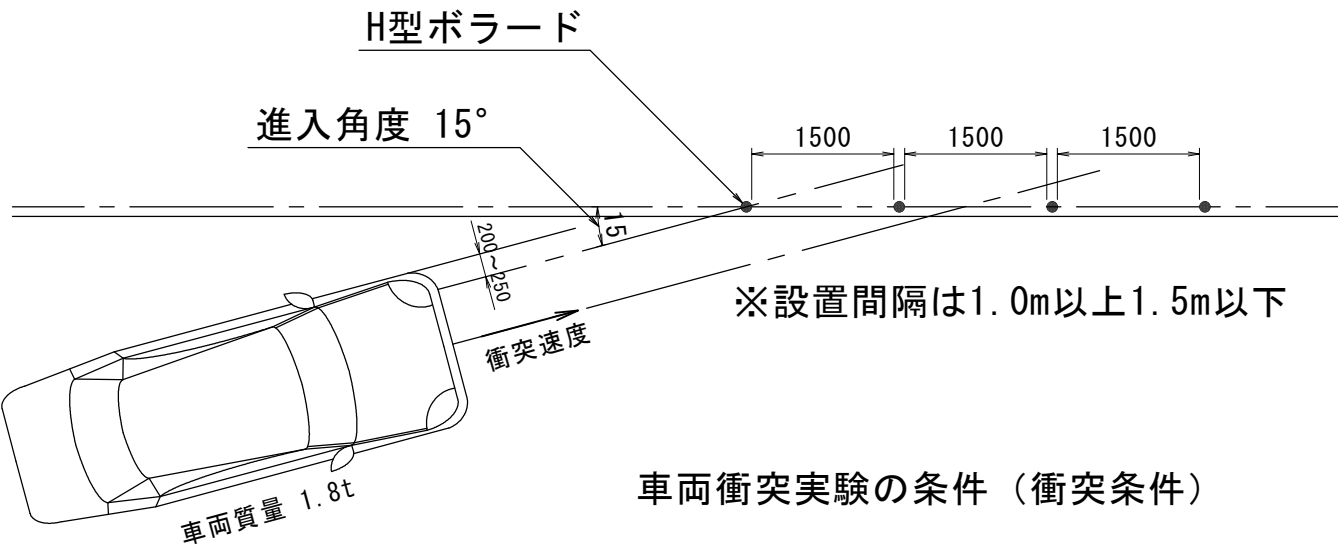
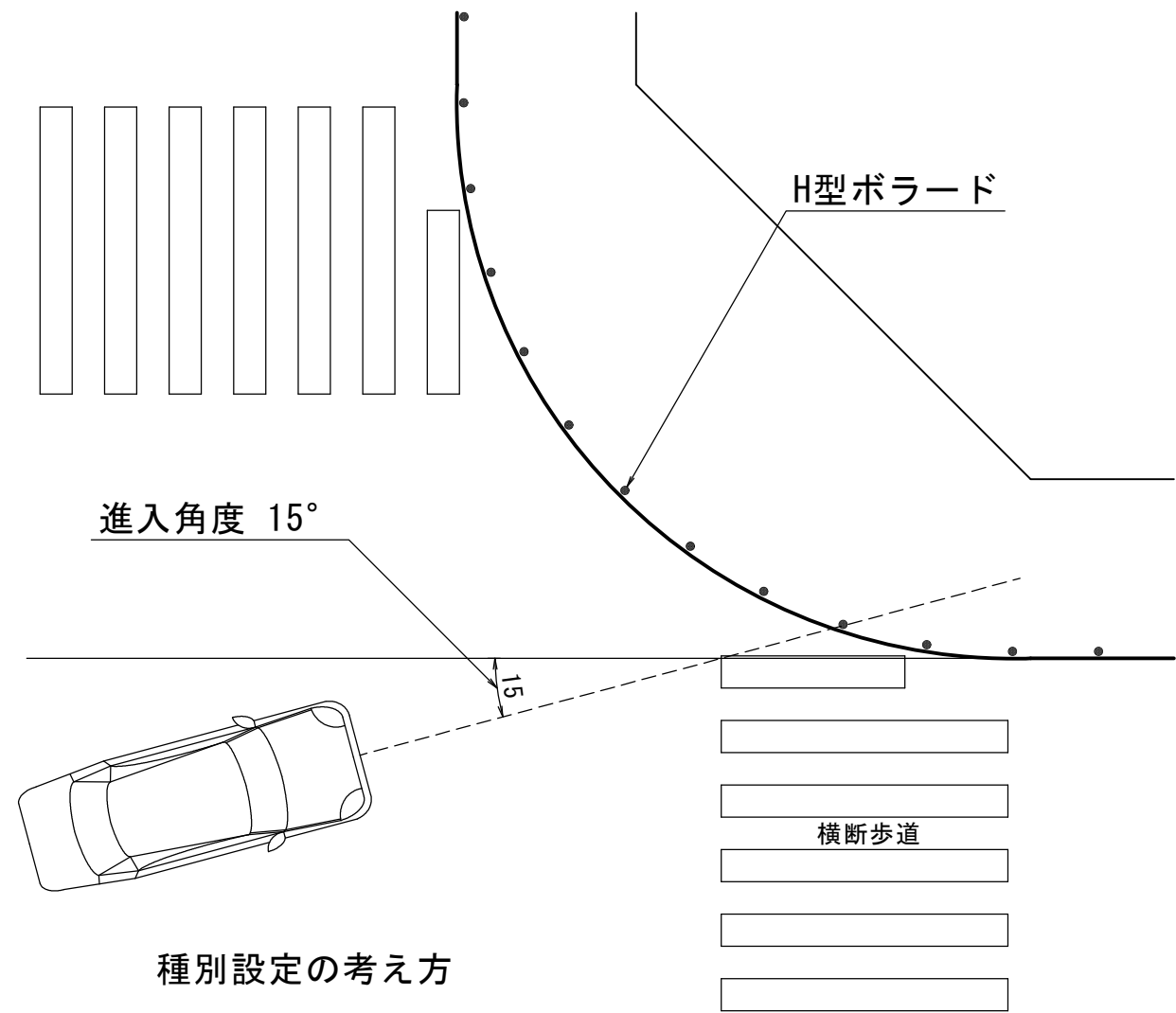
○N型ボラード

車両進入の抑止
車両の衝突への抵抗は想定されていない

〈注意事項〉
設置間隔（有効幅員）は、1,000mm以上とする。（車いすやシニアカーの占有幅を確保する。）
N型ボラードの高さは、850mm以下とする。
（歩行者等がボラードを認知しやすい高さで、かつ歩行者等が行う安全確認を阻害しない高さ。歩行者等の存在を運転者が確認できる高さとする。）
N型ボラードは、交差点開口部の歩道側と車道側とを区別することで歩行者等にとって安全で円滑な通行を確保するものである。

○H型ボラード

車両進入の防止
車両の衝突に対して抵抗する



衝突エネルギーの設定の考え方

種別	設計速度	車両重量	衝突速度	衝突エネルギー
	(km/h)	(t)	(km/h)	(kJ)
Hc種	50以下	1.8	35以上	85以上
Hb種	60	1.8	45以上	140以上

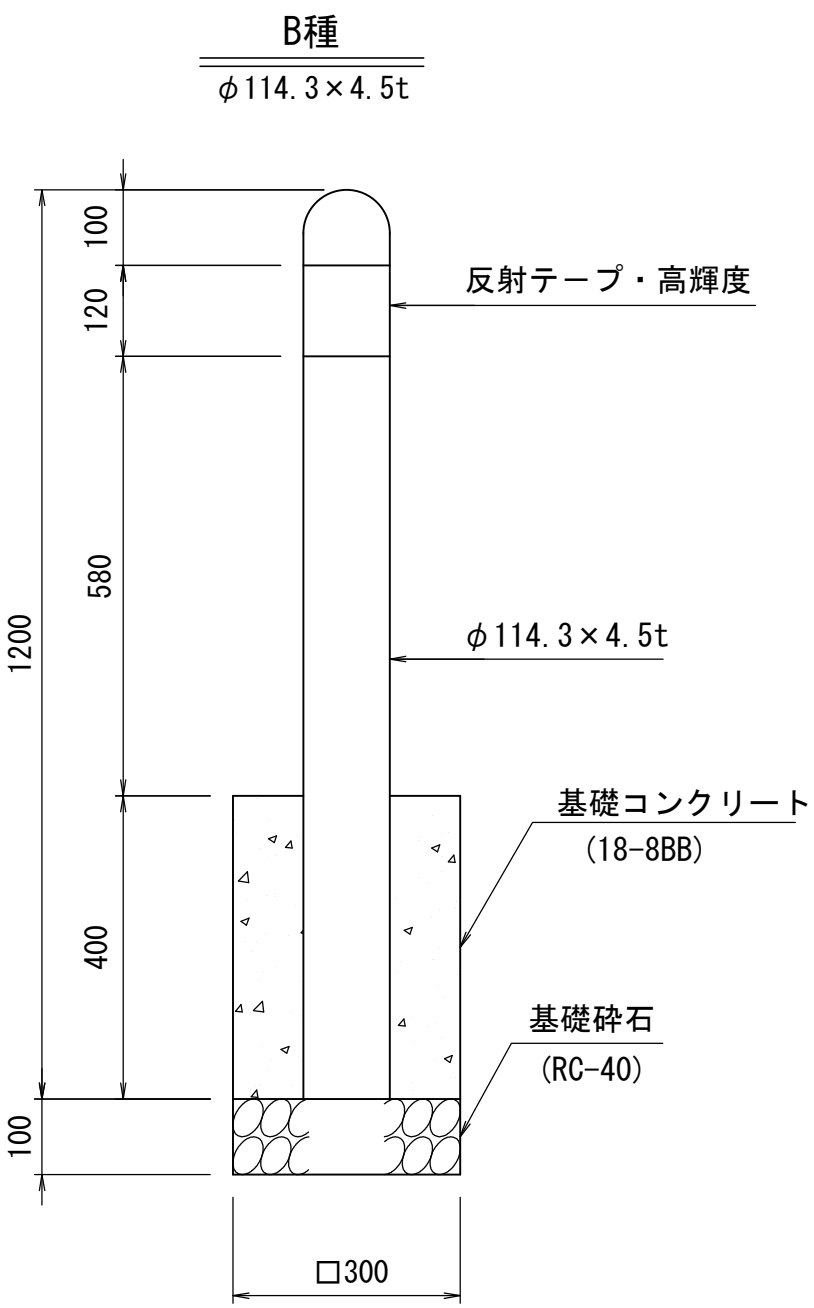
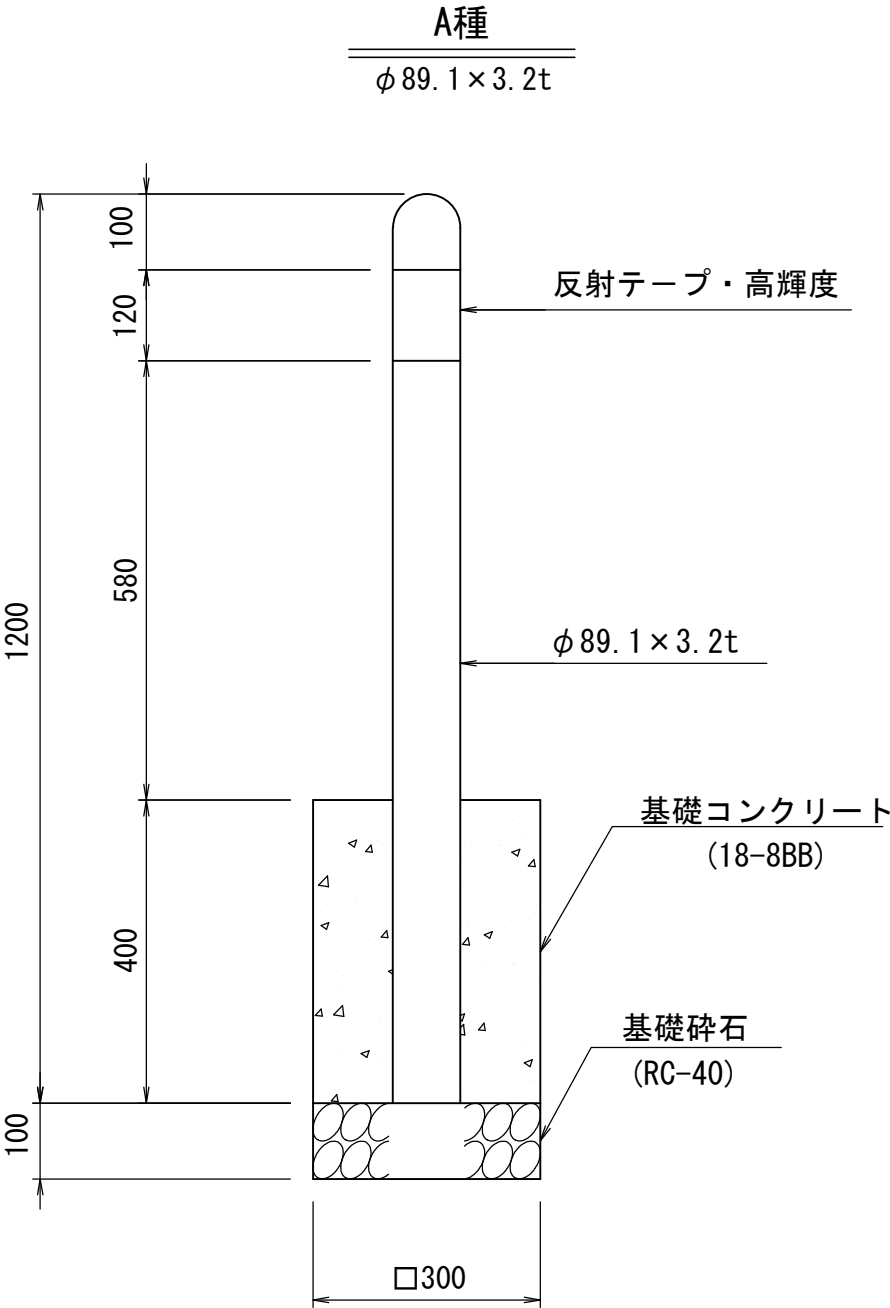
$$E = 1/2 \times m \times (v/3.6)^2$$

E: 衝突エネルギー (kJ)
m: 車両質量 (t)
v: 衝突速度 (km/h)

〈注意事項〉
設置間隔（有効幅員）は、1,000mm以上1,500mm以下とする。
（車いすやシニアカーの占有幅を確保し、車両がすり抜けられない程度の間隔で配置する。）

H型ボラードの高さは、700mm以上850mm以下とする。
（歩行者等がボラードを認知しやすい高さで、かつ歩行者等が行う安全確認を阻害しない高さ。
歩行者等の存在を運転者が確認できる高さとする。
H型ボラードの高さは、車両のバンパーの高さ以上を確保する。）

番号	大分類	中分類	小分類	工種名	作成年月
215-2	02	KP	002	車止めポスト(コンクリート基礎式)	R5.04
	交通安全施設類	車止めポスト	N型 車止めポスト (コンクリート基礎式・A種・B種)		S=1/10



材料表

(10本当たり)

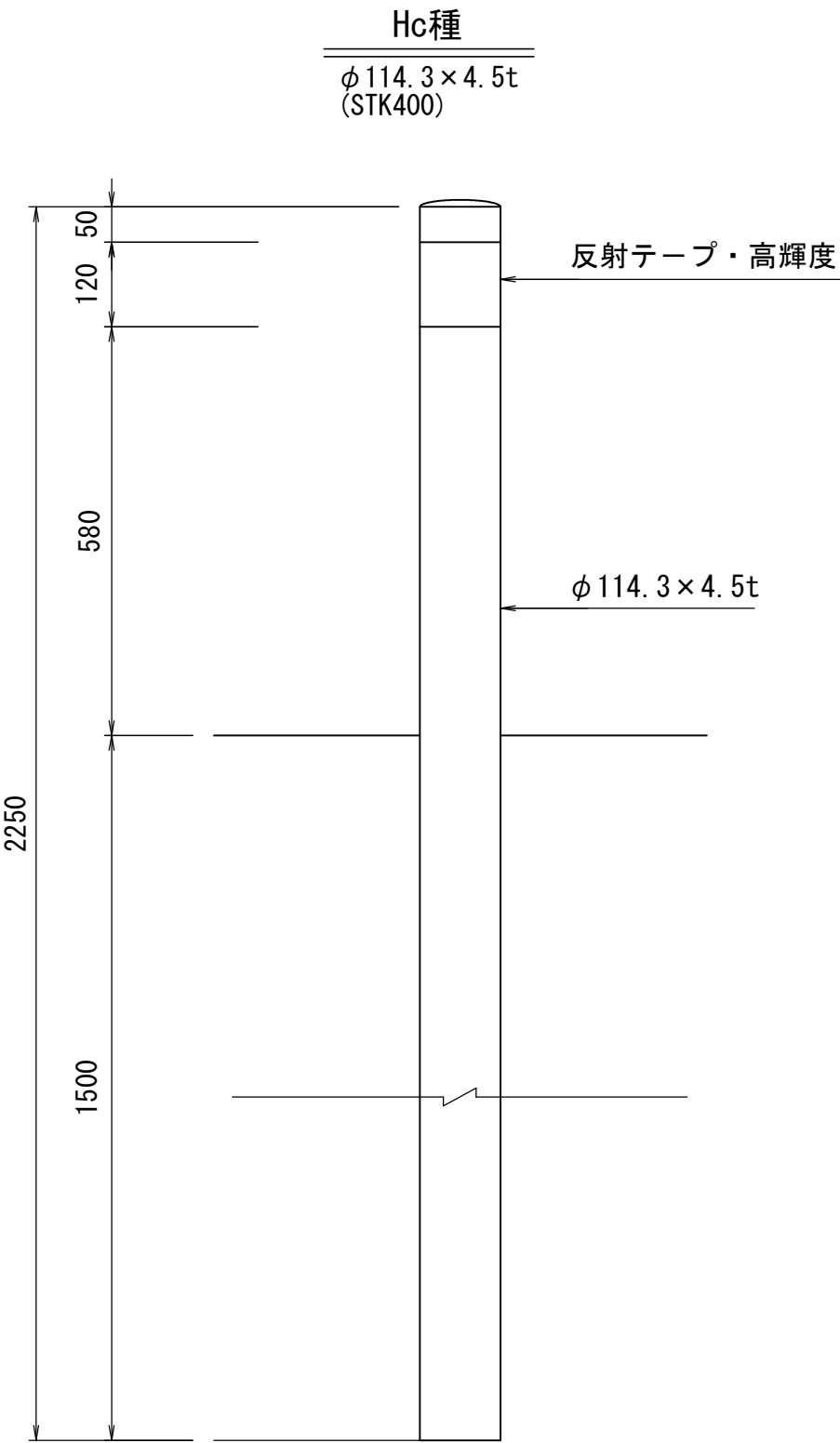
種類	材料	支柱		反射テープ	基礎碎石	型枠	基礎コンクリート
					RC-40 t=100		18-8BB
	規格	(本)	(枚)	(m2)	(m2)	(m3)	
A種	φ 89.1 × 3.2 t	10.0	10.0	0.90	4.8	0.36	
B種	φ 114.3 × 4.5 t	10.0	10.0	0.90	4.8	0.36	

〈仕様〉
色については設計図書等で指定がある場合を除き
「公共空間景観形成ガイドライン」によるものとする。

〈注意事項〉
設置間隔（有効幅員）は、1,000mm以上とする。
（車いすやシニアカーの占有幅を確保する。）
N型ボラードの高さは、850mm以下とする。
（歩行者等がボラードを認知しやすい高さで、かつ歩行者等が行う安全確認を阻害しない高さ。歩行者等の存在を運転者が確認できる高さとする。）

N型ボラードは、交差点開口部の歩道側と車道側とを区別することで歩行者等にとって安全で円滑な通行を確保するものである。
※車両の衝突への抵抗は想定されていない

番号	大分類	中分類	小分類	工種名	作成年月
215-4	02	KP	004	単管式車止めポスト(土中式)	R5. 04
	交通安全施設類	車止めポスト	H型 車止めポスト（単管式・土中式・Hc種）		S=1/10



Hc種：単管構造の土中式（設計速度=50km/h）

衝突エネルギーの設定

種別	車両重量	衝突速度	衝突エネルギー
	(t)	(km/h)	(kJ)
Hc種	1.8	35	85以上

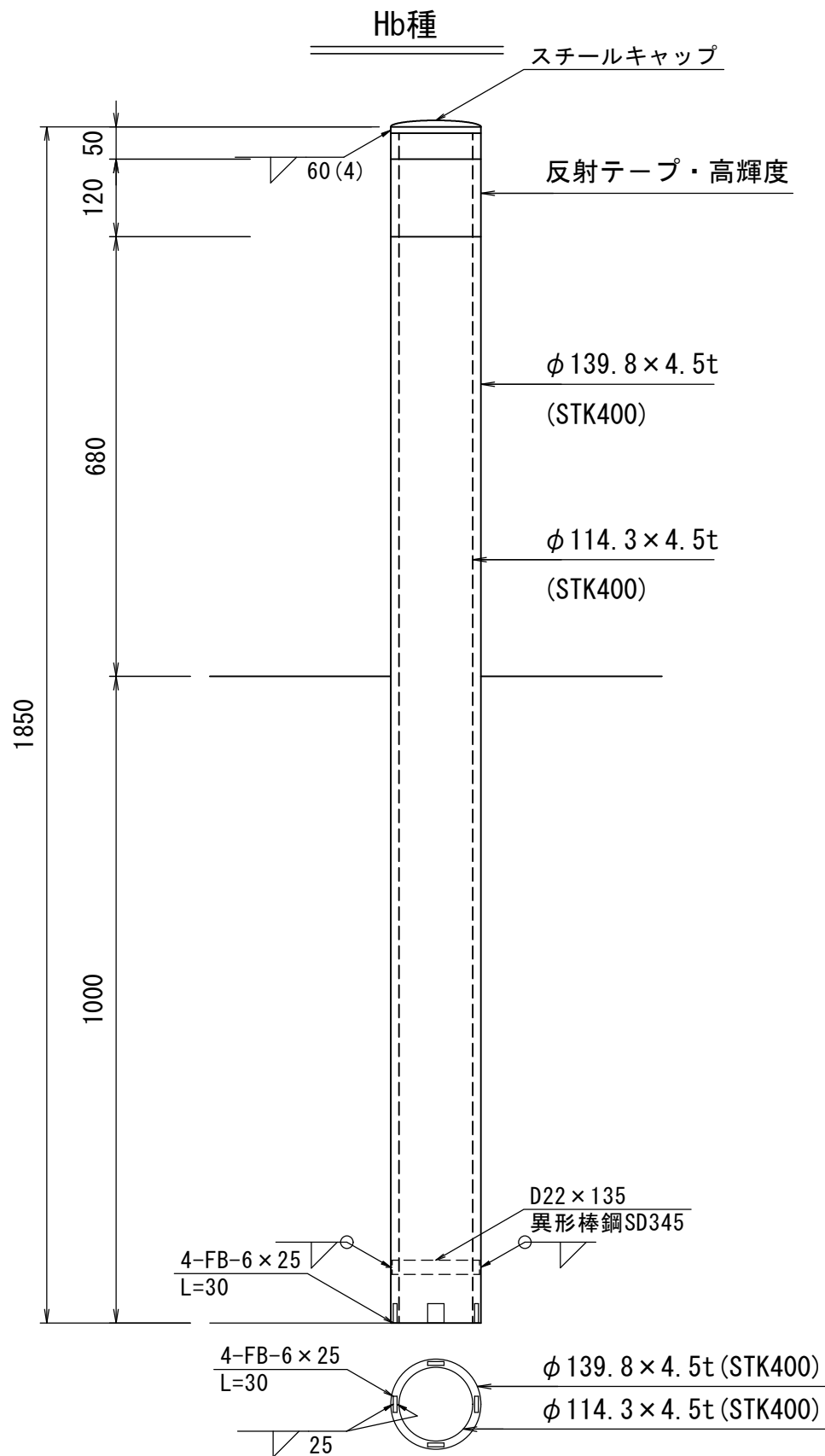
材料表 (10本当たり)

形状・寸法	材料	支柱		反射テープ
		規格	(本)	(枚)
Hc種		φ114.3×4.5 t STK400	10.0	10.0

注) 設置間隔（有効幅員）は、1,000mm以上1,500mm以下とする。
（車いすやシニアカーの占有幅を確保し、車両がすり抜けられない程度の間隔で配置する。）

H型ボラードの高さは、700mm以上850mm以下とする。
（歩行者等がボラードを認知しやすい高さで、かつ歩行者等が行う安全確認を阻害しない高さ。
歩行者等の存在を運転者が確認できる高さとする。
H型ボラードの高さは、車両のバンパーの高さ以上を確保する。）
図面と同等品以上とする。

番号	大分類	中分類	小分類	工種名	作成年月
215-5	02	KP	005	二重管式車止めポスト(土中式)	R5.04
	交通安全施設類	車止めポスト	H型 車止めポスト（二重管式・土中式・Hb種）（参考図）		S=1/10



Hb種：二重管構造の土中式（設計速度=60km/h）

衝突エネルギーの設定

種別	車両重量	衝突速度	衝突エネルギー
	(t)	(km/h)	(kJ)
Hb種	1.8	45	140以上

材料表

(10本当り)

形状・寸法	材料	支柱				反射テープ
		規格	(本)	規格	(本)	(枚)
Hb種		φ139.8×4.5t STK400	10.0	φ114.3×4.5t STK400	10.0	10.0

注) 設置間隔（有効幅員）は、1,000mm以上1,500mm以下とする。
（車いすやシニアカーの占有幅を確保し、車両がすり抜けられない程度の間隔で配置する。）

H型ボラードの高さは、700mm以上850mm以下とする。
（歩行者等がボラードを認知しやすい高さで、かつ歩行者等が行う安全確認を阻害しない高さ。
歩行者等の存在を運転者が確認できる高さとする。
H型ボラードの高さは、車両のバンパーの高さ以上を確保する。）
図面と同等品以上とする。

番号	大分類	中分類	小分類	工種名	作成年月
215-8	02	KP	008	二重管式車止めポスト(コンクリート連続基礎式)	R5.04
	交通安全施設類	車止めポスト	H型 車止めポスト (二重管式・コンクリート連続基礎式・Hb種・1連2本)		S=1/20

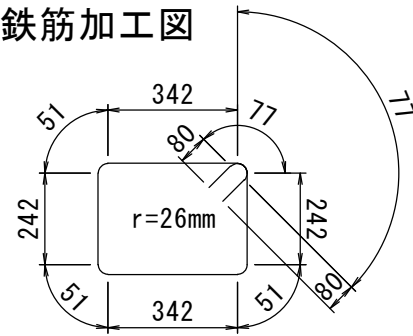
Hb種

Hb種：二重構造のコンクリート基礎式（設計速度=60km/h）

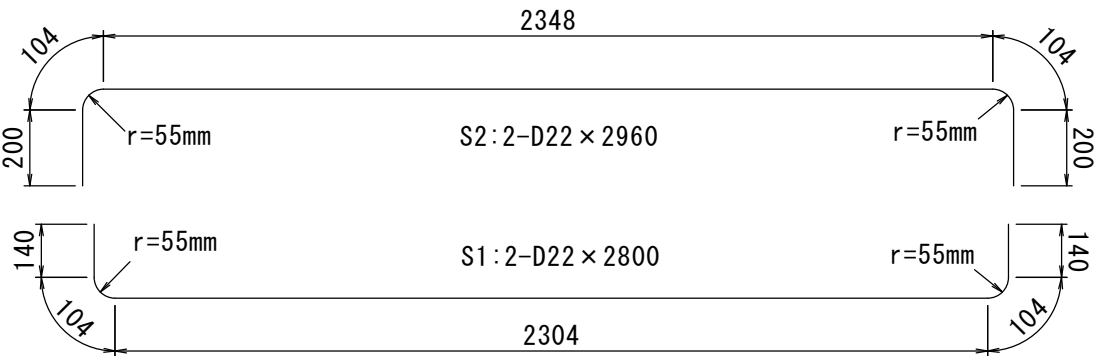
衝突エネルギーの設定

種別	車両重量	衝突速度	衝突エネルギー
	(t)	(km/h)	(kJ)
Hb種	1.8	45	140以上

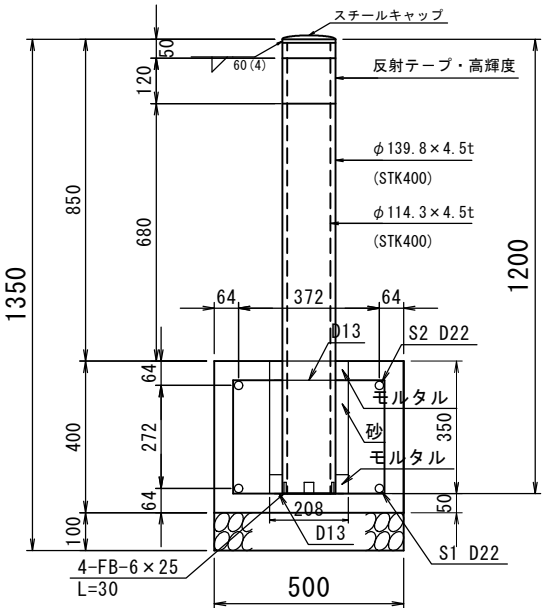
鉄筋加工図



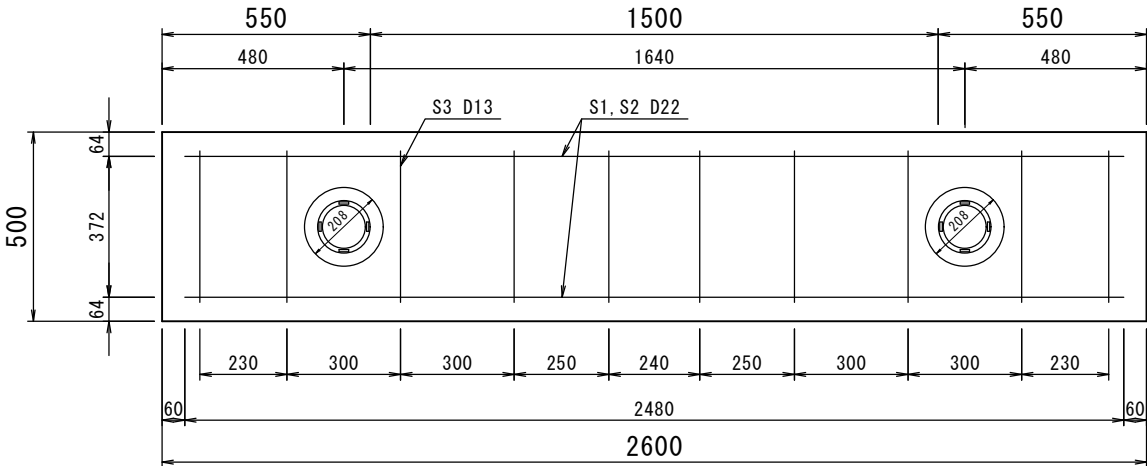
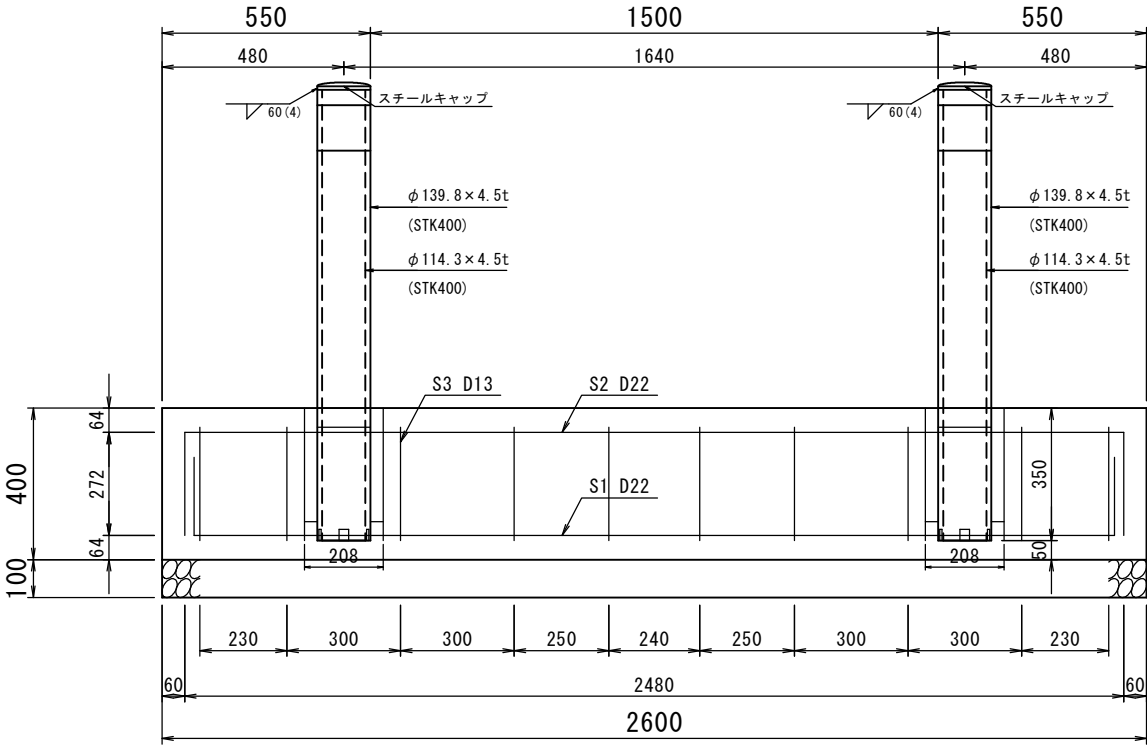
S3:10-D13×1640



※rは鉄筋の曲げ内半径を示す



※帯鉄筋の純かぶりを40mmとして配筋



基礎コンクリート強度： $\sigma_{ck}=21\text{N/mm}^2$ ，鉄筋：SD345

鉄筋材料表

(2本当り)(1連当り)

番号	径	材種	長さ (mm)	本数 (本)	単位重量 (kg/m)	1本重量 (kg/m)	重量 (kg)
S1	D22	SD345	2800	2	3.04	8.512	17.02
S2	D22	SD345	2960	2	3.04	8.998	18.00
S3	D13	SD345	1640	10	0.995	1.632	9.95

材料表

(2本当り)(1連当り)

形状・寸法	支柱				反射テープ	基礎碎石	型枠	円形空洞型枠	基礎コンクリート	モルタル	砂
						RC-40 t=100		外形φ208	21-8BB	1:3	
	規格	(本)	規格	(本)	(枚)	(m2)	(m2)	(m)	(m3)	(m3)	(m3)
Hb種	φ139.8×4.5 t ×1200, STK400	2.0	φ114.3×4.5 t ×1200, STK400	2.0	2.0	1.3	2.5	0.7	0.5	0.004	0.009

注) 設置間隔（有効幅員）は、1,000mm以上1,500mm以下とする。
（車いすやシニアカーの占有幅を確保し、車両がすり抜けられない程度の間隔で配置する。）

H型ボラードの高さは、700mm以上850mm以下とする。
（歩行者等がボラードを認知しやすい高さで、かつ歩行者等が行う安全確認を阻害しない高さ。
歩行者等の存在を運転者が確認できる高さとする。
H型ボラードの高さは、車両のバンパーの高さ以上を確保する。）
図面と同等品以上とする。

番号	大分類	中分類	小分類	工種名	作成年月
215-9	02	KP	009	二重管式車止めポスト(コンクリート連続基礎式)	R5.04
	交通安全施設類	車止めポスト	H型 車止めポスト（二重管式・コンクリート連続基礎式・Hb種・1連3本）		S=1/20

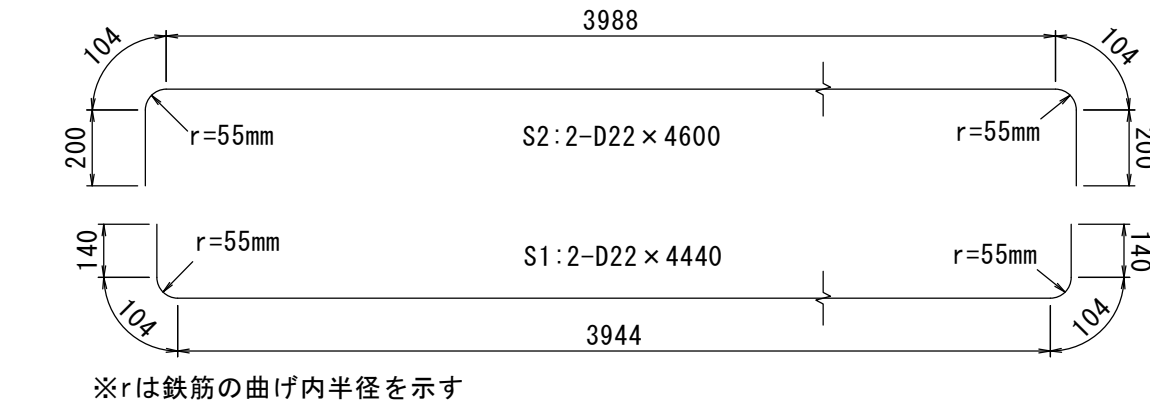
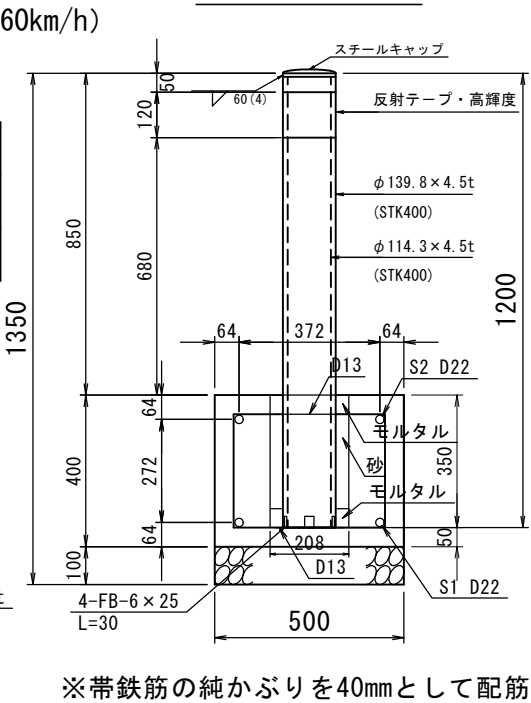
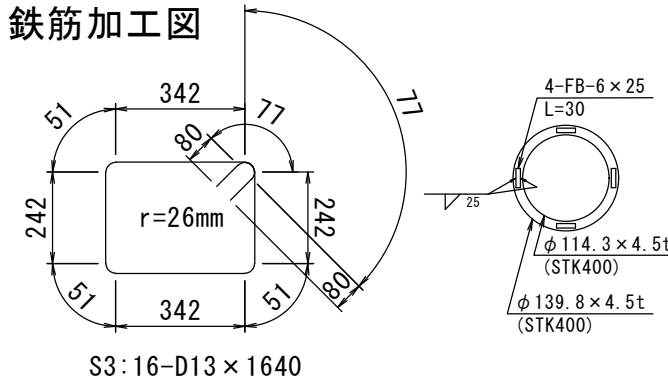
Hb種

Hb種：二重構造のコンクリート基礎式（設計速度=60km/h）

衝突エネルギーの設定

種別	車両重量	衝突速度	衝突エネルギー
	(t)	(km/h)	(kJ)
Hb種	1.8	45	140以上

鉄筋加工図



鉄筋材料表

(3本当り) (1連当り)

番号	径	材種	長さ	本数	単位重量	1本重量	重量
			(mm)				
S1	D22	SD345	4440	2	3.04	13.498	27.00
S2	D22	SD345	4600	2	3.04	13.984	27.97
S3	D13	SD345	1640	16	0.995	1.632	26.11

材料表

形状・寸法	支柱				反射テープ	基礎碎石	型枠	円形空洞型枠	基礎コンクリート	モルタル	砂
						RC-40 t=100		外形φ208	21-8BB	1:3	
	規格	(本)	規格	(本)	(枚)	(m ²)	(m ²)	(m)	(m ³)	(m ³)	(m ³)
Hb種	φ139.8×4.5t ×1200, STK400	3.0	φ114.3×4.5t ×1200, STK400	3.0	3.0	2.1	3.8	1.1	0.8	0.006	0.014

注) 設置間隔（有効幅員）は、1,000mm以上1,500mm以下とする。
（車いすやシニアカーの占有幅を確保し、車両がすり抜けられない程度の間隔で配置する。）

H型ボラードの高さは、700mm以上850mm以下とする。
（歩行者等がボラードを認知しやすい高さで、かつ歩行者等が行う安全確認を阻害しない高さ。
歩行者等の存在を運転者が確認できる高さとする。
H型ボラードの高さは、車両のバンパーの高さ以上を確保する。）
図面と同等品以上とする。

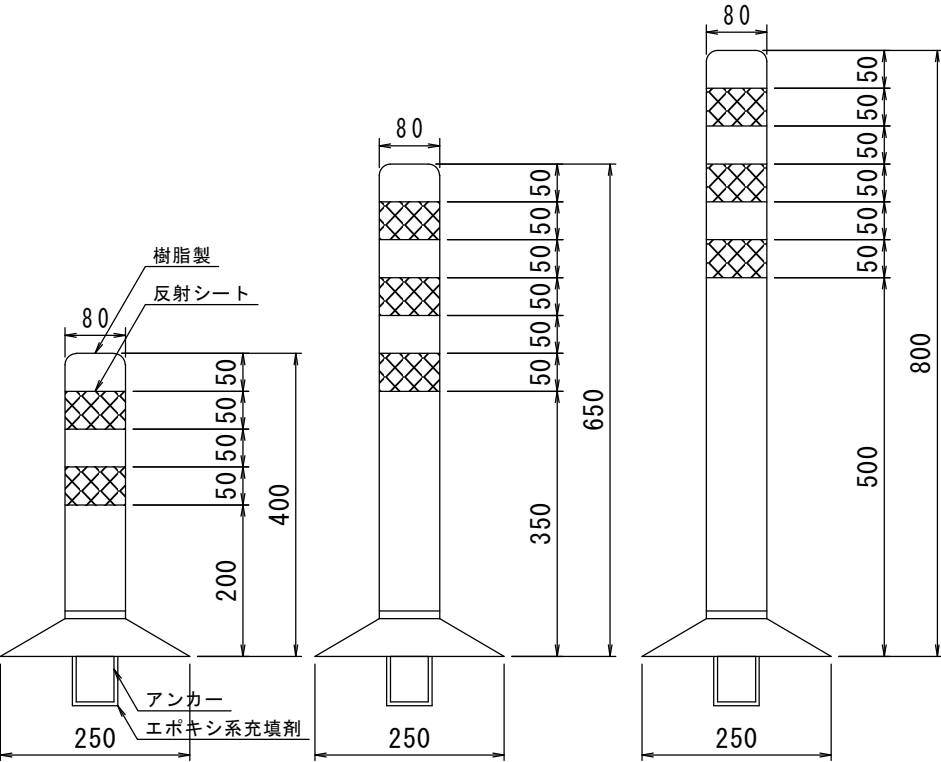
番号	大分類	中分類	小分類	工種名	作成年月
215-10	02	SBH	001	車線分離標	R5.04
	交通安全施設類	車線分離標	車線分離標（参考図）		S=1/10

可変式
(穿孔式) (1本脚)

H = 400

H = 650

H = 800



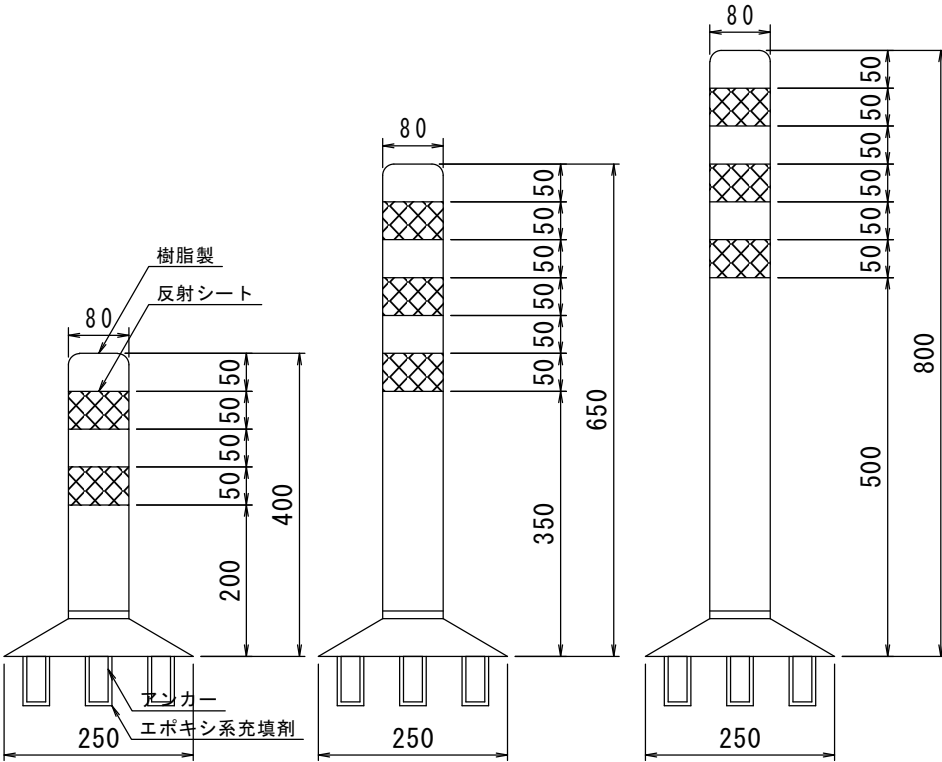
本体（柱）径 φ80
ベース径 φ250

着脱式
(穿孔式) (3本脚)

H = 400

H = 650

H = 800



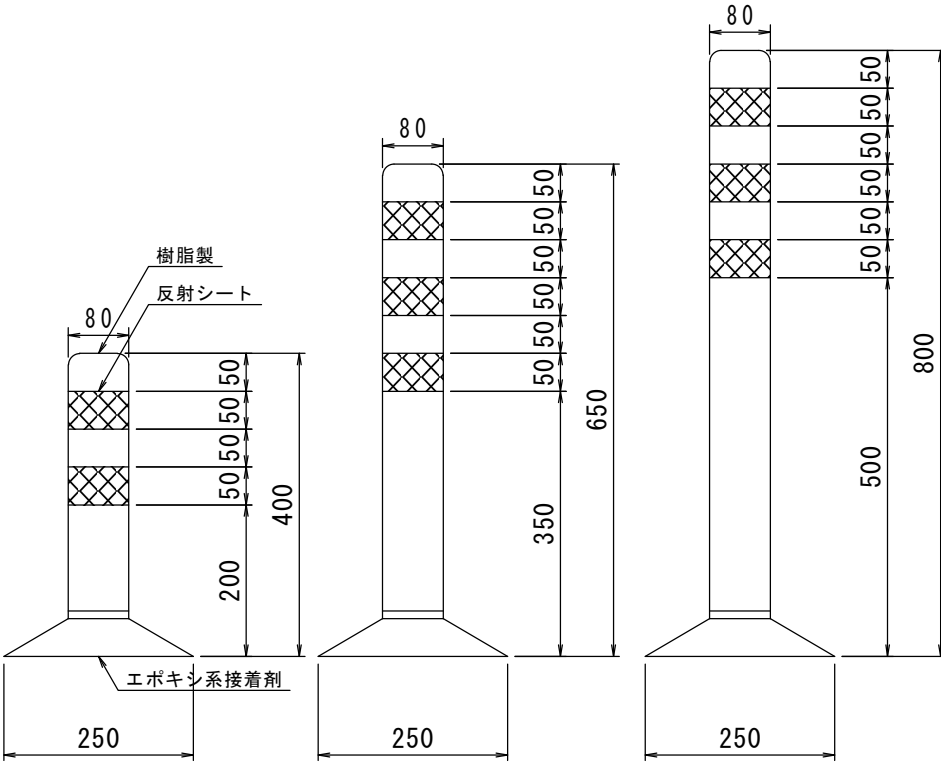
本体（柱）径 φ80
ベース径 φ250

固定式
(貼付式)

H = 400

H = 650

H = 800



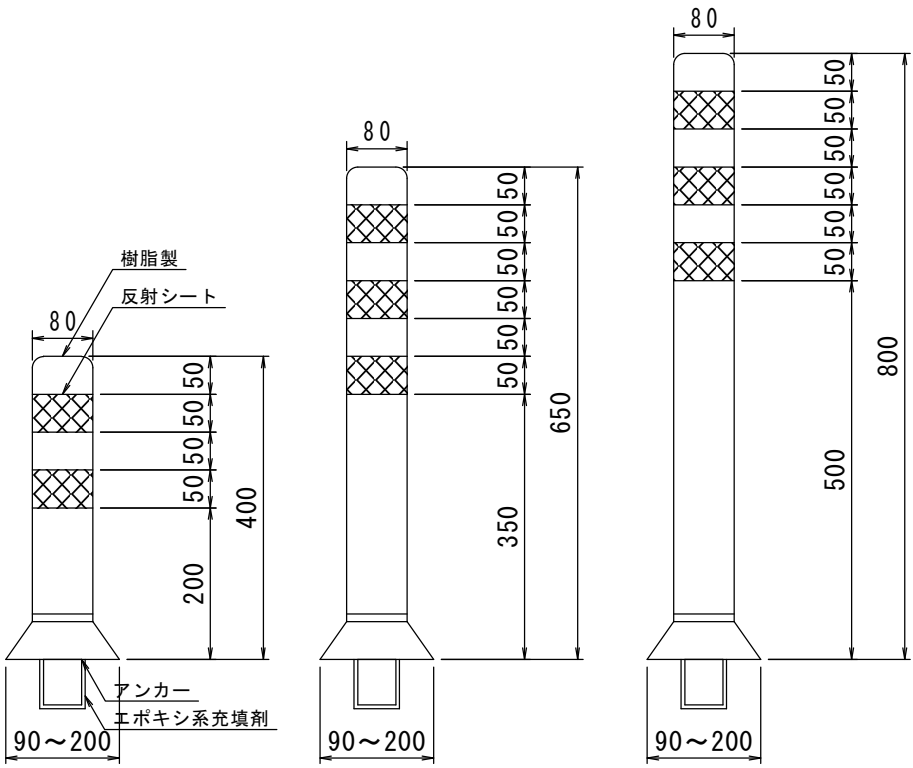
本体（柱）径 φ80
ベース径 φ250

〈注意事項〉
本体・ベースの色、反射シートの形状・位置・枚数は、監督員との協議により決定すること。

番号	大分類	中分類	小分類	工種名	作成年月
215-11	02	SBH	002	車線分離標	R5.04
	交通安全施設類	車線分離標	車線分離標（小型台座・角台座）（参考図）		S=1/10

可変式
(穿孔式) (1本脚)

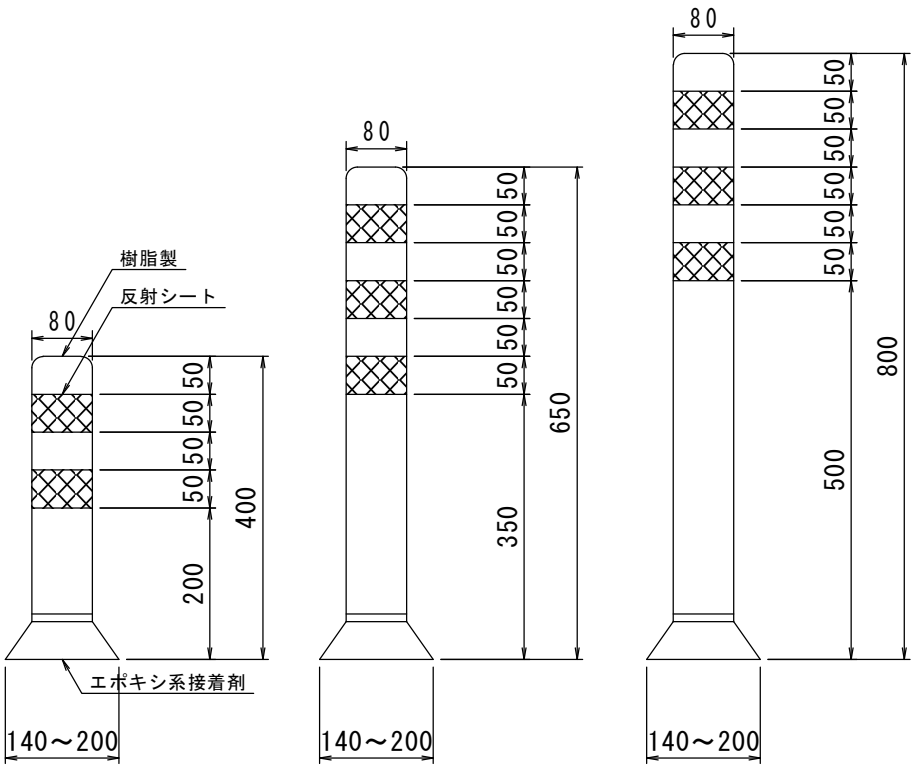
H = 400 H = 650 H = 800



本体（柱）径 φ80
ベース径・幅 90～200

固定式
(貼付式)

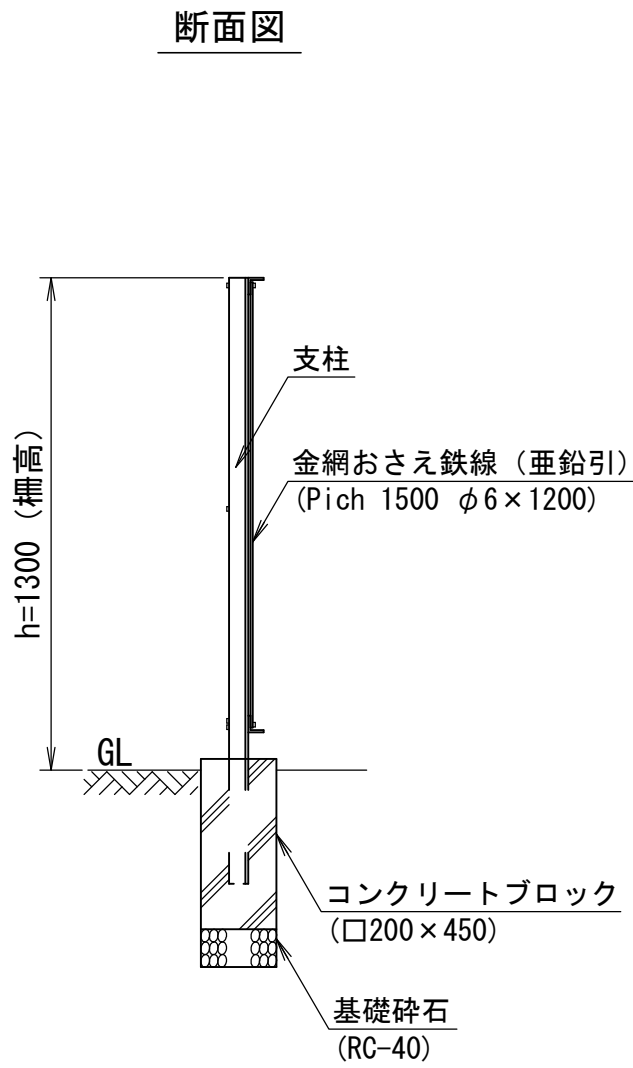
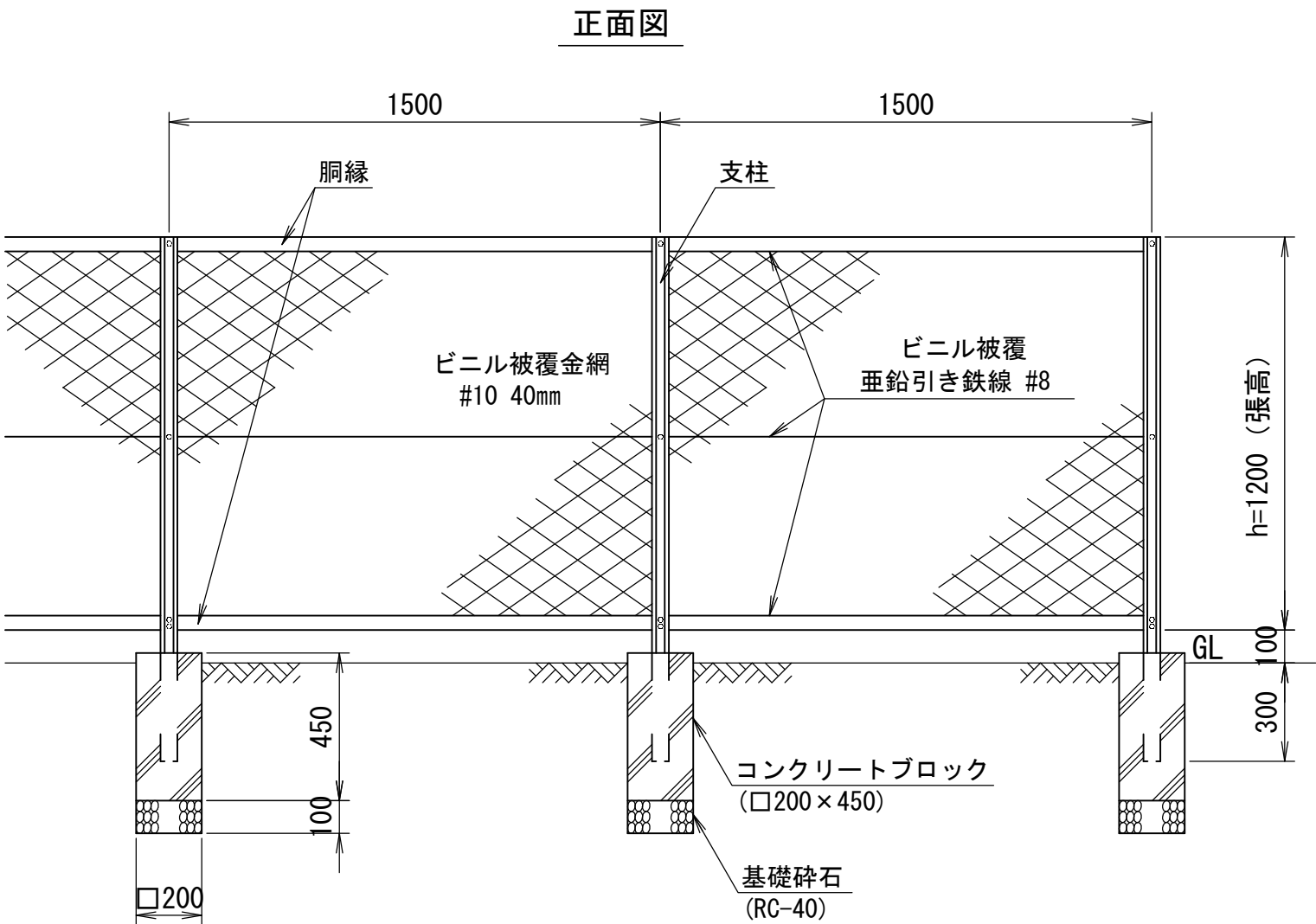
H = 400 H = 650 H = 800



本体（柱）径 φ80
ベース径・幅 小型台座φ130～200
角台座 140～200

〈注意事項〉
本体の断面形状、ベースの形状は、監督員との協議により決定すること。
本体・ベースの色、反射シートの形状・位置・枚数は、監督員との協議により決定すること。

番号	大分類	中分類	小分類	工種名	作成年月
216	02	NF	001	ネットフェンス	R2. 07
	交通安全施設類	ネットフェンス	ネットフェンス		S=1/20

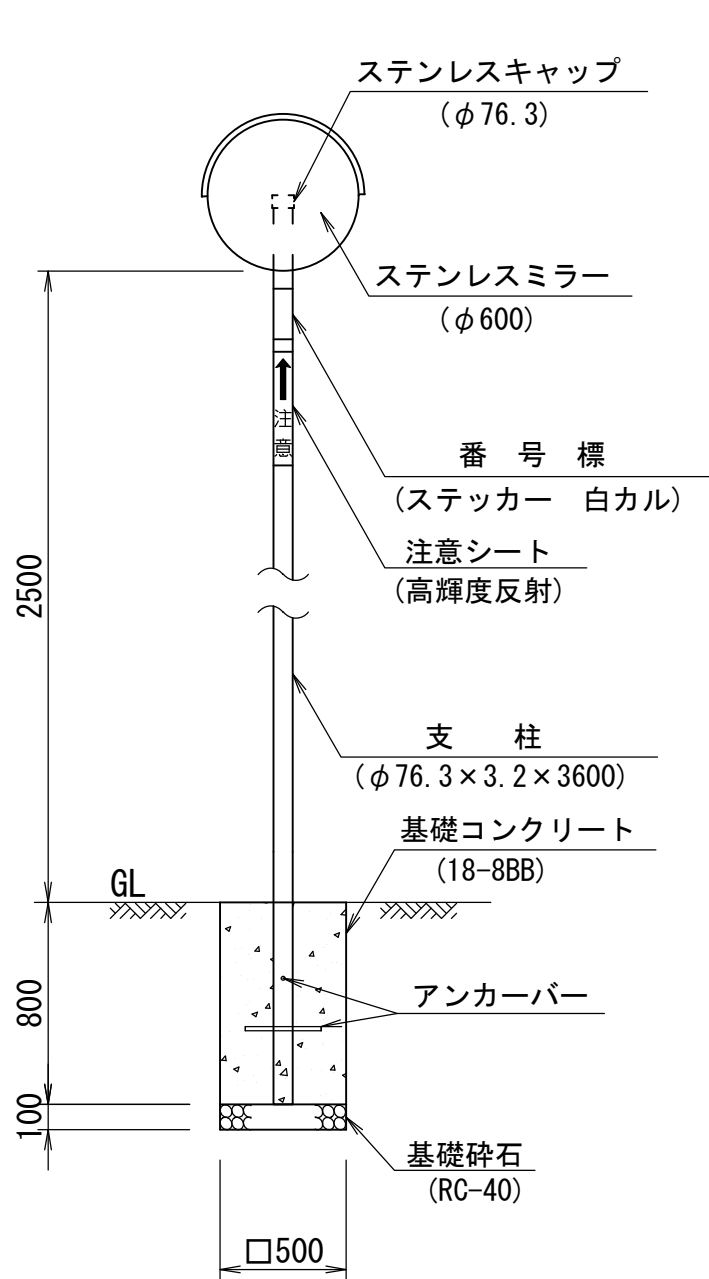


材料表		(30m当り)		
支柱	胴縁	金網その他	コンクリートブロック	基礎碎石
t =2. 3, H=40, L=1, 600	L-40×40×3×10, 000	金網#10, 網目40mm 鉄線#8, おさえ鉄線φ6mm	□200×450	RC-40 t=100
(本)	(本)	(式)	(個)	(m2)
20. 0	40. 0	1. 0	20. 0	0. 80

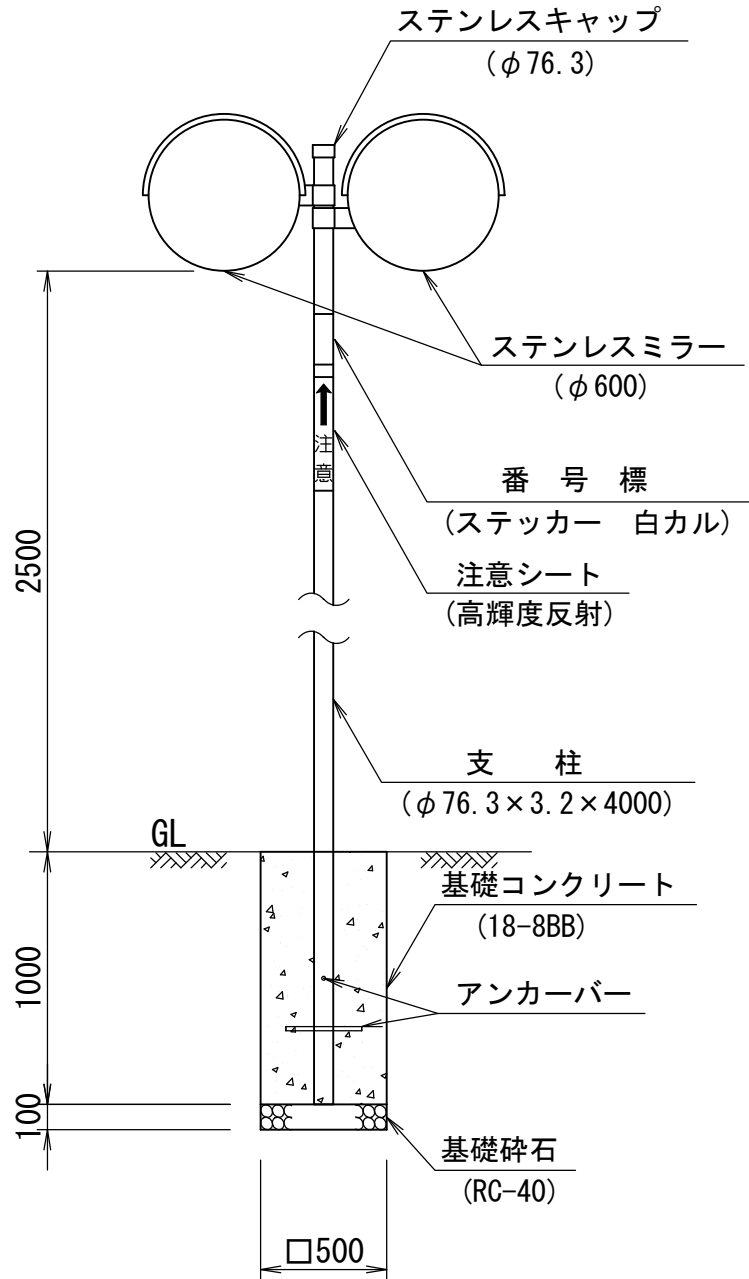
- 〈注意事項〉
- (1) 図面表示は各メーカーによって製品が異なるので、上記の通りとし、完成図には詳細寸法を明示する。
 - (2) 垂直・水平荷重は作用しない箇所に設置すること。

番号	大分類	中分類	小分類	工種名	作成年月
217	02	DH	001	道路反射鏡（φ600・未舗装）	R2.07
	交通安全施設類	道路反射鏡	道路反射鏡（φ600・未舗装）		S=1/30

1面鏡



2面鏡



材料表 (1) (10基当り)

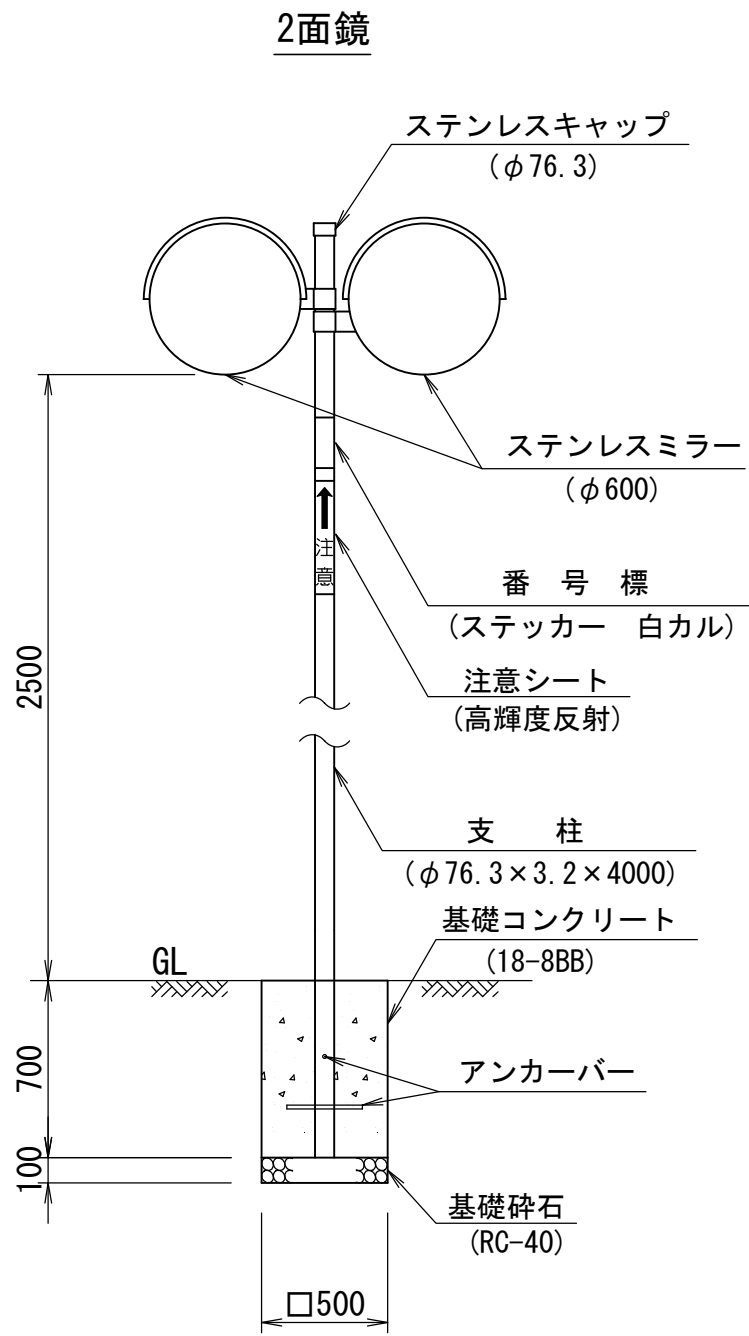
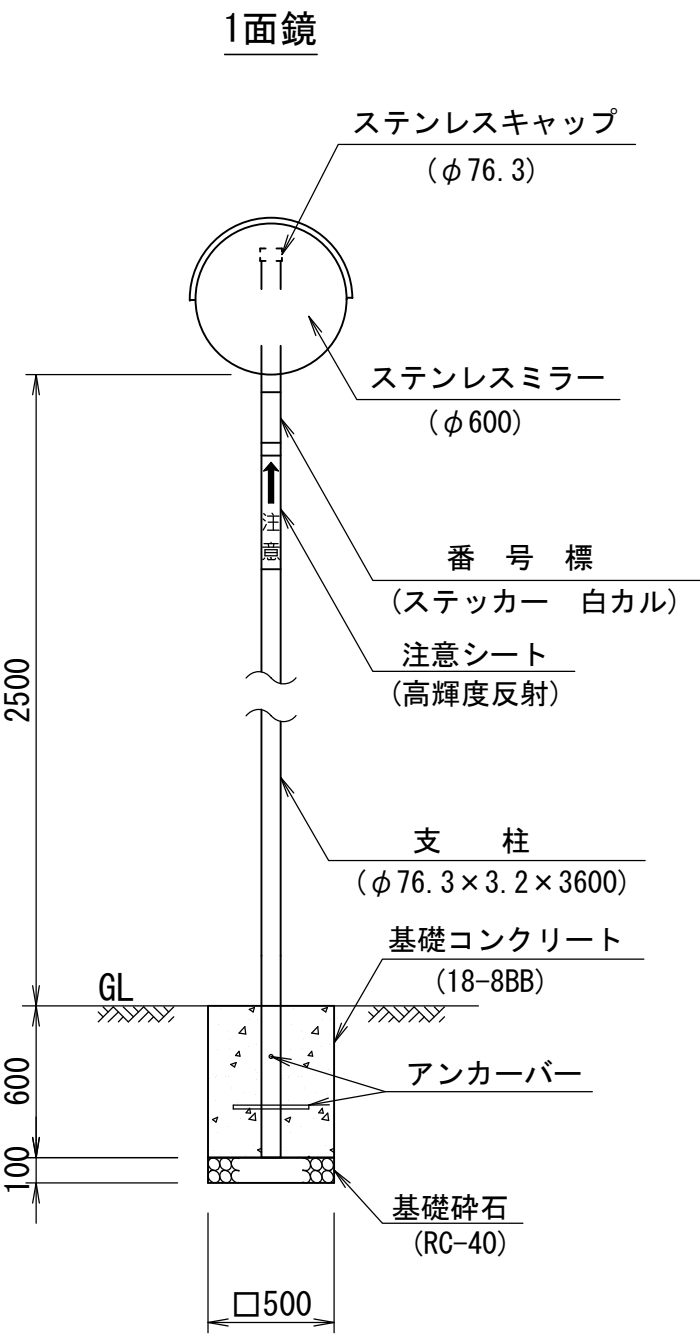
材料	道路反射鏡	基礎碎石	型枠	基礎コンクリート
φ 600	RC-40 t=100		18-8BB	
形状・寸法	(面)	(m2)	(m2)	(m3)
1面鏡	10.0	2.5	16.0	2.0
2面鏡	20.0	2.5	20.0	2.5

材料表 (2) (10基当り)

材料	支柱	ステンレスキャップ	道路反射鏡取付金具	注意シート	番号標
形状・寸法	(本)	(個)	(組)	(枚)	(枚)
1面鏡	10.0	10.0	—	10.0	10.0
2面鏡	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0

- 〈注意事項〉
- (1) 型枠については、4面に設置することを想定し、数量を算出している。これにより難しい場合は別途計算を行うこと。
 - (2) 狭い幅員の道路において、道路端に側溝等がある場合は曲支柱を用いたり、路端側の余堀をなくし、鏡面が路端にくる様に考慮すること。

番号	大分類	中分類	小分類	工種名	作成年月
218	02	DH	002	道路反射鏡（φ600・舗装）	R2.07
	交通安全施設類	道路反射鏡	道路反射鏡（φ600・舗装）		S=1/30



材料表(1) (10基当り)

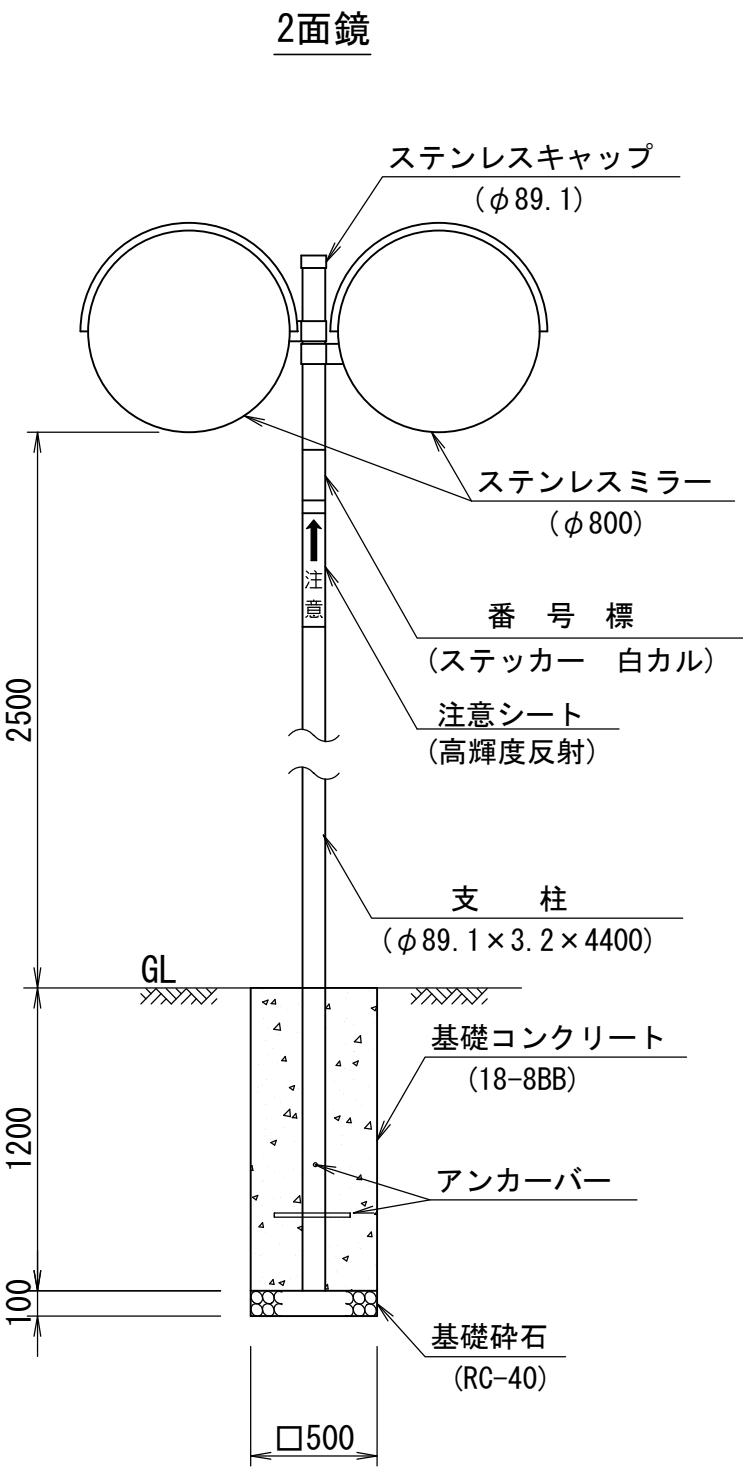
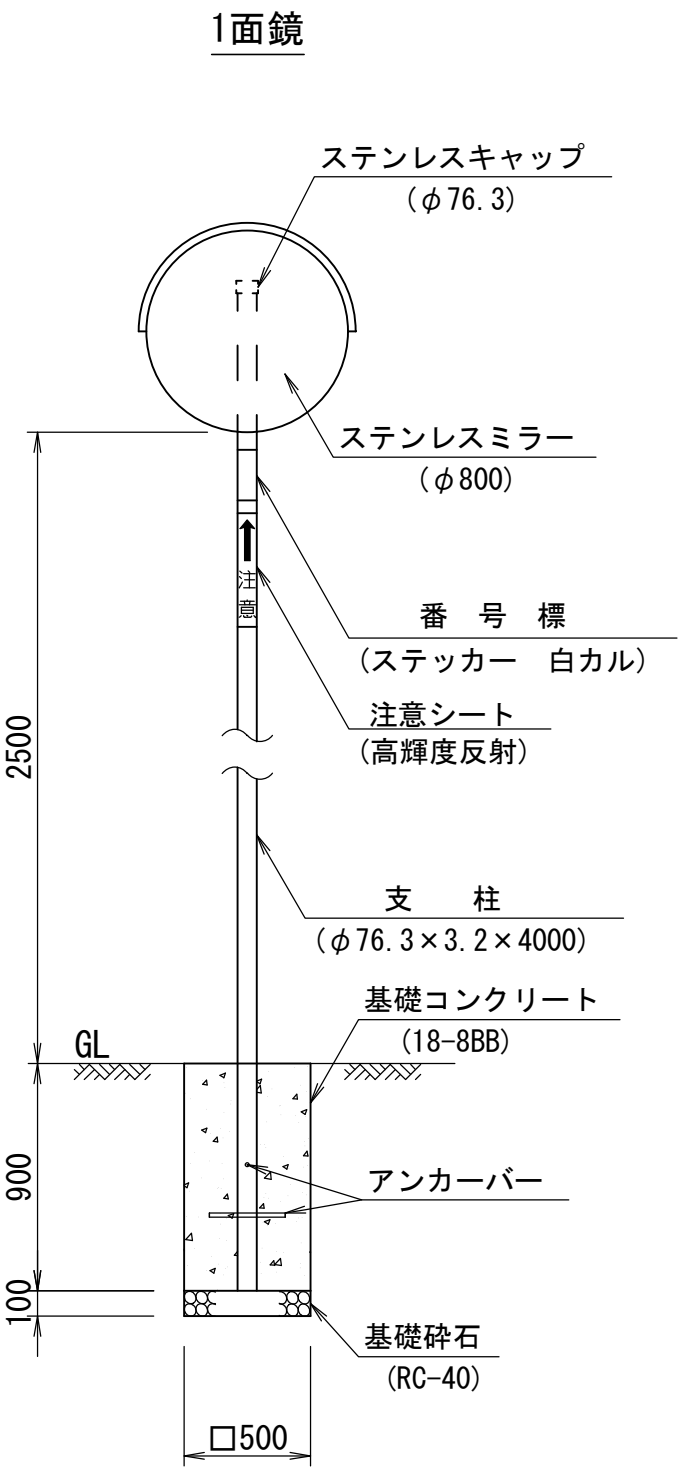
材料	道路反射鏡	基礎砕石	型枠	基礎コンクリート
	φ600	RC-40 t=100		18-8BB
形状・寸法	(面)	(m2)	(m2)	(m3)
1面鏡	10.0	2.5	12.0	1.5
2面鏡	20.0	2.5	14.0	1.8

材料表(2) (10基当り)

材料	支柱	ステンレスキャップ	道路反射鏡取付金具	注意シート	番号標
	(本)	(個)	(組)	(枚)	(枚)
1面鏡	10.0	10.0	—	10.0	10.0
2面鏡	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0

- 〈注意事項〉
- (1) 型枠については、4面に設置することを想定し、数量を算出している。これにより難しい場合は別途計算を行うこと。
- (2) 狭い幅員の道路において、道路端に側溝等がある場合は曲支柱を用いたり、路端側の余堀をなくし、鏡面が路端にくる様に考慮すること。

番号	大分類	中分類	小分類	工種名	作成年月
219	02	DH	003	道路反射鏡（φ800・未舗装）	R2.07
	交通安全施設類	道路反射鏡	道路反射鏡（φ800・未舗装）		S=1/30



材料表(1) (10基当り)

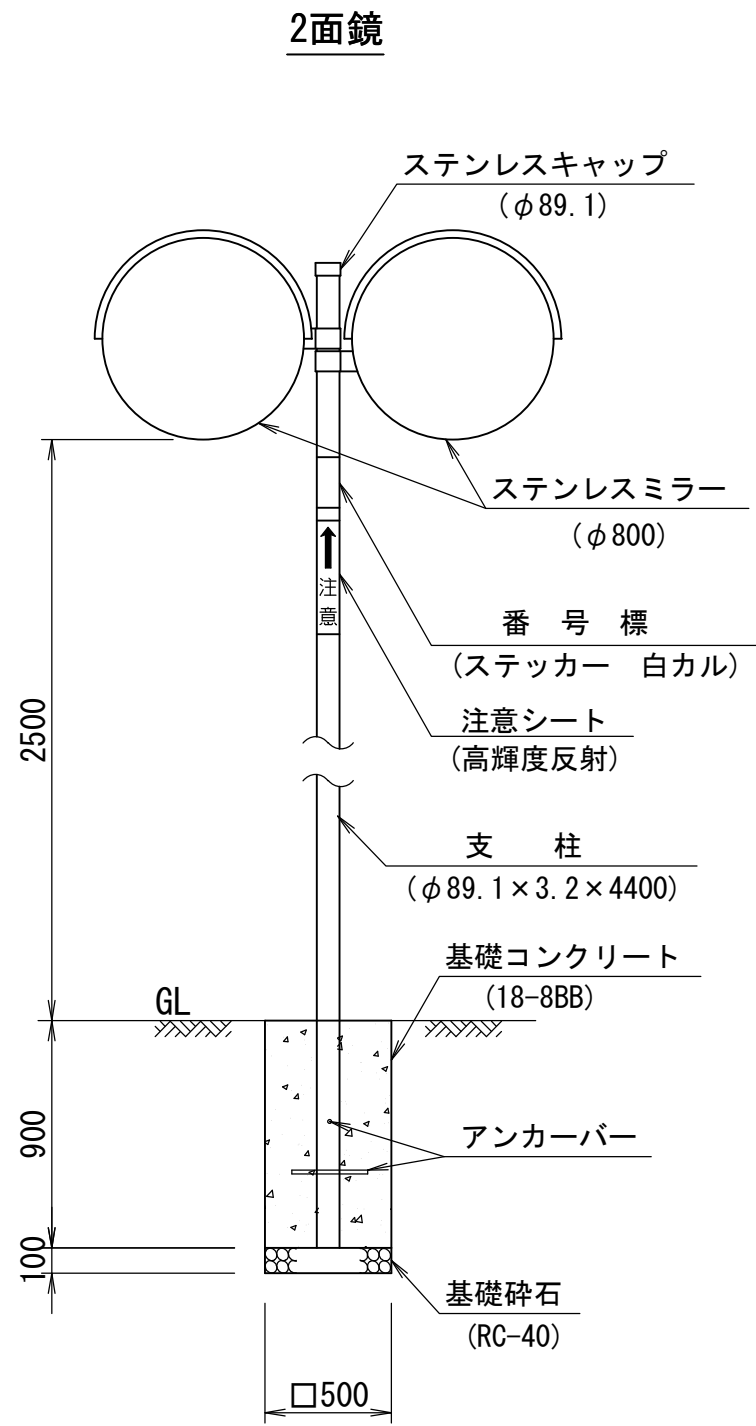
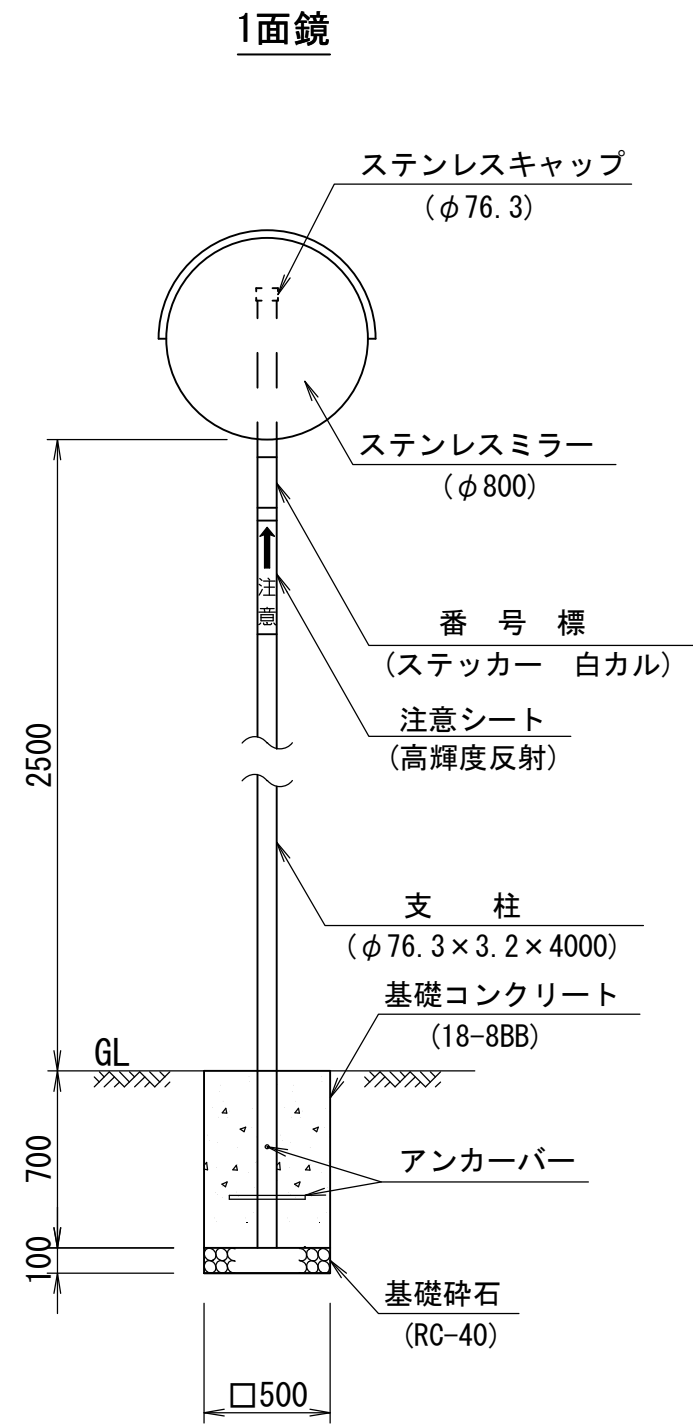
材料	道路反射鏡	基礎砕石	型枠	基礎コンクリート
φ800	RC-40 t=100		18-8BB	
形状・寸法	(面)	(m2)	(m2)	(m3)
1面鏡	10.0	2.5	18.0	2.3
2面鏡	20.0	2.5	24.0	3.0

材料表(2) (10基当り)

材料	支柱	ステンレスキャップ	道路反射鏡取付金具	注意シート	番号標
形状・寸法	(本)	(個)	(組)	(枚)	(枚)
1面鏡	10.0	10.0	—	10.0	10.0
2面鏡	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0

- 〈注意事項〉
- (1) 型枠については、4面に設置することを想定し、数量を算出している。これにより難しい場合は別途計算を行うこと。
 - (2) 狭い幅員の道路において、道路端に側溝等がある場合は曲支柱を用いたり、路端側の余堀をなくし、鏡面が路端にくる様に考慮すること。

番号	大分類	中分類	小分類	工種名	作成年月
220	02	DH	004	道路反射鏡（φ800・舗装）	R2.07
	交通安全施設類	道路反射鏡	道路反射鏡（φ800・舗装）		S=1/30



材料表 (1) (10基当り)

材料	道路反射鏡	基礎砕石	型枠	基礎コンクリート
φ800		RC-40 t=100		18-8BB
形状・寸法	(面)	(m2)	(m2)	(m3)
1面鏡	10.0	2.5	14.0	1.8
2面鏡	20.0	2.5	18.0	2.3

材料表 (2) (10基当り)

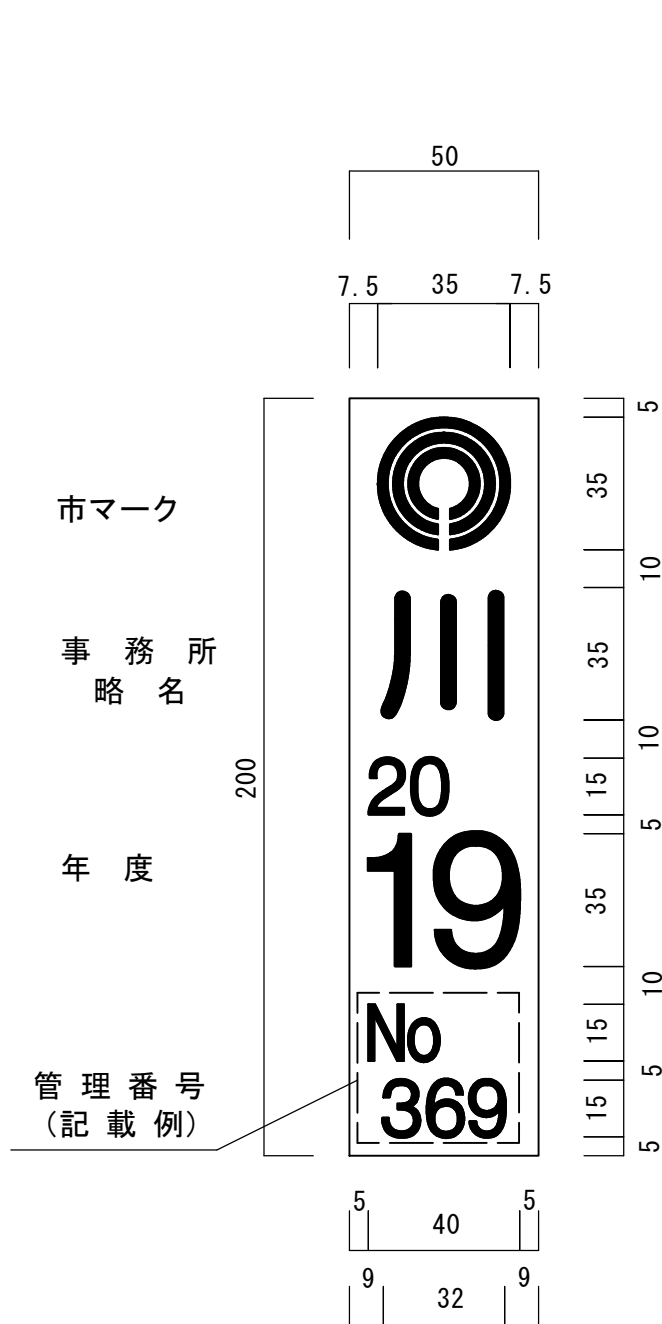
材料	支柱	ステンレスカップ	道路反射鏡取付金具	注意シート	番号標
形状・寸法	(本)	(個)	(組)	(枚)	(枚)
1面鏡	10.0	10.0	—	10.0	10.0
2面鏡	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0

- 〈注意事項〉
- (1) 型枠については、4面に設置することを想定し、数量を算出している。これにより難しい場合は別途計算を行うこと。
 - (2) 狭い幅員の道路において、道路端に側溝等がある場合は曲支柱を用いたり、路端側の余堀をなくし、鏡面が路端にくる様に考慮すること。

番号	大分類	中分類	小分類	工種名	作成年月
221	02	DH	005	道路反射鏡番号標・注意シート	R2. 07
	交通安全施設類	道路反射鏡	道路反射鏡番号標・注意シート		S=図示

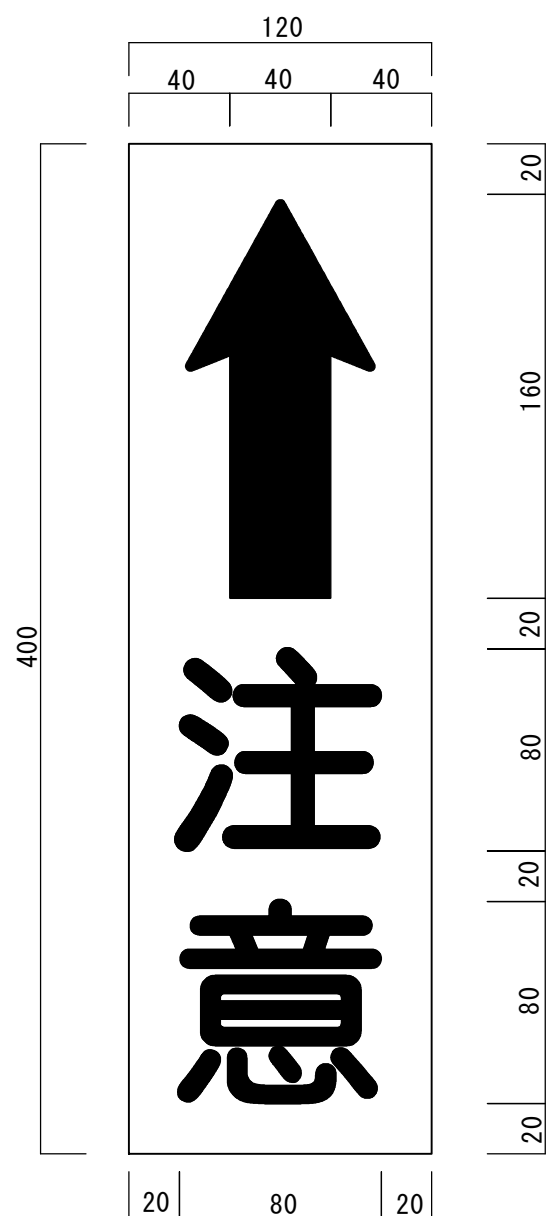
番号標 S=1/2

(ステッカー 白カル)



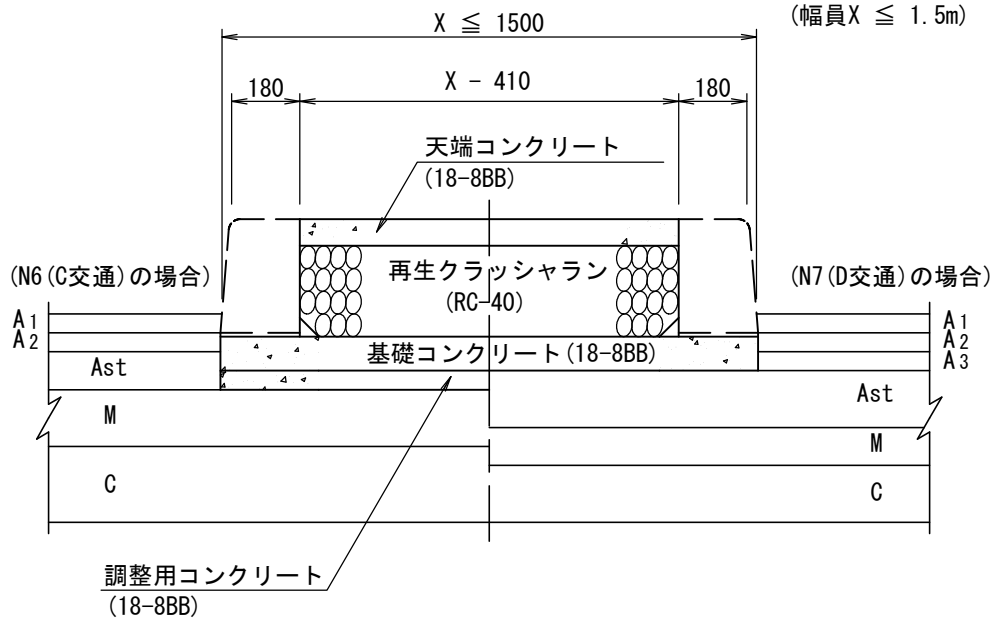
注意シート S=1/3

(高輝度反射)



番号	大分類	中分類	小分類	工種名	作成年月
222	02	CT	001	中央分離帯（植栽不可能な場合）	R2. 07
	交通安全施設類	中央分離帯	中央分離帯（植栽不可能な場合）		S=1/20

コンクリート工

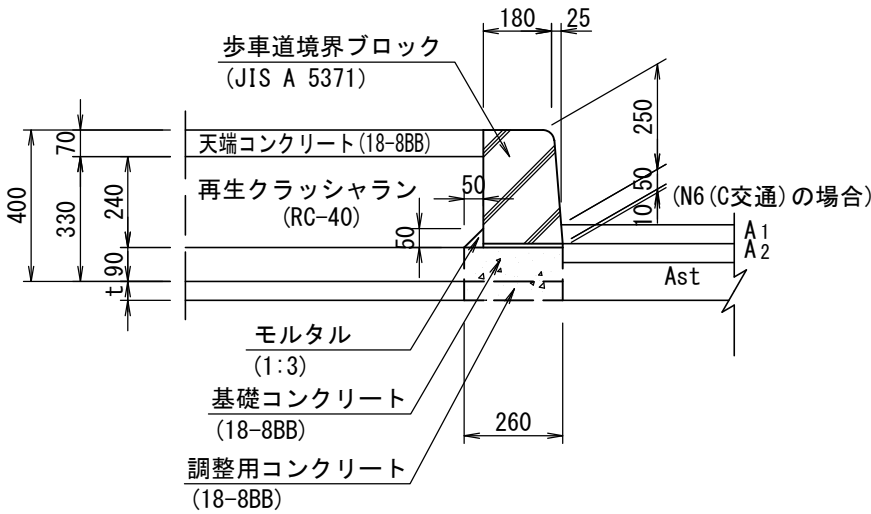


材料表（コンクリート工）

天端コンクリート	再生クラッシュラン	型枠	基礎コンクリート
18-8BB	RC-40		18-8BB
(m3)	(m3)	(m2)	(m3)
$0.07 \times A$	$0.24 \times A$	$L \times 0.09 \times 2$	$(A + 0.41 \times L) \times 0.09$

コンクリート打設面積：A (m2)
縁石延長：L (m)

路側工



材料表（路側工） (10m当り)

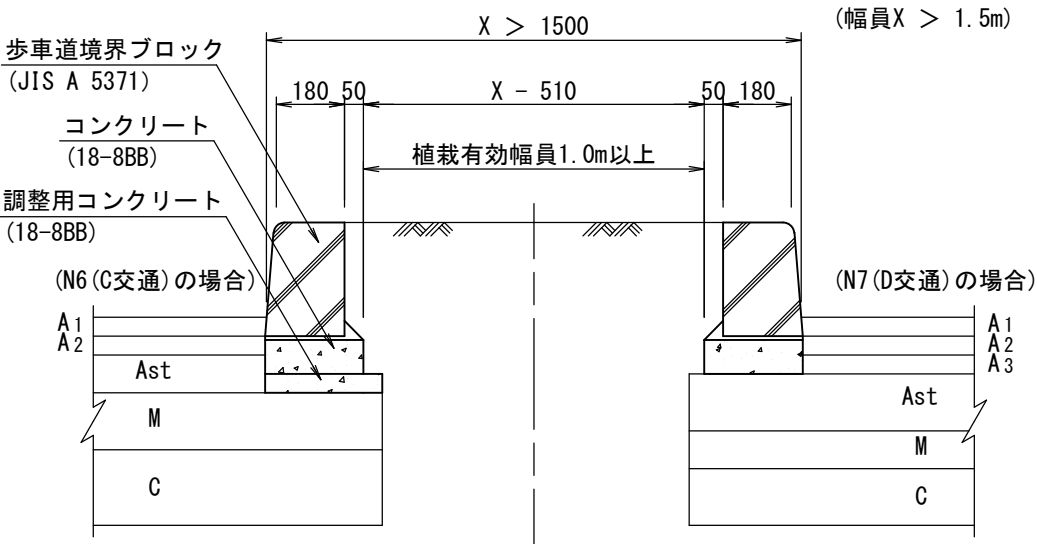
歩車道境界ブロック		モルタル
JIS A 5371		1 : 3
規格	(個)	(m3)
180/210 × 300 × 600	16.5	0.03

＜注意事項＞

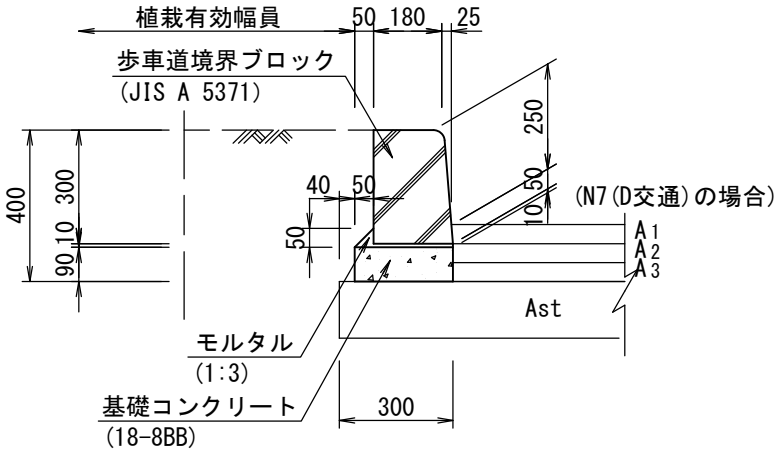
(1) 調整用コンクリートを必要とする場合は、コンクリート型枠（均し型枠）の材料を別途計上すること。

番号	大分類	中分類	小分類	工種名	作成年月
223	02	CT	002	中央分離帯（植栽可能な場合）	R2. 07
	交通安全施設類	中央分離帯	中央分離帯（植栽可能な場合）		S=1/20

コンクリート工



路側工



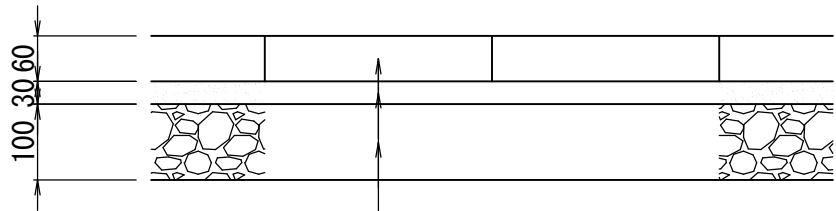
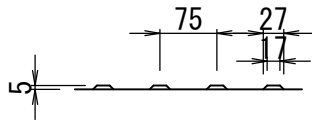
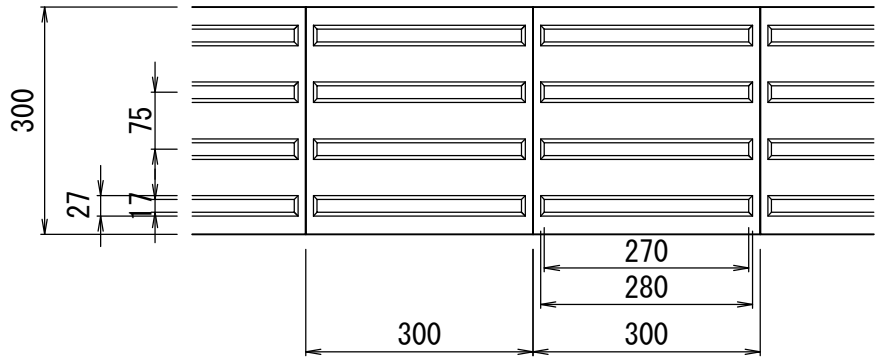
材料表 (10m当り)				
歩車道境界ブロック		型枠	基礎コンクリート	モルタル
JIS A 5371			18-8BB	1:3
規格	(個)	(m2)	(m3)	(m3)
180/210×300×600	16.5	1.8	0.23	0.03

＜注意事項＞
(1) 調整用コンクリートを必要とする場合は、コンクリート型枠（均し型枠）の材料を別途計上すること。

番号	大分類	中分類	小分類	工種名	作成年月
224	02	BH	001	視覚障害者誘導用ブロック	R5.04
	交通安全施設類	ブロック舗装	視覚障害者誘導用ブロック		S=1/10

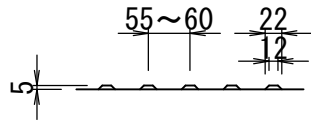
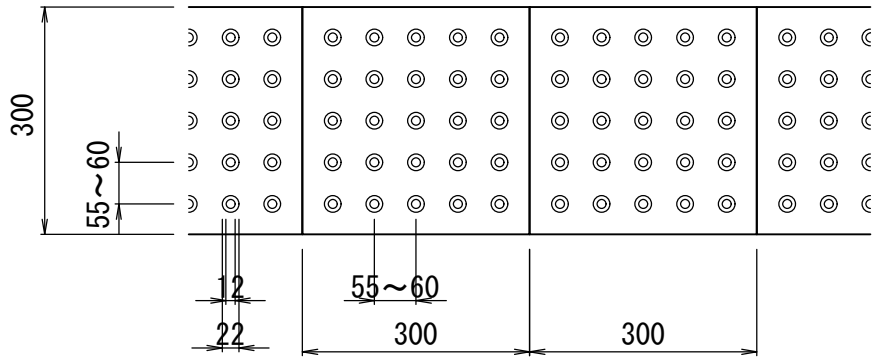
点字ブロック

線状ブロック



視覚障害者誘導用ブロック	t=60
敷砂	t=30
下層路盤	t=100

点状ブロック



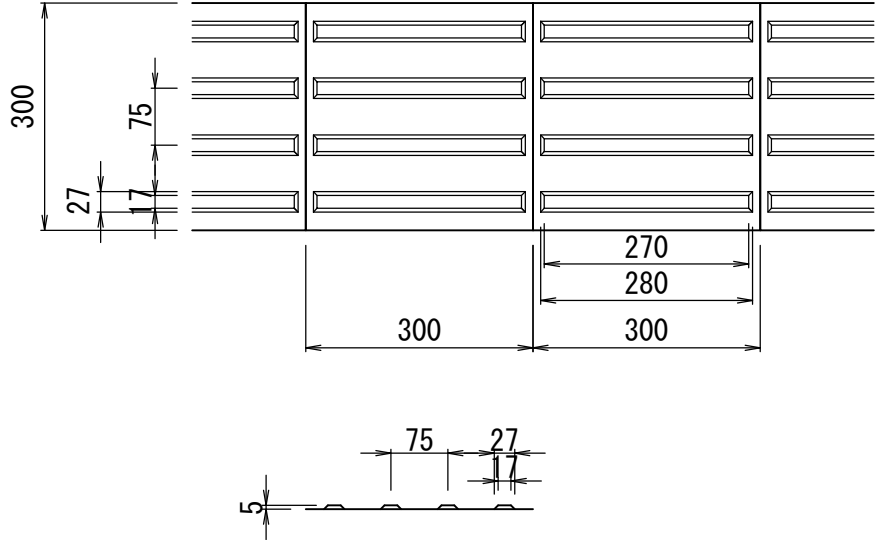
材料表 (100m²当り)

視覚障害者誘導用ブロック	敷砂	下層路盤
300×300×60	遮断層用砂 t=30	RC-40 t=100
(m ²)	(m ²)	(m ²)
100.0	100.0	100.0

- ＜視覚障害者誘導用ブロックの仕様・注意事項＞
- (1) 視覚障害者誘導用ブロックの色は、原則として黄色とするが、輝度比2.0程度が確保できるように配慮すること。
 - (2) 「川崎市福祉のまちづくり条例整備マニュアル」に準拠すること。
 - (3) 「高齢者・障害者配慮設計指針－視覚障害者誘導用ブロック等の突起の形状・寸法及びその配列、JIS T 9251:2014」に準拠すること。

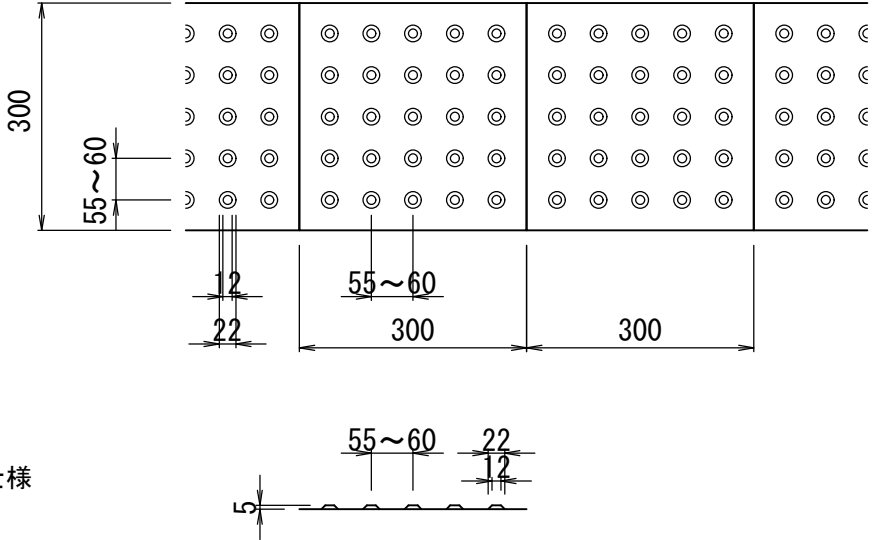
番号	大分類	中分類	小分類	工種名	作成年月
225	02	BH	002	視覚障害者誘導用ブロック	R5.04
	交通安全施設類	ブロック舗装	視覚障害者誘導用ブロック（参考図）		S=1/10

線状ブロック



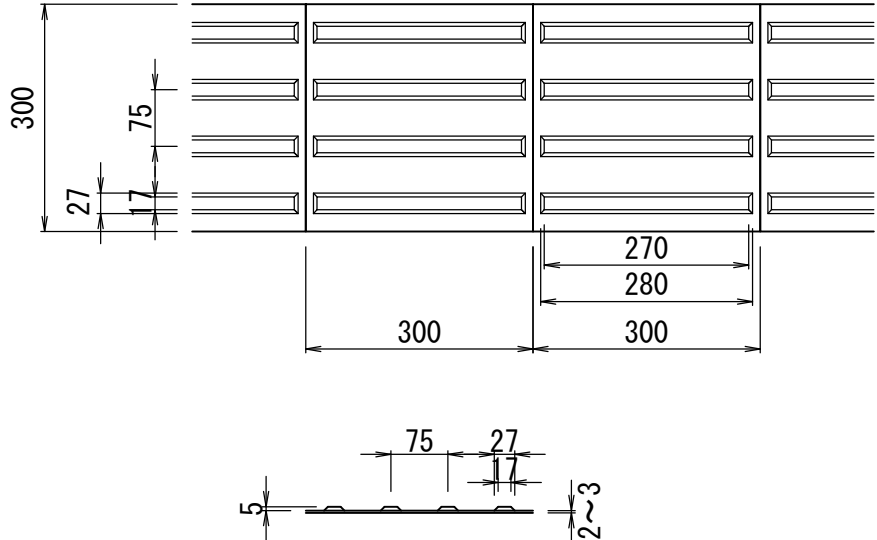
点字ブロック
型枠敷設式

点状ブロック



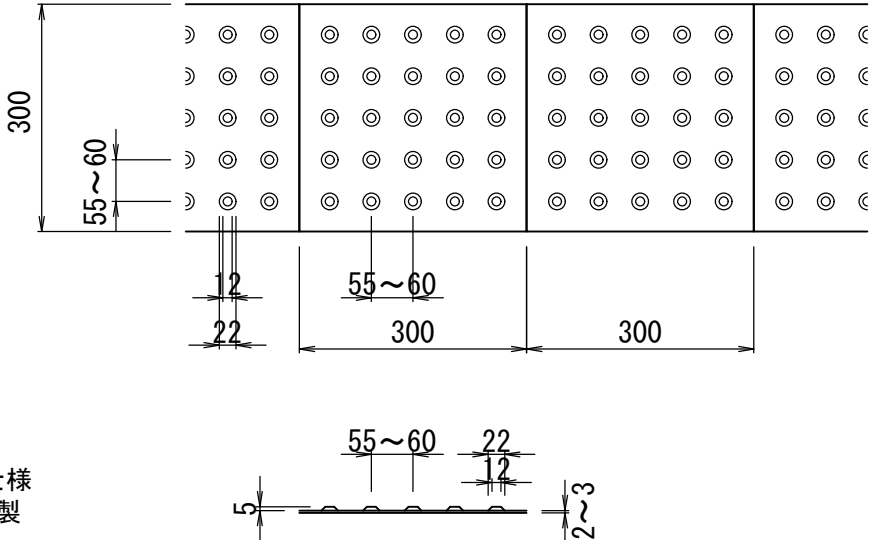
※点字ブロック（型枠敷設式）仕様
・熱可塑性樹脂

線状シート



点字シート
シート貼付式

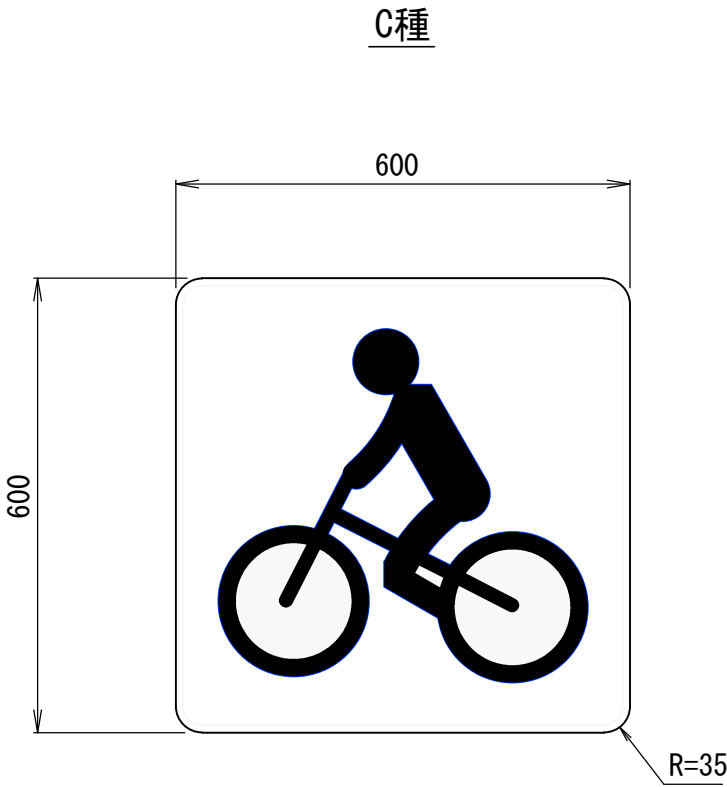
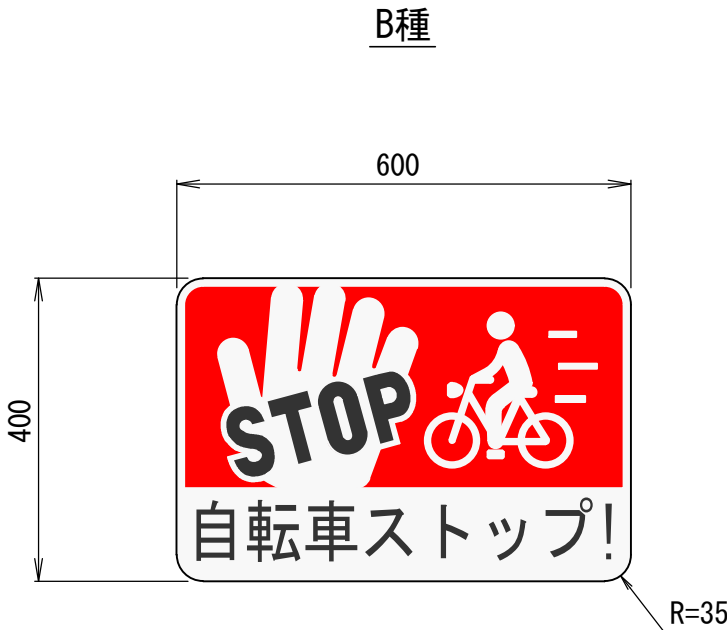
点状シート



※点字シート（シート貼付式）仕様
・MMA（メタクリル酸メチル）樹脂製

- 〈視覚障害者誘導用ブロックの仕様・注意事項〉
- (1) 視覚障害者誘導用ブロックの色は、原則として黄色とするが、輝度比2.0程度が確保できるように配慮すること。
 - (2) 「川崎市福祉のまちづくり条例整備マニュアル」に準拠すること。
 - (3) 「高齢者・障害者配慮設計指針－視覚障害者誘導用ブロック等の突起の形状・寸法及びその配列、JIS T 9251:2014」に準拠すること。

番号	大分類	中分類	小分類	工種名	作成年月
226	02	RS	001	路面注意喚起シール	R6.04
	交通安全施設類	路面シール	路面注意喚起シール設置（A種・B種・C種）		S=1/10



材料表 (10枚当り)

形状・寸法	材料	路面注意喚起シール	
		規格	(枚)
A種		900×600	10.0
B種		400×600	10.0
C種		600×600	10.0

〈仕様〉
(1)材質：合成ゴム系樹脂

〈注意事項〉
(1)壁面、階段の立ち上がり（垂直面）に施工する場合は別途考慮すること。
(2)表示内容は一例であるため、事前に発注者と協議すること。

番号	大分類	中分類	小分類	工種名	作成年月
227	02	JM	001	矢羽根・自転車ナビマーク	R7.04
	交通安全施設類	自転車マーク	矢羽根・自転車ナビマーク		S=1/30

矢羽根

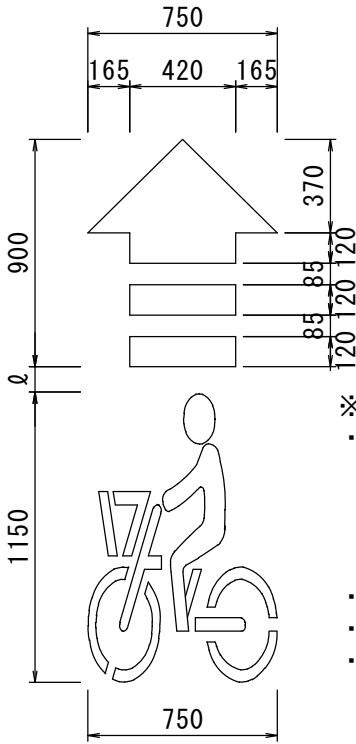
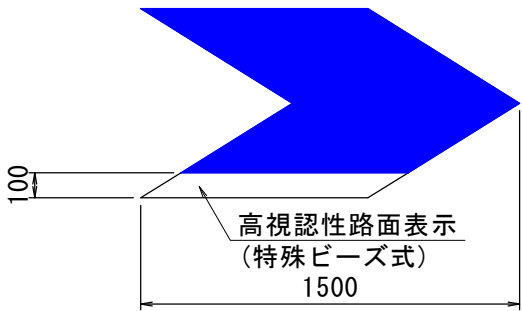
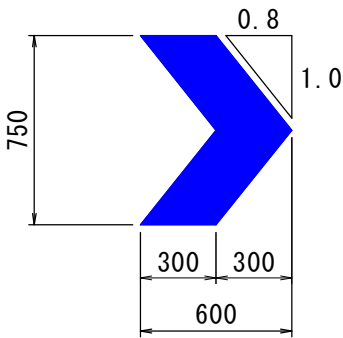
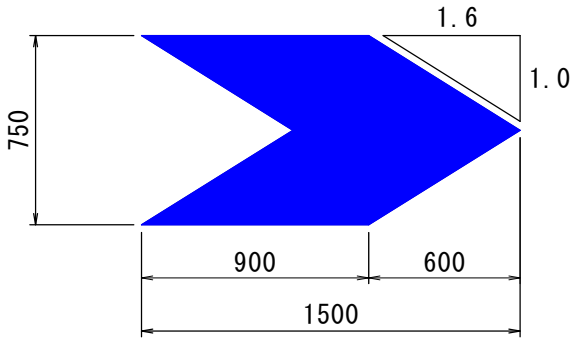
自転車ナビマーク

標準仕様

縮小型

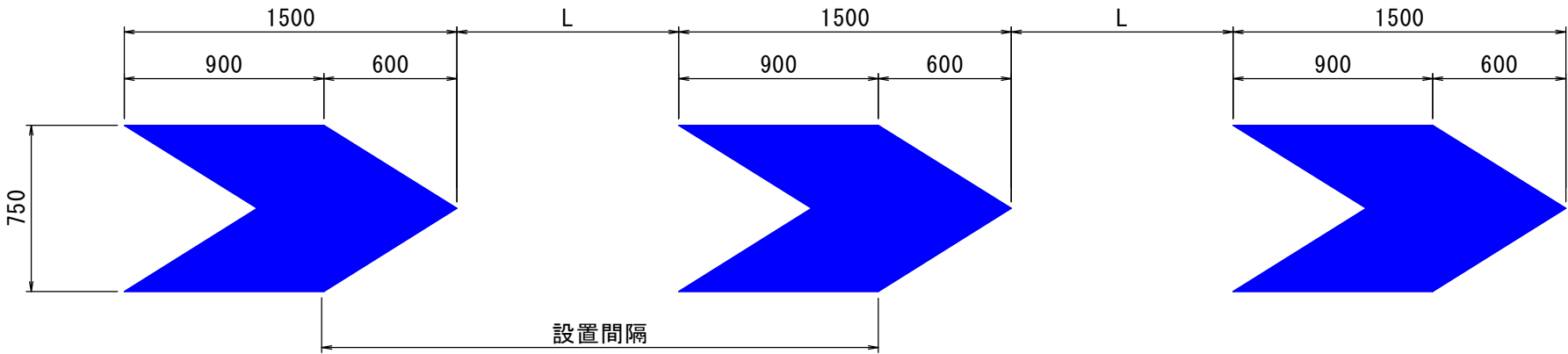
夜間の視認性を向上させる場合

標準仕様



- ※自転車ナビマーク仕様等
- ・自転車の図柄は、自転車の進行方向に対して左向きとし、進行方向を示す矢印と組み合わせた状態で一つのピクトグラムとして用いることを標準とする。
 - ・自転車ナビマーク色彩は白色とする。
 - ・ $Q=100\sim200$
 - ・信号交差点の前後等、自転車の通行位置であること、自転車の進行方向を知らしめる必要がある箇所に設置する。

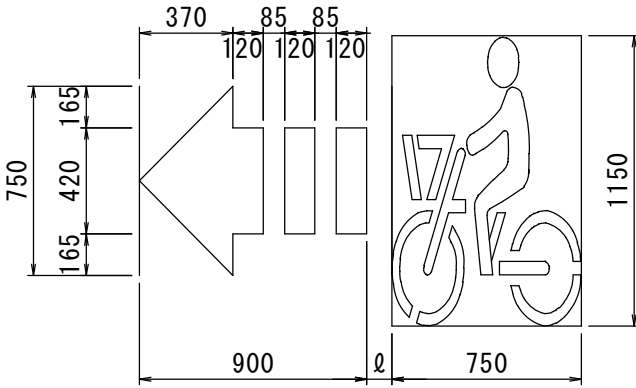
矢羽根詳細図



設置間隔 2.5m : $L=1,000\text{mm}$ (箇所)
設置間隔 5.0m : $L=3,500\text{mm}$ (箇所)
設置間隔10.0m : $L=8,500\text{mm}$ (箇所)

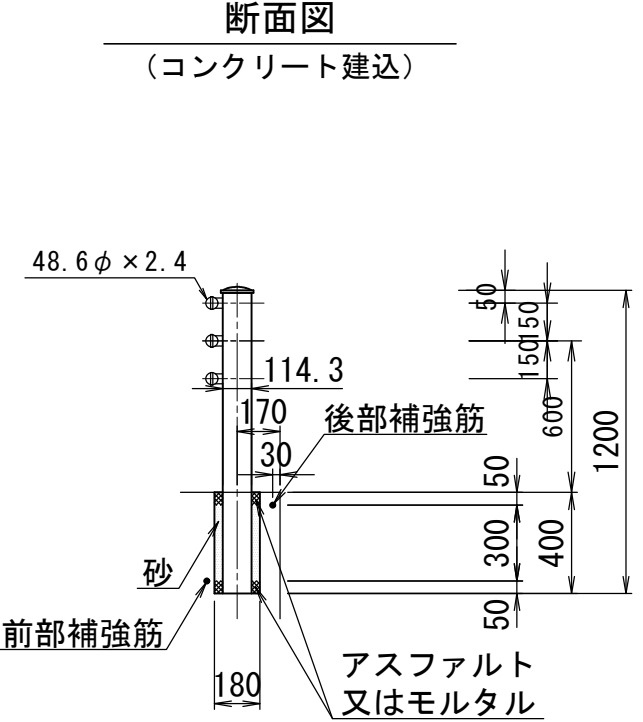
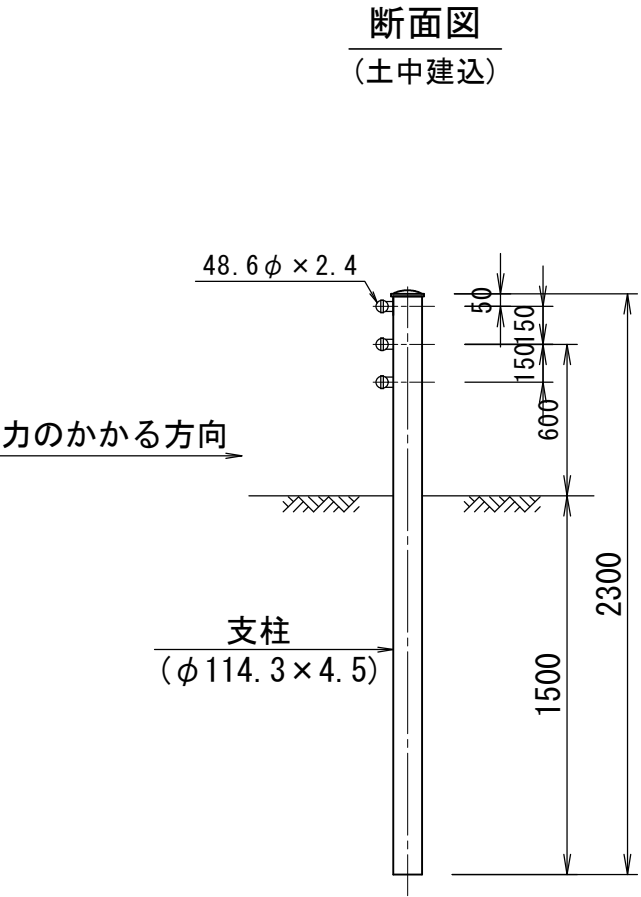
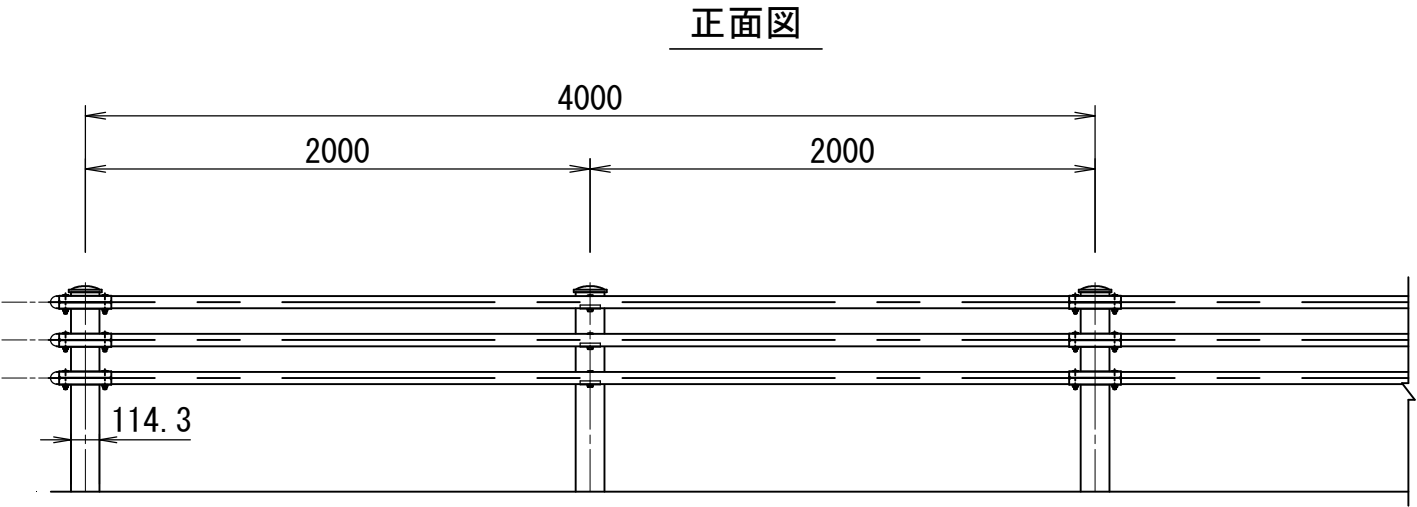
- ※設置間隔
- 交差点内や自動車と自転車の交錯に特に注意すべき箇所においては、2.5mを標準とし最大5.0mまでの間隔で、単路においては、概ね10.0m間隔での設置を基本とする。

細街路との交差点等に設置する場合

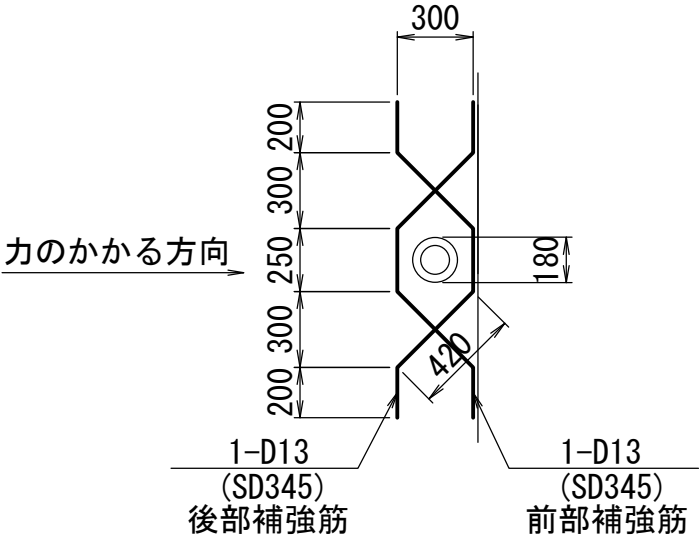


※細街路側の自動車運転者の目線正面に設置する場合

番号	大分類	中分類	小分類	工種名	作成年月
228	02	GP	001	ガードパイプ（B種・土中建込/コンクリート建込）	R6.04
	交通安全施設類	ガードパイプ	ガードパイプ（B種）（参考図）		S=1/30



補強筋配筋図



材料表（100m当り）

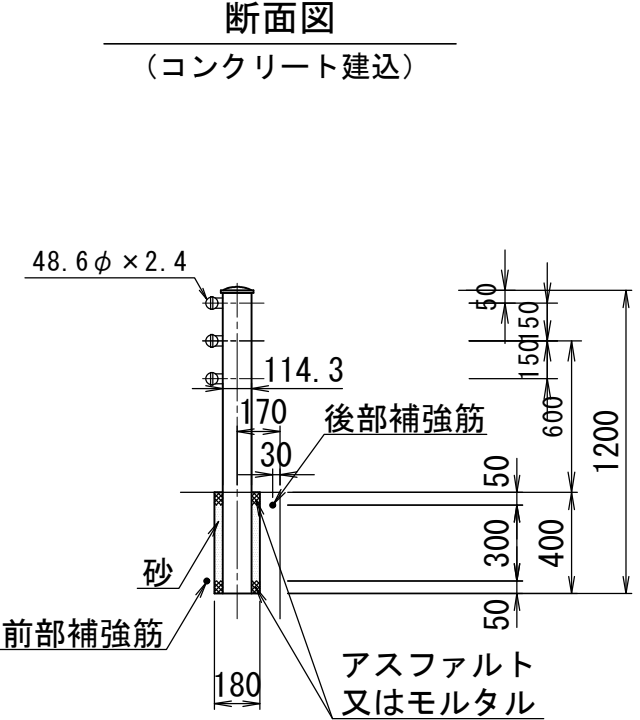
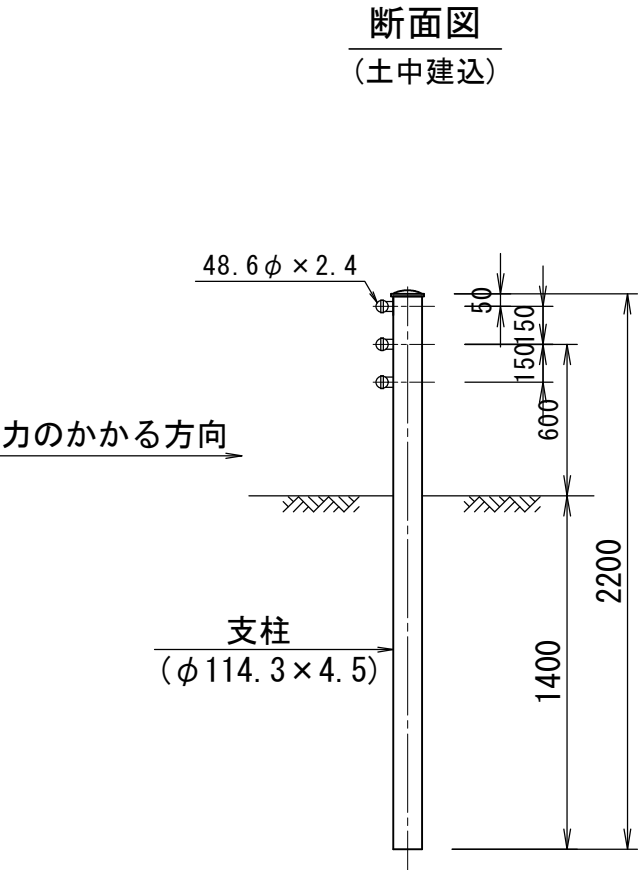
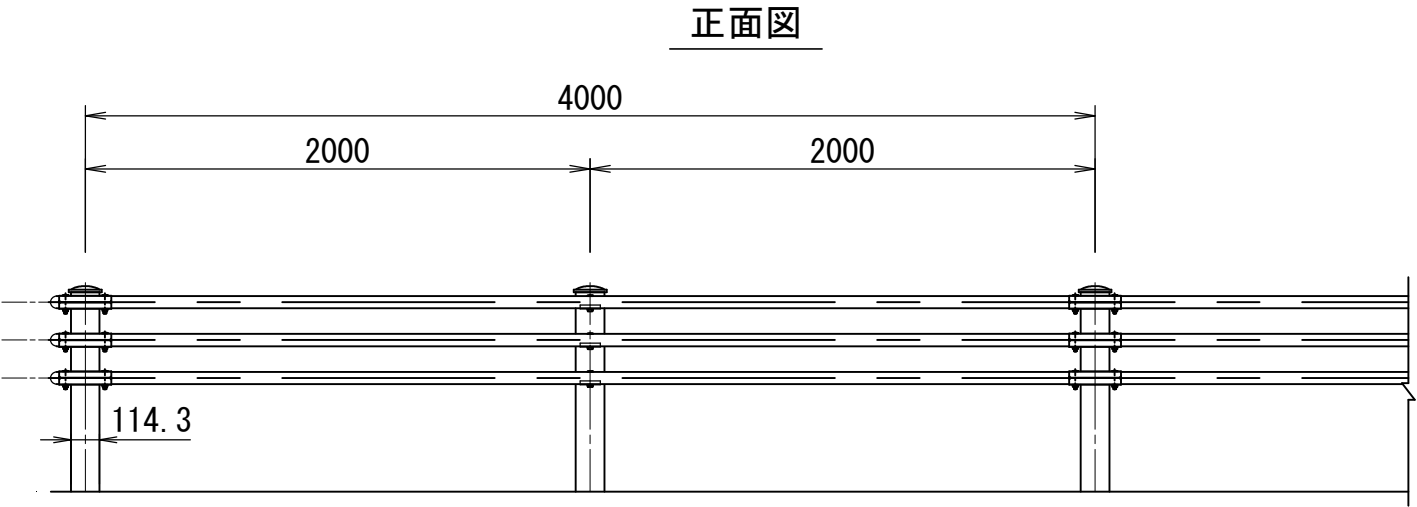
ガードパイプ(B種)
Gp-Bp-2E(土中建込)
Gp-Bp-2B(コンクリート建込)
(m)
100.0

- 〈仕様〉
- (1) 色については設計図書等で指定がある場合を除き「公共空間景観形成ガイドライン」による。
 - (2) 詳細な規格、色等は、監督員との協議により決定すること。

- 〈適用条件〉
- (1) 防護柵の設置場所、種別及び型式の選定については、「防護柵の設置基準・同解説((社)日本道路協会)」および「車両用防護柵標準仕様・同解説((社)日本道路協会)」による。

- 〈注意事項〉
- (1) ビーム中心高さは、GLからの高さをいう。
ただし、縁石、アスカーブ等のある場合は、その上端からの高さをいう。

番号	大分類	中分類	小分類	工種名	作成年月
229	02	GP	002	ガードパイプ（C種・土中建込/コンクリート建込）	R6.04
	交通安全施設類	ガードパイプ	ガードパイプ（C種）（参考図）		S=1/30



材料表（100m当り）

ガードパイプ(C種)
Gp-Cp-2E(土中建込)
Gp-Cp-2B(コンクリート建込)
(m)
100.0

- 〈仕様〉
- 色については設計図書等で指定がある場合を除き「公共空間景観形成ガイドライン」による。
 - 詳細な規格、色等は、監督員との協議により決定すること。
- 〈適用条件〉
- 防護柵の設置場所、種別及び型式の選定については、「防護柵の設置基準・同解説（（社）日本道路協会）」および「車両用防護柵標準仕様・同解説（（社）日本道路協会）」による。
- 〈注意事項〉
- ビーム中心高さは、GLからの高さをいう。
ただし、縁石、アスカーブ等のある場合は、その上端からの高さをいう。

